Vol.66通巻758号

昭和60年5月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建　築　と　社　会

ARCHITECTURE AND SOCIETY 1985 5

特集●ホール―それが生みだす文化



日本建築協会



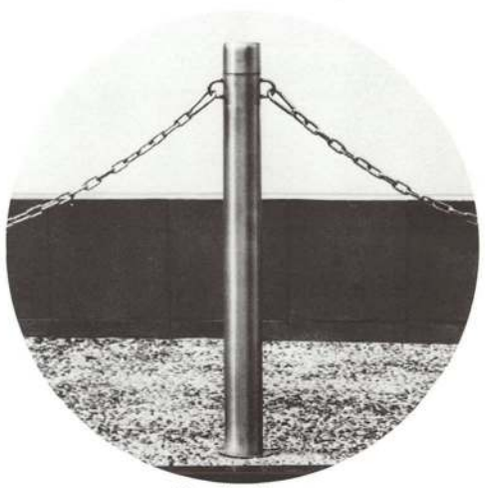
美しくガードするために ユニオン エキスポール® 車止



ペリメイト Design pat.



ファントム Design pat.



サーキット pat.

UNION 株式会社 ユニオン

●本社――大阪市西区南堀江2-13-22 〒550 ☎06(532)3731㊫ FAX06(533)3747
●東京営業所――東京都墨田区石原4-3-1 〒130 ☎03(625)8131㊫ FAX03(625)8585
●名古屋営業所―名古屋市東区筒井町1-14-9 〒461 ☎052(935)6021㊫ FAX052(935)6023
●虎ノ門ショールーム―東京都港区虎ノ門1-26-5 〒105 ☎03(508)2558㊫ FAX03(595)2589

⊙下記催しの締切日が迫っております。至急お申込み下さい。

◀北野阪急ビル新築工事の見学

ひとつのビルの出現によって、人の流れが変わり、街にまた新たな賑いを与えたりしますが、今回見学しますこの北野阪急ビルは、まさにそのような予感に満ちたビルといえます。

大阪は北梅田の一画にまもなく誕生するこの北野阪急ビル。高層部にホテル、低層部には飲食レジャー施設を有し、都会の夜にまたひとつのたのしみを与えてくれています。また、建物の特徴ともなっている大きく外部に開いた吹抜空間や、電車軌道に対してのアピールを考慮した流動的な水平のデザインと柔らかな表情をもつ外観には、思わず道行く人の視線も奪われるのではないでしょうか。

キタの更なる賑いを考え、斬新な都市空間を提案した北野阪急ビル。今回は阪急電鉄株式会社のご厚意と㈱竹中工務店・鹿島建設㈱共同企業体のご協力により、オープン前のご繁忙中ですが特に見学させていただくことになりました。

多数のご参加をお待ちします。

日　時　6月 7日（金）　集合14：00→解散16：00
集合場所　北野阪急ビル、国道176号線側の入口付近・目標会旗
定　員　40名
参加会費　会　員 500円／会員外 800円　当日受付にていただきます。
申　込　今回は、会誌発行の都合により電話にて申込受付をいたします。
6月3日㈫までに氏名・勤務先名・連絡電話番号・参加証送付先・会員・会員外の区別をお知らせ下さい。定員超過の場合は抽せんにて決定の上、参加証をお送りします。（日本建築協会事業課 TEL06－348－0633）

建築概要

所在地	大阪市北区芝田1丁目8番1号
建築主	阪急電鉄株式会社
設計	株式会社竹中工務店
計画・監理	阪急電鉄株式会社
施工	㈱竹中工務店・鹿島建設㈱　共同企業体
構造規模	SRC造、地下2階、地上17階、塔屋3階
敷地面積	4,514.74㎡
建築面積	3,230.72㎡
延床面積	28,846.10㎡
軒高	57,800m
ホテル客室数	302室（シングル274室、ツイン20室、ダブル8室）
用途	ホテル・飲食店舗・ヘルスクラブ
工期	昭和58年1月→昭和60年7月



◀オーク・ヴィレッジの人びとを囲んで —その2—

------住まいのイメージとイメージのすまい------



飛騨の春は遅いといいます。飛騨には四季の移ろいがあります。ここに生活を営む人々にも自然とともに移ろいがあります。

オーク・ヴィレッジも岐阜県高山近くの清見村に拠をかまえて早や10年を経過しようとしていますが、彼らは、その自然豊かなところで、自らの手や足や体を動かし、〝ものづくり〟を通しての肉体活動と、人間の知・情・意の総合体といわれる精神活動とのバランスの中で、現代の文明に押しつぶされないための新たな人間復興（ネオ・ルネッサンス）を目ざされています。そして、「建物から椀まで一つのポリシーで」のスローガンの基に、不断の〝ものづくり〟をつづけられ、今や30人近くのメンバーでヴィレッジが構成されています。

昨年はじめて、このオーク・ヴィレッジの代表者の稲本正氏と佃正寿氏をお招きし、「モノ」づくり、「村」づくりのお話を伺いましたが、今回も、おふたりの御好意により再びお話を伺う機会を得ることができました。

今回は、「木と人間」をもとに、人間が住む器＝「住まい」の話を中心に関西の若手建築家をまじえ、熱気ある交流をしたいと思います。ふるってのご参加をお待ちします。

日　時　6月 7日㈮　開会18：30→閉会20：50
会　場　日本建築協会・ラウンジ（大阪駅前第3ビル・21階）
（大阪市北区梅田1－1－3－2100 TEL06－348－0635㈹）
ただし、国鉄大阪駅、阪急・阪神梅田駅より徒歩5～10分。
または、地下鉄御堂筋線梅田駅・谷町線東梅田駅より徒歩5～8分。
ゲスト　「オークヴィレッジの人びと」
代表　稲本　正氏ほか2～3名
定　員　40名
参加会費　会　員　900円／会員外 1,300円　当日受付にていただきます。
申　込　電話受付。日本建築協会事業課（TEL06－348－0633）まで氏名・年令・勤務先名（学校名）・連絡電話番号・参加証送付先・会員、会員外の区別をお知らせ下さい。締切6月3日㈪。ただし、定員超過の場合は抽せんにて決定の上、参加証をお送りします。

オーク・ヴィレッジの創作展が下記期間中、梅田・阪急百貨店にて開催されます。多数ご観覧下さい。
「'85オーク・ヴィレッジ作品展示即売会—木は生きている—」
● 日時　6月7日㈮→12日㈬ 10：00→18：00　於阪急百貨店家具売場

◀通常総会開催通知

昭和60年度第１回通常総会を下記のとおり開催いたしますので、何卒ご出席下さいますようお願い申し上げます。

社団法人　日本建築協会
会長　佐　野　正　一

記

と　き　昭和60年 6 月26日(水)　午後５時30分～６時
ところ　社団法人　日本建築協会
大阪市北区梅田１丁目１番３－2100
大阪駅前第３ビル21階
ぎだい　１．昭和59年度　事業報告承認の件
２．昭和59年度　決算報告承認の件
３．昭和60年度　事業計画承認の件
４．昭和60年度　収支予算承認の件

◀会員の受賞

このたび下記会員の方々がそれぞれ表彰を受けられましたので、ここに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

記

勲四等瑞宝章　浦辺鎮太郎 氏　(浦辺建築事務所会長)
〃　〃　村上　二郎 氏　(サンエス石膏社長)
勲五等双光旭日章　網野　栄 氏　(研文社社長)
〃　瑞宝章　河内　義就 氏　(河内義就設計事務所社長)
藍綬褒章　佐野　正一 氏　(安井建築設計事務所社長)
大阪府知事表彰　井上　司郎 氏　(松村組副社長)
〃　橘　泰治 氏　(東邦パーライト社長)

●お知らせ

西沢文隆・芸術院賞受賞と祝賀会

西沢文隆氏（坂倉建築研究所）が、このたび昭和59年度の芸術院賞を受賞されました。まことに喜ばしいことです。

来る６月25日には、ホテルプラザにて、〝西沢文隆さんを祝う会〟が、代表発起人・佐野正一氏らで開催されることになっています。

◀新幹線大阪―東京乗車券割安頒布

会員サービスの一環として、上記乗車券を割安価格にて販売いたしていますので、ぜひご利用下さい。お申込は日本建築協会事務局（電06－348－0635)。　土曜・日曜は休み。

なお、下記料金より往復で普通、グリーン車共800円安い旧料金の切符も少し用意しておりますので先着順でお頒けいたします。使用期間は７月15日まで。

60年４月20日以降

	本会頒価	駅売価格
普通車往復	**22,400**円	25,200円
グリーン車往復	**27,800**円	35,000円

◀新入会者ご斡旋お願い

本会は大正６年３月創立以来、建築法規の法制化に努めたほか、わが国初の住宅博覧会の開催、四会連合工事請負契約約款の制定など、今日に至るまで、建築界をリードするとともに、一般社会との結びつきを深めてまいりました。

また、建築界の総合団体として常に建築関係各部門の連繋と調整に当たり、相互の親睦、共存共栄に意を注ぎ、会誌「**建築と社会**」の発行や、朝食会、懇親会の実施、実務に直結した諸種の事業活動を行っております。

つきましては、２年後に創立70周年を迎えるに当たり、会員倍加運動を展開して会勢をはかることになりましたので、新入会者のご斡旋をお願い申し上げたく、何卒特別のご高配をお願い申し上げます。事務局への電話番号は06－348－0635です。

寄付金の受領

このたび、二葉屋装備㈱代表取締役若林利子氏より、故若林繁吉氏名儀で一金壱百萬圓のご寄付を頂戴いたしました。ここに誌して厚く御礼申し上げます。

■ニュース

快適環境府民会議開催

「つくろう 我がまちアメニティ」 ―自然と歴史を生かしたまちづくり

大阪の自然や歴史に目を向け、地域における長い歴史や自然の風土を町づくりの中で生かしていく大阪の快適な環境づくりについて広く大阪府民が共に考え、語り合い、そして知恵やアイデアを出し合う場として、快適環境府民会議が大阪府の主催で開催されます。

日　時：昭和60年 6 月18 日(火)　13：30～17：00
場　所：藤井寺市民総合会館大ホール
参加者：1,000人(一般府民・各行政機関・関係各種団体等)
参加料：無料
募集締切：昭和60年６月10日まで
申　込：ハガキに「快適環境府民会議参加希望」と書き、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記して大阪府生活環境部公害対策課(〒540 大阪市東区大手前之町 TEL 06－941－0351)へ申し込む。

――プログラム――

総合司会　端　信行(国立民族学博物館助教授)
●基調講演「住まいと環境」
清家 清(建築家・東京芸術大学教授美術学部長)
●事例報告
大阪府内１　美原町さつき野の緑を生かした町づくり
府　外１　近江八幡の水と歴史を生かした町づくり
●パネルディスカッション
藤本浩之輔(京都大学助教授)
久保作美(シティー・ジャーナル代表)
和多田勝(エッセイスト)
クレーア・ガリアン(建築家・仏人)
林野全孝(京都府立大学教授)

「第14回 CGフォーラム」IN OSAKA

日　時：1985年 7 月15 日(月)午後１時30分～4時
場　所：日本経済新聞社〔大阪本社〕８階大会議室
〒540　大阪市東区京橋前之町1-1
TEL 06－943－7111
テーマ：「環境設計とコンピューター・グラフィックス(CG)」―大阪・京都・神戸・東京・パリと各都市の都市環境設計をCGで紹介―
講　師：笹田剛史(大阪大学工学部助教授)
司　会：松岡進士郎(大林組電算センター所長)
協　賛：社団法人日本建築学会
受講料：主催協議会会員/無料
非会員/5,000円
日本建築学会会員・一般学生/1,000円
申込先：日本コンピューター・グラフィックス協議会
〒101東京都千代田区神田1-5-4ミヤコビル１階
TEL 03－233－3475

1917創刊
1985
第66集

5 通巻758

建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

特集●ホールーそれが生みだす文化

SPECIAL FEATURES ON HALL AND CULTURE

北野阪急ビル新築工事の見学．オーク・ヴィレッジの人びとを囲んで－その２－．通常総会開催通知．会員の受賞．西沢文隆・芸術院賞受賞と祝賀会．寄附金の受領．お知らせ－快適環境府民会議．「第14回ＣＧフォーラム」 ＩＮ ＯＳＡＫＡ …… 1
海星学園シャミナード寮(長崎市)…… 4
日商岩井光善寺クラブ・光善寺寮……設計監理：東畑建築事務所　施工：大林組・清水建設共同企業体…． 6
エリモビル……設計監理：小河建築設計事務所　施工：不動建設　ＰＣ施工：フドウ建研… 9
最近竣工した新建築９点(No.1855～1863)…… 8
新風営法と建築基準法との関連(その２)／鈴木博文 …… 11
常温硬化型フッ素樹脂塗料「ライフロン＃100」／尾松一夫 …… 12
この人－三浦栄次郎・良雄・道雄／小林正純．マイ・フォトー看板ひとつでも〈西ドイツ〉／赤井富弘…… 14
甦った兵庫県旧南庁舎．市立近代美術館のシンポジウム．「全国町並みゼミ」．「わが街おおかさフォーラム」．「パース・プラス」開催． …… 15
中嶋龍彦(中島龍彦建築事務所)氏を訪ねる／本多友常…… 17
眩暈瞑想－中嶋龍彦と四天王寺和光館／加藤力…… 18
受託試験について…… 19
ユーザー参加のすまいづくりーグループ分譲住宅制度－／藤野邦夫…… 20
高齢化社会を迎えて－混住には間を／荒木兵一郎．チームワーク／森内盛一郎
残り／瀧光夫．快適な街づくりへの配慮／藤縄正俊…… 22
楽屋は誰のもの!!／大野一男．舞台床は竪貼り？／松山新．ホールのワープ感覚／橋本健治．
感劇／谷浩輔．こけら落とし／谷浩輔 …… 24

ホールーそれが生みだす文化

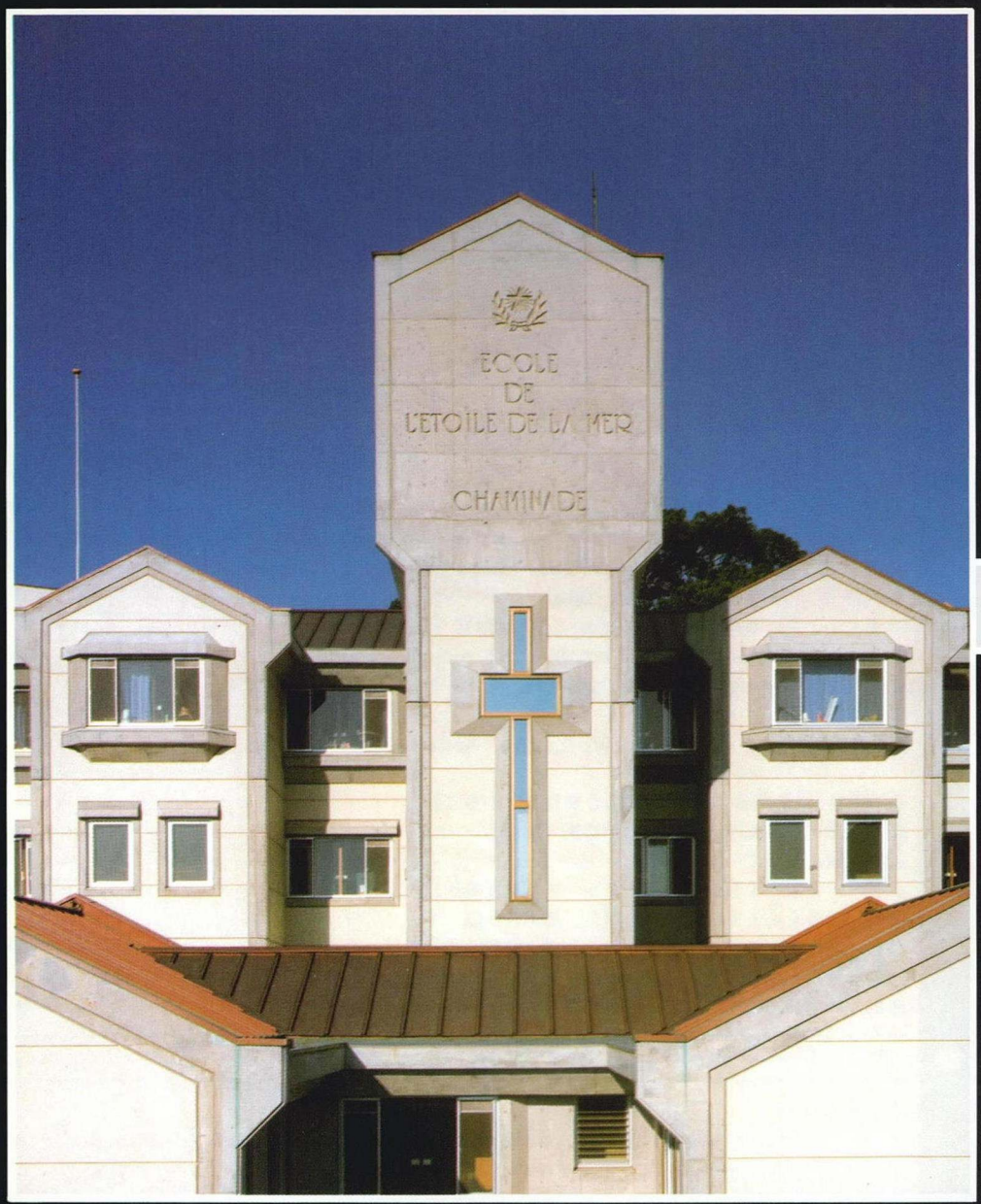
インタビュー
ホールーそれが生みだす文化ー　朝日放送代表取締役会長・原清／インタビュアー・寺本敏則… 48
自治省のホール行政－リージョンプラザについて ……小島重喜… 52
資料・国の推進する最近のホール …… 55
劇場運営者からみた公共ホール
ホールに期待するもの－商業ホールからみた公共ホール ……伊藤邦輔… 56
「開かれた劇場」－ピッコロシアターの場合 ……山根淑子… 60
劇場鑑賞をすすめる側からみたホール
親子鑑賞活動とホール－伊丹おやこ劇場の例 ……安積千恵… 64
演劇界興行スタイルの新しい動き
新しい街づくりとホール－OCC-TV&SPホール ……服部躬依… 66
小ホール－若者文化の拠点
フリースペースから小劇場へ ……林　信夫… 67
〝遺跡〟を造るなかれ ……中島陸郎… 68
ライブからのメッセージ ……吉川裕之… 70
酒蔵変じてライブハウス ……水島博範… 72
ホールをもつ商業ビルーＹビル計画 ……吉田映治／加藤博司… 73
脱ホールの論理－けんちくかのあほどもえ ……松本雄吉… 74
設備技術者からみたホールーホールの内輪話……前田順一… 76
吹田市文化会館〈メイシアター〉
設計監理：吹田市教育委員会文化会館建設事務所・東畑建築事務所　施工：竹中・前田・紙谷建設工事共同企業体… 28
白根桃源文化会館 ……設計監理：日建設計　施工：西松建設… 32
人吉球磨カルチャーパレス……設計：安井建築設計事務所　施工：間組… 36
守口文化センター〈エナジーホール〉……設計監理：守口市都市再開発部・安井建築設計事務所　施工：清水・不動建設共同企業体… 38
徳島・新聞放送会館……設計監理：加藤博司・柚建築設計事務所　施工：鹿島・西松・不動建設共同企業体… 40
ＯＣＣ-ＴＶ＆ＳＰホール
設計監理：大倉産業開発技術室　建築設計：建築事務所不二・フジタ工業大阪支店　施工：フジタ工業大阪支店… 44

ＯＢＰツイン21の構造設計(その１)／棚橋秀光・西田理 …… 78
炭酸ガス濃度による外気導入／今井一郎・長尾保夫…… 80
耐候性ＭＭＡ系フィルム／天野博俊…… 82
日本建築協会月間の動き(昭和60年３月分)…… 84

■表紙デザイン　会告
吉引穎久(竹中工務店)
記憶の断片ー丘の朝アッシジ　Gallery－まち・建築・ひと
■特集予告
６月号／建物の表情ー最近の外壁材料　作品作風
７月号／建築と水の演出(仮称)
８月号／都市と健康・スポーツ(仮称)　スケッチブック
法令コーナー205
新建材紹介コーナー
読者の頁
建築と社会ニュース
設計者のプロフィール
見学記
日本建築総合試験所だより
すまいづくり講座12
建築の眼
コラム
特集
[1]
[2]
[3]
3－1
3－2
[4]
[5]
5－1
5－2
1
2
3
4
5－3
5－4
[6]
作品作風
構造の頁129
設備の頁128
施工材料の頁127
月報

会　長　佐野正一
副会長　足立　孝・市川　宏
松村雄二・薬袋公明
編集委員会（昭和60年度）
編集委員長
◎井上　滉
編集理事
井上　滉
今井潤之介
金井　弘次
金多　潔
木内　清三
竹中　錬一
武田　恭一
長谷部朔郎
松村　慶三
渡辺　忠
編集委員
(特集小委員会)
■計画分科会
足立　啓
岡田　信幸
奥村　礼子
金澤　成保
杉本　章子
田附　尚
＊田中　直人
中山　徹
藤田　治彦
舟橋　國男
本多　友常
山根　勝利
■構造分科会
日下部　馨
阪本　隆敏
田中　茂樹
西田　理
＊真塚　達夫
俣野　博
山田　裕治
■設備分科会
磯田　憲生
＊遠藤　進
加賀和伊久男
柿内　隆雄
川戸　敏雄
河津　隆之
久須美高朗
榮　學
■施工材料分科会
荒木　弘之
田中　光紀
西牧　恵吉
前田　松和
＊水口　譲
横井　征夫
■法令分科会
押川　兼宏
＊広江　雅樹
松田　洋三
南出　和延
(投稿概小委員会)
赤井　富弘
伊藤　郁郎
小林　正純
○中馬　博良
永原　守
堀畑　裕一
(作品作風小委員会)
荒川　朱美
浦山　哲
大泉　研二
小椋　豊久
加藤　俊明
菊池　稔
○北村　恭一
黒川　省二
浜崎　彰
松村　孝治
湯地　龍一
(広告企画小委員会)
○伊藤　敬祐
池渕　俊男
大墨　正
木原　幹雄
北村　潤
田上　章
高橋　裕
中井　進
原田　常介
平等　一之
広田　和正
山下　修司
⊗吉田　健次
○渡辺　忠
○副委員長　⊗副委員長代行　＊幹事

編集人　松　井　昭　光
印　刷　昭和60年５月20日
発　行　昭和60年５月25日
発行人　吉　田　悦　二
発行所　(社)日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06－348－0635
振替口座 大阪1-39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
電　06－606－1111㈹
大信印刷株式会社
電　06－451－7631
定　価　950円（送料共）



Gallery

幾重もの空間——個人・仲間・学年・寮

■はじめから硬い話になって恐縮ですが、「人は幾重もの空間に守られてはじめて人たりうる」というのが私の考えです。

私自身を例にとるならば、家には私自身のささやかな場があり、家族と一緒に住む空間があり、地域の人々との繋がりがあり、また私が主宰する設計事務所の仲間との場があり、私共の仕事を理解して下さる方々との御縁があるというふうに、さながら石鹸の泡のように幾重にも重畳した空間に守られて私という存在があるのです。

もしかしたら私自身の存在は一つの泡のように空虚であり、私の存在の外側に存在すると考えた空間が実は私自身の存在そのものなのではないだろうかと思われる程です。

私が設計者として設計を進めてゆく上でも、無意識のうちに自分をその場に置いてその周りに空間を重畳させてゆくという空間の捉え方をしているように思います。

学生寮の設計を例にとれば、寮生の一人ひとりが小さいながらも自分の空間として実感できる場をもつことも大切ですが、それと同時に同室の仲間とのまとまった空間、学年毎の空間、中学・高校それぞれのまとまりを実感できる空間、そして更に寮全体の一体感へと幾重にも重畳してゆく空間に守られて、はじめて学生達は心細い個人としてではなく自分自身の場をもった個人として落ち着いた寮生活を送ることができるにちがいないと考えたのです。

私は設計者として空間というものを、空間的な効果から発想するのではなく、それ独自の存在の在り方をもった実体として考え、それを形態化したのが即ち建築であると考えております。

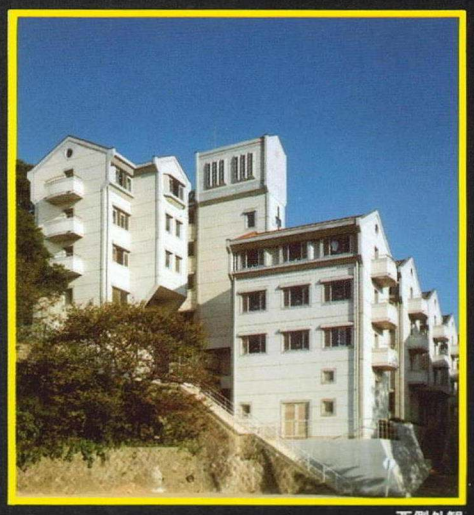
（岡　秀世／ＩＣＤ建築設計事務所）

■なにげなく通り過ぎる町筋にも、西洋の香りが今なお漂っている長崎。大浦石橋からのオランダ坂の途中に、長崎で最初の教会が建てられた場所がある（今は改築し公用されている）。この坂をもう少し行くと海星学園シャミナード寮のクルスが見える。

この学園は中学から高校までの６年コース制を採用しており、校舎（教室棟、自習棟）の隣りに２棟の寮がある。この寮のコンセプトは、個室感覚の個人コーナーがあり、７～８人単位のグループがなんとなく部屋となり、そしてフロア単位で学年を構成し、棟として中学及び高校となっている。そのゾーニングと傾斜地を利用した断面構成が、力強い特徴ある外観をつくり出している。

家族と離れた生活、全寮制というこの種のコミュニケーション空間のあり方を、きびしい敷地条件の中でうまくまとめられている。

（編集委員　浜崎　彰／清水建設）



西側外観



正面見上げ

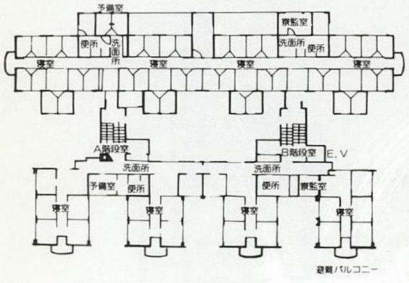
海星学園シャミナード寮（長崎市）

個室

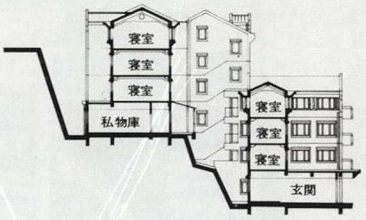


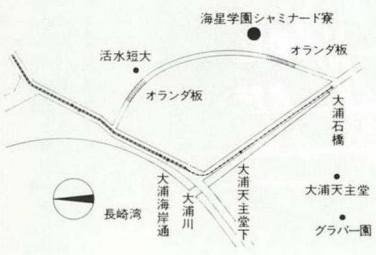
食堂











名　称　海星学園　シャミナード寮
所在地　長崎市東山手町10－4
設　計　ＩＣＤ建築設計事務所
施　工　藤木工務店
工　期　昭和58年５月～59年３月
外装仕上
外　壁　コンクリート化粧打放しアクリルペイント
　　一部アクアシール塗
屋　根　銅板瓦棒ぶき

撮影　伊東直明

岡　秀世

昭和11年生まれ。
昭和36年横浜国立大学工学部建築学科卒業。
小川健比子建築研究所を経て
昭和43年友人とI. C. D. 都市建築設計事務所を創立。
昭和50年I. C. D. 建築設計事務所を創立
以後同事務所を主宰して今日に至る。

企画編集　作品作風小委員会

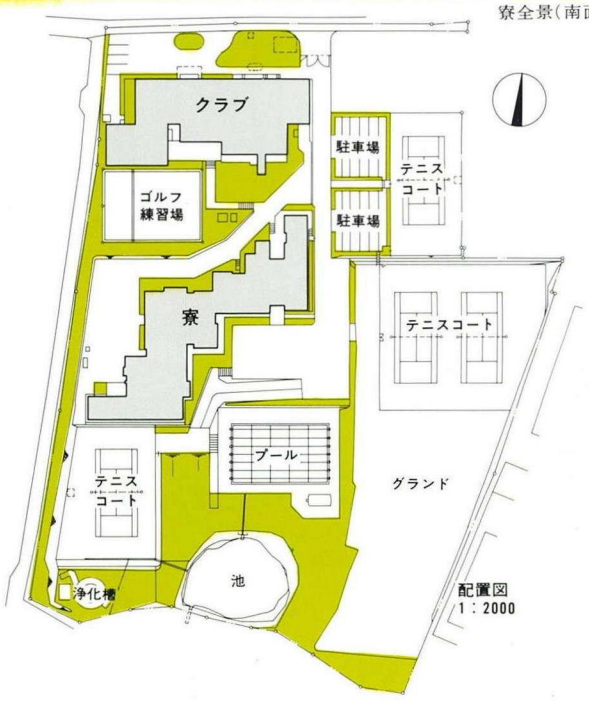
ニ13 28字
ニ12 30字

日商岩井光善寺クラブ・光善寺寮

設計監理　東畑建築事務所
施　　工　大林組・清水建設共同企業体



寮全景(南面)・右手奥のレンガ色がクラブ棟



配置図
1：2000



寮1階平面図

1．玄関
2．ホール
3．下足コーナー
4．クリーニング庫
5．ラウンジ
6．娯楽室
7．休養室
8．食堂
9．自炊コーナー
10．厨房
11．脱衣室
12．浴室
13．電話コーナー
14．機械室
15．外部便所
16．避難口



クラブ　外壁：焼器質小口タイル張

寮　屋根：セメント平板瓦葺
外壁：リシン吹付
腰　：磁器骨材入アクリルウレタン吹付

所 在 地　枚方市北中振２丁目９
敷地面積　17,000㎡
建築面積　クラブ　860㎡、　寮1,090㎡
延床面積　クラブ2,200㎡、　寮2,700㎡
構造規模　クラブRC、B１、３Ｆ　寮RC、３Ｆ
工　　期　昭和59年４月～昭和60年３月
最 寄 駅　京阪電鉄光善寺駅

京阪光善寺駅東側の小高い丘の頂にひろがる約５千坪の敷地に、独身寮と社員の福利厚生を目的としたクラブ棟の要求があった。クラブ棟と屋外のスポーツ施設は、既存施設（旧大阪ニット健保会館）を改修利用とし、寮は新築とした。

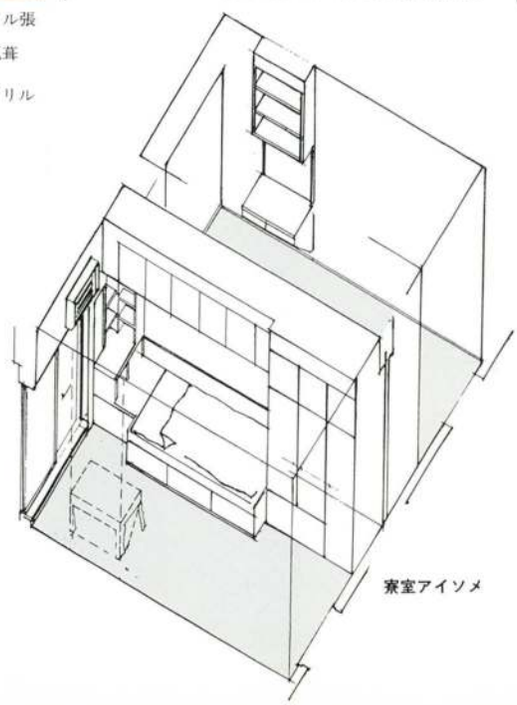
男子独身寮70名収容の寮は、１階を共用および管理スペースとし、個室（４ｍ×2.5ｍ）を南向きと東向きに配した片廊下型で、２、３階を構成した。

外観は、屋根の構成をテーマとし、リブ付の腰壁により、内部の「個のスペース」と「共用スペース」の区画の視覚化を意図した。駅までの通勤路に残る旧北中振村のたたずまいも外観のモチーフの一つとなっている。

内部計画は、エントランス廻りの雑多な動線要素（上下足、新聞、郵便、洗濯物など）の建築的処理、寮室内外での収納への対応、変化のある共用スペースの展開が、テーマであった。内装は、素材感のある材料として、ナラおよびモルタル掻落しをポイントとして使用した。

人材を財産とする商社にあって、社員の充電期間の生活の基盤となり、若き日の想い出の背景として、心によみがえる施設となることを願っている。

（大塚裕弘／東畑建築事務所）



寮室アイソメ



寮（北面）



エントランスホール



ラウンジ

撮影　ＳＳ大阪

■写真と概要をどしどしお送り下さい。
凡例：a．所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延床面積　e．構造規模　f．工期　g．最寄駅



1855 柳川市立歴史民族資料館(北原白秋記念館)

設　計：佐藤武夫設計事務所
施　工：大林組
a．福岡県柳川市矢留本町11－1
b．804.90㎡
c．473.26㎡
d．963.32㎡
e．RC、3F
f．昭和59年7月～昭和60年1月
g．西日本鉄道大牟田線柳川駅、国鉄佐賀線柳川駅



1856 幼きイエズス修道会アンチェの家

設　計：藤木工務店
施　工：藤木工務店
a．宝塚市仁川高台2－8
b．1,771.06㎡
c．806.14㎡
d．1,440.33㎡
e．RC、2F
f．昭和59年3月～昭和59年12月
g．阪急今津線仁川駅



1857 ホテル　アビイロード

設　計：清水建設・前田組
施　工：清水建設・前田組JV
a．奈良市芝辻町4－302－1
b．441.83㎡
c．334.32㎡
d．1,919.96㎡
e．SRC、B1、7F
f．昭和59年2月～昭和59年10月
g．近鉄奈良線新大宮駅



1858 八幡浜市庁舎

設　計：石本建築事務所
施　工：鹿島建設
a．愛媛県八幡浜市北浜1－1－1
b．5,960.00㎡
c．1,727.39㎡
d．9,918.67㎡
e．SRC、B1、7F
f．昭和58年11月～昭和59年12月
g．国鉄予讃本線八幡浜駅



1859 大阪府立少年自然の家

設　計：坂倉建築研究所大阪事務所
施　工：真柄建設・第一建設工業JV
a．貝塚市木積字秋山長尾3350他
b．255,000㎡
c．4,799㎡
d．8,205㎡
e．RC(一部S)、B1、2F、P1
f．昭和58年10月～昭和60年1月
g．水間鉄道水間駅



1860 都市モノレール小倉線小倉停留場

設　計：北九州都市計画局高速鉄道建設部・東日交通コンサルタント
施　工：鹿島建設・新日本製鉄JV
a．北九州市小倉北区魚町2
b．6,800㎡
c．3,060㎡
d．2,709㎡
e．S、B1、3F
f．昭和56年9月～昭和59年11月
g．国鉄小倉駅



1861 サンシャイン大手前ビル

設　計：日本設計事務所
施　工：大成建設
a．大阪市東区谷町2－22－1他
b．556.64㎡
c．487.82㎡
d．4,728.17㎡
e．SRC、B1、9F、P1
f．昭和58年9月～昭和61年1月
g．地下鉄谷町線谷町4丁目駅



1862 学園前ショッピングセンター

設　計：大林組
施　工：大林組
a．奈良市学園北1－1017
b．2,953.99㎡
c．2,453.68㎡
d．11,515.71㎡
e．RC(一部S)、B1、4F、P1
f．昭和53年11月～昭和54年10月
g．近鉄奈良線学園前駅



1863 山陽電鉄㈱本社ビル

設　計：鹿島建設
施　工：鹿島建設
a．神戸市長田区御屋敷通3－1－1
b．3,832.12㎡
c．930.77㎡
d．5,993.23㎡
e．SRC、8F
f．昭和58年10月～昭和60年3月
g．山陽電鉄西代駅

エリモビル

設計監理　小河建築設計事務所
施　　工　不動建設
PC部施工　フドウ建研



正面見上げ



全景（北東側）



北側上空より



スタジオ



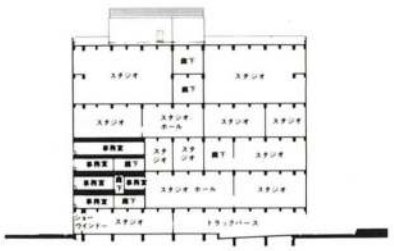
玄関ホール

所 在 地　大阪府箕面市船場西２－１－１－４
敷地面積　4,745.60㎡
建築面積　4,250.78㎡
延床面積　24,769.11㎡
構造規模　SRC、９F
工　　期　昭和58年４月～昭和59年11月
最 寄 駅　地下鉄千里中央駅

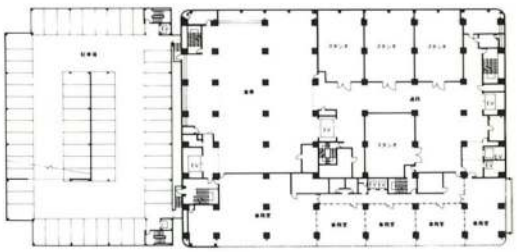
大阪船場卸商業団地の中心地区に位置する本ビルは、一企業の事務、ストックヤード機能及び広報機能を受けもつ、スタジオ施設、ショースペースといった機能を内蔵しながらも、「ファッションコミュニティ化基本調査」（大阪府商工部）のケーススタディを受け継ぐ型での既存商業施設の活性化及び本団地が持っているファッション関連商業団地としてのランドマーク化を意図して計画した。

建築表皮のファッション化とランドマーク化を実現するというアイデンティティーを、メタリックなＰＣ版打込ラスタータイル、熱線反射ガラス、ステンレス鏡面仕上サッシといった建築素材に求めて構成した。

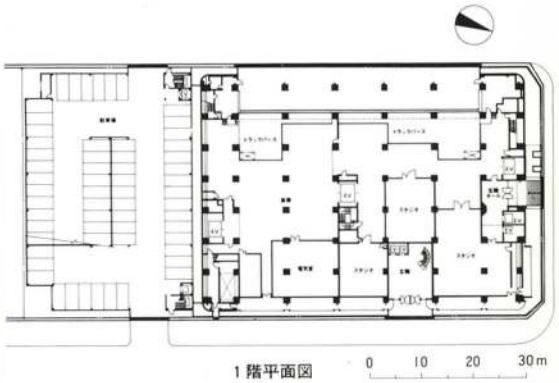
（西出忠弘・太田貞興／小河建築設計事務所）



東西断面図



２階平面図



１階平面図

日本建築協会法規委員会
編集委員会法令分科会

法令コーナー

質疑などの投稿をお待ちしております。

205
新風営法と建築基準法との関連（その2）

2．建基法と風営法

建築確認とは、建築主事が「当該建築物の敷地、構造及び建築設備に関する法律並びにこれに基づく命令及び条例の規定に適合しているかどうかを審査すること」（建築基準法6条3項）である。したがって、どの法律が建築確認の対象法令であるかが問題となるが、従来より、風営法については通知・連絡の措置を行うものとして、行政指導として警察の事前協議済みの証としての経由印を確認申請書の受理要件としているところが多い。この扱いは、今回、風営法が大幅に改正されたものの、基本的には変わらないものであり、むしろ風俗営業等のすべてについて、条例で広域的に営業の禁止がされることになり、法解釈は別として、より密接に関わってきているといわざるをえない。

新風営法に基づく禁止地域の条例は、その基準となる政令では「住居が多数集合しており、住居以外の用途に供される土地が少ない地域（住居集合地域）」等としているが、具体には、大阪府を含め多くの都道府県の条例は、都市計画法による用途地域を引用して指定されている。

一方建築基準法では、「都市の健全な発展と秩序ある整備」を図ることを目的とする都市計画法の用途地域制を受け、建築できる用途（1種住専）または建築できない用途（1種住専以外の地域）について規定しており、風俗営業および風俗関連営業の用途については、その建築を禁止しているもの、類似の用途として制限しているもの、ほとんど禁止していないものがある。

この建基法による建築制限と、新風営法による営業所の設置制限等を比較してみると**表－2**となる。この表からわかるように、建築は禁止されていない（別に解すれば建築は可）が営業は不可、またその逆に建築は不可であるが営業の禁止はない（別に解すれば営業は可）など、一部不整合な部分があるように思われるが、両法はその目的が異なるので、法解釈上は問題ないとされている。

しかし、現実に風俗営業等を営む場合は、まず建築物を建てる必要がある。そのためには建基法上の建築確認が必要であり、建築後に風営法上の許可申請等を行うこととなる。したがって、どちらかの規定で不可となるものは、結局はその営業はできないことになり、行政側としてはこのような不経済性をなくすために、計画の初期の段階で両法のチェックをすることが望ましいこととなる。

大阪府においては、他の特定行政庁とも協議しながら、大阪府警察本部と検討を重ね、連携をより強化した以下の制度で対処することとした。

① 風俗営業および風俗関連営業を営む場合は、すべて事前に管轄警察署と協議することとし、その後、確認申請を行うこと。

② 風俗営業の用途に供する建築物の確認申請をする場合は、事前に、申請書に府警本部の意見および経由印を受けること。

③ 従来にも増して特定行政庁と大阪府警とが連絡を密にし、おのおのの処分に際してできるだけ混乱のないように努める。

表－2　新風営法と建基法の用途地域ごとの制限比較

（注）風営法関連では、他に指定施設周辺での制限等がある。
（前号の表－1参照）

			1種住専	2種住専	住居	近商	商業	準工	工業	工専
風俗営業	建基法で用語のあるもの	キャバレー カフェー ナイトクラブ バー	×	×	×	×			×	×
		待合 料理店	×	×	△					
		舞踏場（ダンスホール）								
		まあじゃん屋 ぱちんこ屋	× ×	× ×	△					×
		特殊喫茶店 ゲームセンター	×	×	△					
風俗関連営業	建基法	個室付浴場	× ×	× ×	× ×	× ×	×	×	× ×	× ×
	建基法で類似用語	（劇場扱い） ストリップ劇場	(×) ×	(×) ×	(×) ×	(×) ×		×	(×) ×	(×) ×
		（旅館・ホテル扱い） ラブホテル	(×) ×	(×) ×	×			×	(×)	(×)
		（旅館・ホテル扱い） モーテル	(×) ×	(×) ×	×	×	×注	×	(×) ×	(×) ×
		アダルトショップ	×	×	×	×		×	×	×
		個室マッサージ等	×	×	×	×	×	×	×	×

〈凡例〉・建基法による制限……上段
×（原則禁止）
無印（特に定めてない）
・風営法関連による制限……下段
△（公安委員会規則により、OKとなる場所がある）
×（禁止）
無印（特に定めてない）

表－3　ラブホテルの定義比較

□ある市のラブホテル規制条例

1．以下の施設及び構造を有しないもの。
(1) 営業時間中、自由に出入りすることのできる玄関
(2) 受付及び応接の用に供する帳場、フロント等の施設
(3) 自由に利用することのできるロビー、応接室、談話室等の施設
(4) 会議、催物、宴会等に使用することのできる会議室、集会室、大広間、宴会場等の施設
(5) 食堂、レストラン又は喫茶室及びこれらに付随する調理室、配ぜん室等の施設
(6) 帳場、フロント等から各客室に通じる共用の廊下、階段、昇降機等の施設で、宿泊又は休憩のために客室を利用する者が通常使用する構造のもの
(7) 付近の住居の環境を損なわない外観を有するもの
2．前項第1号から第5号までに掲げる施設は、収容人員に相応した規模のものであって、宿泊又は休憩のために利用する客以外の客にも利用できるものでなければならない。

□新風営法による風俗関連営業の3号営業の一部

専ら、異性同伴客の宿泊（休憩）に利用させる営業で、一定規模以上の食堂（調理室を含む）とロビーがない施設のうち、次の構造又は設備のあるもの。

収容人員	食堂	ロビー
30人以下	30㎡	30㎡
31～50人	40㎡	40㎡
51人以上	50㎡	50㎡

ラブホテル	1．ラブホテル式の設備のあるもの ・振動・回転ベッド、特定用途鏡（寝ている常態を写す鏡）、その他客の性的好奇心に応ずるための設備 ・性的好奇心をそそる物品の自動販売機その他の設備 2．モーテル式の構造のもの フロント等（常態として客と応接するもの）の設備のない施設で、次のいずれかの構造のもの
類似モーテル	・車庫と個室が接続する構造 ・車庫と個室が近接する構造 ・車庫と個室の通路の内部が見通せない構造
モーテル	・車庫と個室が個々に接続する構造 （公安委員会規則で定める施設）

3．ラブホテル規制条例と新風営法

府下の多くの自治体は、ラブホテル規制条例や要綱を制定している。その目的は、良好な生活環境の保全であり、規制はその建築制限で、その禁止の範囲は、極端な場合は市域全域を指定しているなど、相当広範囲で建築を認めていない。そこでラブホテル条例等におけるラブホテルと、新風営法でいういわゆるラブホテル（風俗関連営業の3号営業の一つ）の、定義がまず問題となる。**表－3**からわかるように、市町村の条例等においては、できるだけ広くラブホテルを捉えようとしているのに対し、新風営法では、食堂とロビーを規定した上で、構造・設備により定義している。市町村の条例等のラブホテルの一部が、新風営法によるいわゆるラブホテルといえそうである。つぎに制限の地域範囲であるが、これは新風営法（正確には府の施行条例）でも相当広範囲に禁止しているので、さほどの問題はないといえる。

したがって規制の対象となるラブホテルの定義そのものが最大の問題であり、ラブホテル条例等がその建築制限、新風営法がその営業の制限であり、それぞれの目的（手段）が異なるとはいうものの、どのように関係していると解するか、非常に気になるところである。ここではその検討を行わないが、ラブホテル規制条例等は昭和56年～57年にかけて制定したものが多く、対して法が遅れて59年に制定されたように、これらの条例等は、自らの町づくりは自らが考え、可能な範囲と手段でもって推進していくといった、一つの地方自治の表れであると理解しておくに止めておく。

（おわり）

（大阪府建築部建築指導課　鈴木博文）

用語解説

居室の取り扱い

住宅の台所において、下記の各号に該当するものは、居室と扱わないことができる。
(1) 調理のみに使用し、食事等の用には供しないこと。
(2) 床面積が小さく、他の部分と間仕切等で明確に区画されていること。

日本建築協会建材委員会

新建材紹介コーナー

あなたの「声」をお待ちしています。

○紹介建材、掲載内容に対するあなたのご意見・要望をお寄せ下さい。
○(社)日本建築協会建材委員会　Tel 06－348－0635
〒530 大阪市北区梅田 1－1－3－2100
大阪駅前第3ビル21階

《新建材紹介　No. 120》

常温硬化型フッ素樹脂塗料『ライフロン＃100』

アトム化学塗料株式会社

本　社　東京都板橋区舟渡3－9－2　Tel 03－969－3111
支　店　大阪府東大阪市菱江758－3　Tel 0729－64－8215
営業所　札幌・仙台・新潟・名古屋・広島・福岡

■はじめに

塗料の耐久性が要求されるなか、超耐候性、耐薬品性、耐熱性、耐蝕性、非粘着性など、フッ素樹脂塗料の優れた特性は20年以上も前から一部で実用化され、高性能を認められていた。しかしながら高温焼付処理が必要なため、塗料としての適用範囲が限定されていた。

ここで紹介するアトム化学塗料が武田薬品工業㈱の技術協力を得て開発した常温硬化型フッ素樹脂塗料「ライフロン＃100」は、上記のネックを解消し、フッ素樹脂塗料の適用範囲を飛躍的に拡大した。特別の塗装設備を必要としないため、建築をはじめ、土木にいたる広範な用途をもち、その高度な性能は「塗料の耐久性」の概念を書きかえつつある。

■特長

①超耐候性である

屋外曝露20年以上に相当する促進耐候性試験（サンシャイン・ウェザオメーター）5,000時間で、光沢保持率90%以上の超耐候性を実証している。

②耐薬品、耐塩水性が優れている

耐酸、耐アルカリ性等の耐薬品性、および耐塩水性が極めて優れているため、工場地帯、海岸地帯などでの公害、塩害対策などに最適の塗料である。

③常温硬化型である

二液型の常温硬化型で、20℃指触乾燥15分、中間硬化8時間で硬化する（完全硬化5日間）。また、強制乾燥（80℃、40分）も可能である。

④美しい仕上がり

高光沢で、クリヤーの透明度が高く、塗膜が硬く傷つきにくい。

⑤各素材との密着性が良い

コンクリート、モルタル、スレート板、GRC板、アルミニウム板、亜鉛鉄板、ステンレス鋼板鉄板、その他の素材に対して、優れた密着性を発揮する。

⑥塗装作業性が優れている

専用シンナーを使用することにより、各種の塗装方法で容易に塗装できる。またリコート性に優れ、補修塗りが可能である。

■品種・塗装性状

品種、塗装性状は**表－1**、**表－2**のとおりである。

■用途例

超高層ビル、一般ビル、研究所、工場（化学工場など）、焼却場、煙突、広告塔、橋梁、海洋構造物などの新規塗装および塗替塗装。

■標準塗装仕様

標準塗装仕様は**表－3**、**表－4**のとおりである。

建材委員／尾松一夫（大林組）

表－1　品種

商品名	色相	配合比	容量
ライフロン＃100 プライマー（希釈剤は合成シンナーNo.6）	白	主剤：硬化剤 1：1	16kgセット（主剤8kg 硬化剤8kg） 4kgセット（主剤2kg 硬化剤2kg）
ライフロン＃100 ステンレスプライマー	赤サビ	主剤：硬化剤 2：1	15kgセット（主剤10kg 硬化剤5kg） 3kgセット（主剤2kg 硬化剤1kg）
ライフロン＃100 ジンクリッチプライマー（希釈剤は合成シンナーNo.6）	赤サビ	主剤：硬化剤：亜鉛末 4.2：1.3：9.5	15kgセット（主剤4.2kg 硬化剤1.3kg 亜鉛末9.5kg）
ライフロン＃100 中塗（希釈剤は合成シンナーNo.6）	グレー	主剤：硬化剤 3：1	16kgセット（主剤12kg 硬化剤4kg）
ライフロン＃100	各色※ クリヤー	主剤：硬化剤 9：1	16kgセット（主剤14.4kg 硬化剤1.6kg） 4kgセット（主剤3.6kg 硬化剤0.4kg）
ライフロン＃100 シンナー	———	———	16ℓ・4ℓ

※色相には制限がある。

表－2　塗料性状

項目		ライフロン＃100	ライフロン＃100 プライマー	ライフロン＃100 ステンレスプライマー	ライフロン＃100 ジンクリッチプライマー	ライフロン＃100 中塗
色相		各色・クリヤー	白	赤サビ	赤サビ	グレー
樹脂		フッ素樹脂	エポキシ樹脂	エポキシ樹脂	エポキシ樹脂	エポキシ樹脂
比重（20℃）		1.25（白）	1.08	1.15	2.29	1.17
粘度（20℃）		125秒（白）（FC＃4）	26秒（FC＃4）	240秒（FC＃4）	23秒（FC＃4）	170秒（FC＃4）
不揮発分（%）		60	50	65	80	65
乾燥時間（20℃）	指触	15分	10分	30分	4分	1.5時間
	中間	8時間	2時間	6時間	1時間	6時間
可使時間（20℃）		8時間以内	8時間以内	6時間以内	48時間以内	12時間以内

※表中の数値は標準値を示している。

表－3　標準塗装仕様（コンクリート・モルタル・スレート板・GRC板などの場合）

工程		材料名	混合割合	塗装方法	塗布量（kg/m²/回）	塗装間隔（20℃）	膜厚（μ/回）
下地処理		〔新設の場合〕ごみ、汚れなど塗装作業に支障のある付着物を除去する。〔塗り替えの場合〕浮いている旧塗膜は、サンドペーパー、ワイヤーブラシ、サンダーなどで除去する。					
下塗り		ライフロン＃100 プライマー	主剤：硬化剤 1：1 可使時間（20℃）8時間以内	合成シンナーNo.6で10～50%希釈し、ローラー・スプレーなどで塗装する。	0.10～0.15	4時間以上 7日間以内	30～40
上塗り	1回目	ライフロン＃100	主剤：硬化剤 9：1 可使時間（20℃）8時間以内	ライフロン＃100 シンナーで10～30%希釈し、ローラー・スプレーなどを塗装する。	0.10～0.15	8時間以上 7日間以内	30～35
	2回目	ライフロン＃100	同上	同上	0.10～0.15		30～35

※FRP、亜鉄板、アルミニウム板、ステンレス鋼板についてはプライマーなど異なる。

表－4　標準塗装仕様（鉄部塗装の場合）

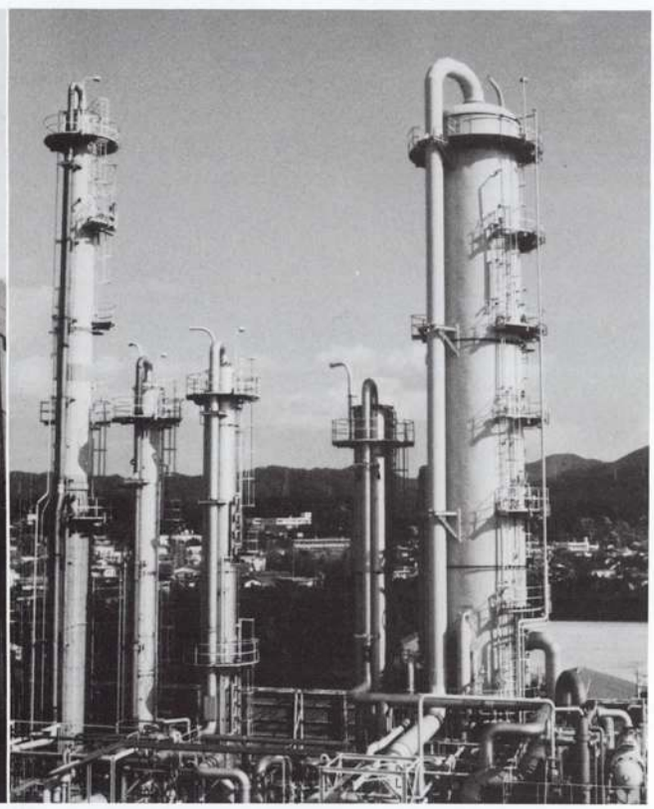
工程		材料名	混合割合	塗装方法	塗布量（kg/m²/回）	塗装間隔（20℃）	膜厚（μ/回）
下地処理		〔新設の場合〕サンドブラストなどで錆を除去する。〔塗り替えの場合〕サンドブラストなどで錆、旧塗膜を除去する。					
下塗り		ライフロン＃100 ジンクリッチプライマー	主剤：硬化剤：亜鉛末 4.2：1.3：9.5 可使時間（20℃）2日間以内	合成シンナーNo.6で10～20%希釈しスプレー塗装する。	0.30	2時間以上 7日間以内	30
中塗り	1回目	ライフロン＃100 中塗	主剤：硬化剤 3：1 可使時間（20℃）12時間以内	合成シンナーNo.6で0～10%希釈し、スプレー・ローラーなどで塗装する。	0.13	16時間以上 7日間以内	50
	2回目	ライフロン＃100 中塗	同上	同上	0.13	同上	50
上塗り	1回目	ライフロン＃100	主剤：硬化剤 9：1 可使時間（20℃）8時間以内	ライフロン＃100 シンナーで10～30%希釈し、スプレー塗装する。	0.10～0.13	8時間以上 7日間以内	30～35
	2回目	ライフロン＃100	同上	同上	0.10～0.13		30～35

耐久性の常識を変えた！

常温硬化型フッ素樹脂塗料

ライフロン#100





塗料の樹脂系による塗膜性能

項　目	ライフロン #100	アクリル樹脂系塗料	アクリルウレタン樹脂系塗料	エポキシ樹脂系塗料
耐候性	◎	×	△〜○	×
耐食性	◎	×	◎	◎
耐アルカリ性	◎	×	○	○
耐酸性	◎	×	○	○
耐塩水性	◎	×	◎	◎
耐沸水性	◎	×	○〜◎	○
耐汚染性	◎	×	○	○

評価法：◎ 優れている。○ 良好である。△ やや劣っている。× 劣っている。

ライフロン＃100はサンシャイン・ウエザオメーターで5,000時間曝露して、90%以上の光沢保持率を示しました。これは屋外曝露20年以上に相当します。

ATOM アトム化学塗料株式会社

本　　社　東京都板橋区舟渡3-9-2 電話(03)969-3111 大代表 〒174 FAX電話(03)968-7300専用
大阪支店　東大阪市菱江758-3 電話(0729)64-8215 代表 〒578 FAX電話(0729)64-8219専用
札幌営業所　札幌市中央区南7条西6-289-118(山室ビル) 電話(011)512-7488 〒064
仙台営業所　仙台市若林1-3-3 電話(0222)86-6134 〒982 FAX電話(0222)86-6184専用
新潟営業所　新潟市礎町通り一の丁1961 電話(0252)25-2070 〒951
名古屋営業所　名古屋市北区八代町1-9(北村ビル) 電話(052)914-3900 〒462 FAX電話(052)914-3900
広島営業所　広島市安佐南区安古市町相田265-9(中富ビル) 電話(082)872-2406 〒731-01
福岡営業所　福岡市中央区梅光園2-12-7 電話(092)711-0394 〒810

読者の頁

「この人」シリーズの連載にあたって
建築にかかわるあらゆる分野の人々を訪問し、その人と仕事を紹介していきます。読者のみなさまから、いろいろな「この人」を募集していますのでよろしく。

この人 5　三浦 栄次郎・良雄・道雄　建築模型

ちょっとおじゃまします　　聞き手　黒川省二（竹中工務店）



左から道雄氏（弟）、栄次郎氏（父）、良雄氏（兄）

みうら　えいじろう（父）
明治41年1月生まれ
みうら　よしお（兄）
昭和14年1月生まれ
みうら　みちお（弟）
昭和21年3月生まれ
主な作品
箱根プリンスホテル、日本生命・日比谷ビル、大阪歌舞技座、新高輪プリンスホテル（以上、村野・森建築事務所）、ヒルトンホテル（吉本ビルディング）、ホテル日航、神呪寺多宝塔（以上、竹中工務店）など。
三浦模型（兵庫県宝塚市大原野字波坂1-145　TEL0797－91－0636）

デザインの目撃者たち

宝塚の市街から車で約20分、遅めの桜が咲き始めた山合いの道を走り、緑に囲まれた工房に着いた。しばし都会の喧騒を忘れるような素晴らしい環境だ。

ここに三浦模型が居を構えたのは、疎開で移り住んだ40年以上前のことである。以来この地において、電話のない時代、自動車のない時代を通じて終始動くことなく活動を続けてこられたことにポリシーめいたものを感じる。三浦模型の伝統はこれより更に古く、三浦千代松氏（明治12年生）が建築彫刻をはじめて以来90年近い。現在は2代目の栄次郎氏と3代目にあたる御子息、良雄、道雄の二人で引き継いでおられる。戦前までは石膏による建築彫刻が主であり、大阪大丸のシーリング・レリーフ等、多くの装飾彫刻がある。本格的に模型の製作にたずさわれるようになったのは戦後からで、当時はサッシュに髪結いの元結を使ったり、本物のガラスを用いたり、今とは隔世の観があるようだ。その頃は渡辺節・村野・森事務所との仕事が多く、ことに村野・森事務所の仕事は「ほとんど総ての模型にたずさわった」と言われる程関係が深い。ことに栄次郎氏と村野先生との仕事を通じてのやりとりは40年近くも続き、その中で印象的だったことは、運び込まれた模型を見て先生が最初に言うことばがいつも〝模型をみて満足してはいけない〟〝さあどこから直そうか〟と決まり文句のように言っておられたとか。想い出の作品は箱根・新高輪プリンスホテルだそうである。

現在第一線で活躍されているのは良雄、道雄氏で、多忙の毎日をおくられている。模型製作のコツを尋ねると、第一に製作の段取り、第二に修正に対応しやすい構成としておくこと、そして仕上がりについては切り口が勝負とのことである。作業の機械化に限界があるので、規模を大きくすることは考えていないとのこと。

また、忙しい仕事のあいまに、キジやイノシシを撃ちに出かけたりする、都会では考えられない余暇生活もあるようだ。

模型の仕事は、デザインプロセスの中で、スタディモデルとして造られるものと、プレゼンテーション用の完成模型とに分けられるが、現在は完成模型の方が多いようである。ただ、村野先生のところだけは結果として最後までスタディ模型の連続だったそうである。

スタディ模型から完成模型までつき合えば、この仕事はデザインを建築家のごく近くで観る目撃者ということになろうか。幅広く、しかもディテールまでおさえていることが要求される仕事上、知らず知らずのうちに、評論家としての鋭い目を持たれていることと思われる。にもかかわらず、そんな素振りはひとかけらも見せることなくひかえめな雰囲気が印象に残った訪問だった。

マイ・フォト

看板ひとつでも

西ドイツ

赤井 富弘
近畿地方建設局



旅の楽しみ方に「一つのテーマをもって見て歩く」というのがあるそうです。そのテーマは、たとえば、各地のオペラハウスであってもいいし、ホテルのバスルームでもいいし、ただの民家の窓だけでもいいそうです。一つのテーマだけを通しても、その国々の国民性とか、気候風土とかが感じられます。そして、この写真は、西ドイツ・ローデンブルグの街を、そんな気持ちで撮っていった中の看板ひとつです。

建築と社会 ニュース

ニュース原稿をお送りください。

甦った兵庫県旧南庁舎——明治のルネッサンス——

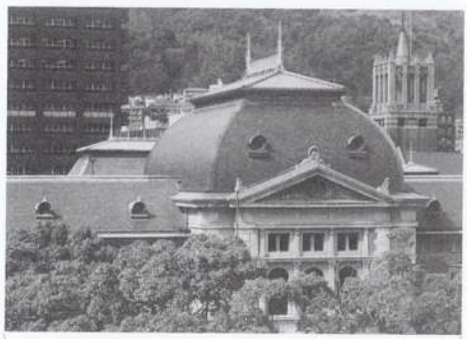
3年余りの工期と当時の金額で34万余の巨費を投じて明治35年に完成した兵庫県庁本庁舎は、中央にドーム型の屋根を持つシンメトリーな建物で、諏訪山の緑を背景にそびえる姿は、ヨーロッパの絵画を見るような美しさだったという。

明治中期を代表する建築家・山口半六の遺作となったこの建物は、彼が最後に力を注いで設計した作品で、規模が大きい割りにはデザインがやわらかく、まさに近世フランス式ルネッサンス様式を持つ傑作だったと評価されている。

第二次大戦の空襲で木造の屋根を焼失したが、昭和27年に改修し、県南庁舎として使用していた。

昭和57年、老朽化が激しいため、建て替え計画が持ちあがったが、文化人や県民の間から保存運動が進められ、外観を残したまま内部を改修し、「迎賓館」「県政資料館」として活用されることになったものである。

県のシンボルとしてこの4月に新たに甦った旧南庁舎。円形のマンサード屋根、窓枠のディテール、門番所、門灯、唐草模様の外周柵を創建当時に復元、緑多い庭が周辺の県民オアシスとプロムナードの環境と一体となり、神戸の官庁街に潤いを与えている。



兵庫県公館（旧南庁舎）
設計監理：兵庫県都市住宅部営繕課・設備課
施　　工：竹中工務店・熊田工務店特別共同企業体
所 在 地：神戸市中央区下山手通4丁目4番1号
敷地面積：8,844㎡
建築面積：4,519㎡（本館）
延床面積：9,651㎡（本館・門番所・和風会議室）
構　　造：RC、B2、3F、P1
工　　期：昭和58年6月～60年3月末日
屋　　根：宮城県産天然スレート葺
外　　壁：RC造／煉瓦積モルタル塗一部花崗岩貼
軒　　裏：銅板貼

市立近代美術館の建設をめぐってシンポジウムを開く

去る3月20日㈭午後より、大阪駅前第3ビルの大阪市立大学文化交流センターにおいて新建築家技術者集団大阪支部主催による「国公有地等の利用に関する提言」・「市立近代美術館建設」シンポジウムが開かれた。当日、参加者数は約50名、参加者層としては建築家、都市計画家、画家、彫刻家、自治体技術者、新建外の団体、マスコミ、中之島周辺の地元の方々などさまざまな人々の参加によって熱い論議が交わされた。

まず、「国公有地等の実態と市民参加による有効利用方策」に関する基調報告では、国公有地等の使い方について、公共性優先の原則、まちづくり優先の原則、市民参画の原則が提示された。



続いて「市立近代美術館とその周辺整備のあり方を考える」は、パネラーに高橋理喜男（大阪府大教授・「八幡屋公園基本計画設計競技」審査員）、廣瀬昭三（ロイヤルホテル専務取締役）、出江寛（建築家）、佐野儀雄氏（画家）、谷山隆（新建大阪支部）の各氏を迎え、美術館建設、中之島周辺整備、新建築家技術者集団から提案されている公開コンペの実施、の3つの論点でディスカッションが行われた。

佐野氏「大阪の美術館の質量とも低い現状と、美術館建設に対して大衆化・情報化・国際化の必要性」、出江氏「まちづくりをするうえでの官民一体となったプロデュースオフィスの設置の必要」、広瀬氏「庶民の生活の中から沸き上がってくるものを取り込んで、古いものと新しいものを関連づけ育てていくまちづくりの必要」、高橋氏「生活とビジネスが共存したものとして中之島を位置付けていく必要」などの意見が出された。谷山氏からは、使い手の要求を考えた立場、建築家の技術向上の立場から公開コンペの必要性が報告された。また、会場からは彫刻家の「屋外で彫刻を展示できる場所がなく、是非建設の中で考えてもらいたい」など、使い手の側からの意見もあった。

「全国町並みゼミ」—3日間にわたり龍野市で開催—

〈残そう、町並みの心と形〉をテーマに、第8回「全国町並みゼミ」が今年は兵庫県龍野市で行われる。

6月15日には吉田光邦氏（京大名誉教授）の記念講演のあと、龍野市長、伊丹市長、霞城文化自然保勝会会長による鼎談、各地からの報告が行われ、16日には3つの分科会と研究発表会、17日には播磨路ツアー（平福→赤穂→室津→高砂）も組まれている。

第8回全国町並みゼミ龍野事務局（兵庫県龍野市龍野町富永100－3・ヒガシマル醤油株式会社内電話07916－3－4567）へ詳細は問い合わせのこと。

「わが街おおさかフォーラム」

1年間におよぶロングランセミナー「わが街おおさかフォーラム」が、新建築家技術者集団大阪支部(06－364－4666)の企画により、本年5月16日の宮本憲一氏（大阪市立大学教授）の記念講演「わが町おおさかの再生」を皮切りに、来年4月まで土曜日の午後に開催される。定員は40名で、20代・30代の若手技術者の参加を募っている。

6月1日　現代の公的住宅の改善方策
　　住田昌二（市立大学教授）
6月29日　都心マンションの実態
　　梶浦恒男（市立大学助教授）
7月13日　コーポ住宅と都心居住
　　安原秀（ヘキサ・建築家）
8月3日　木賃住宅の実態と建替え
　　間野博（間野まちづくり研究所所長）
9月7日　おおさかの都市景観
　　紙野桂人（大阪大学教授）
10月5日　歴史的まちなみの保全と活用
　　高田昇（com 計画研究所所長）
11月9日　おおさかの緑の現況と緑化の可能性
　　関根幹雄（堺市市役所）
12月7日　親水・親緑空間づくり
　　大塚守康（大塚造園所長）
1月18日　おおさかミナミの活性化
　　加茂利男(予定)（市立大学助教授）
2月8日　国公有地の跡地利用
　　松永健治(予定)（堺市市役所）
3月中　まちづくり教育実践
　　延藤安弘（熊本大学助教授）
4月6日　現代の都市再開発
　　藤田邦昭（都市問題経営研究所所長）

「パース・プラス」開催

——日建設計パース・CG展——

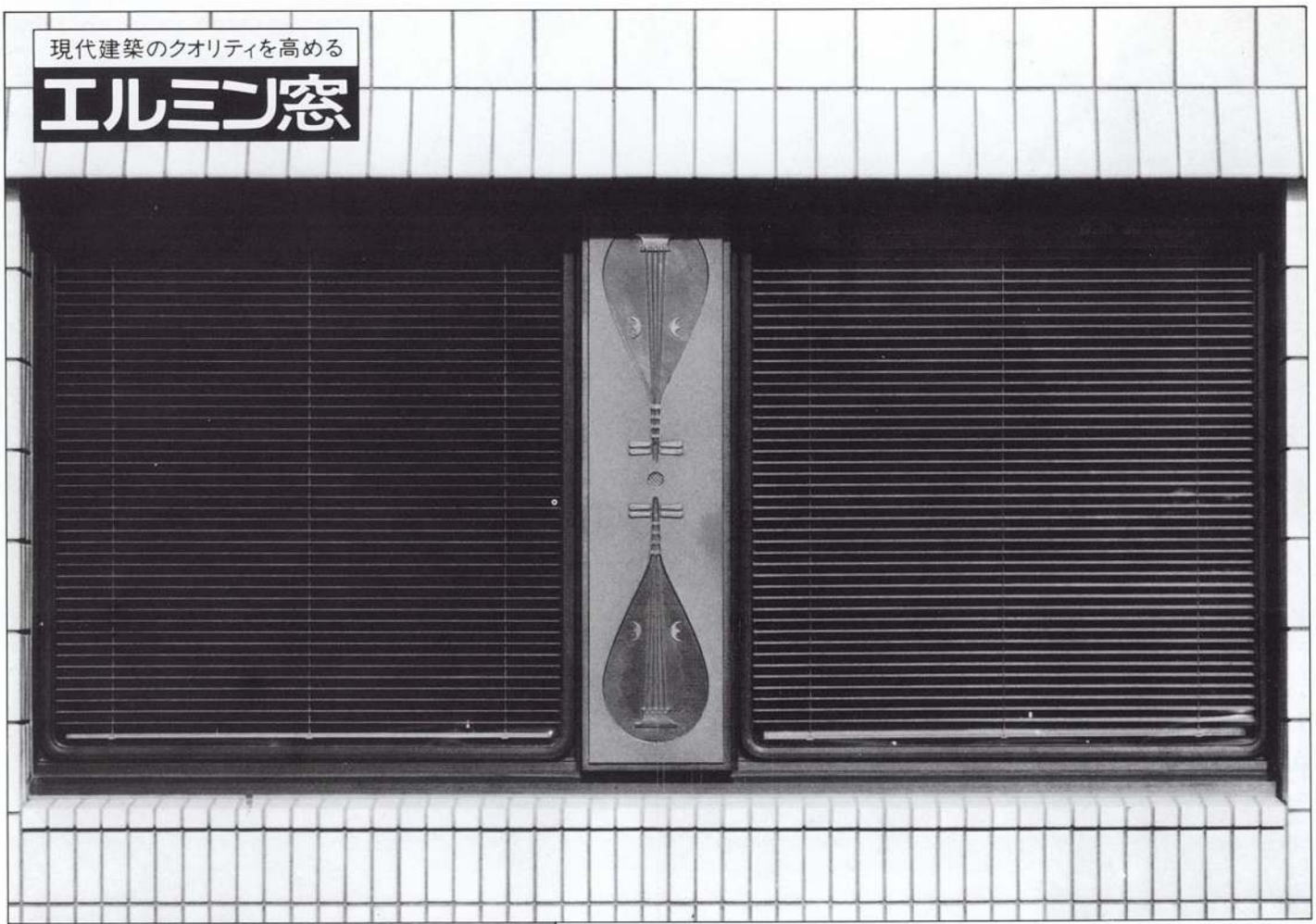
来る6月24日～7月6日9時30分～17時30分、東京都港区の建築会館1階展示コーナーにおいて、パース・CG展「パース・プラス」が開催される。日建設計の最近5年間の主な建築パース作品に加え、コンピューター・グラフィックスによる表現をパネルとVDTで展示の予定。

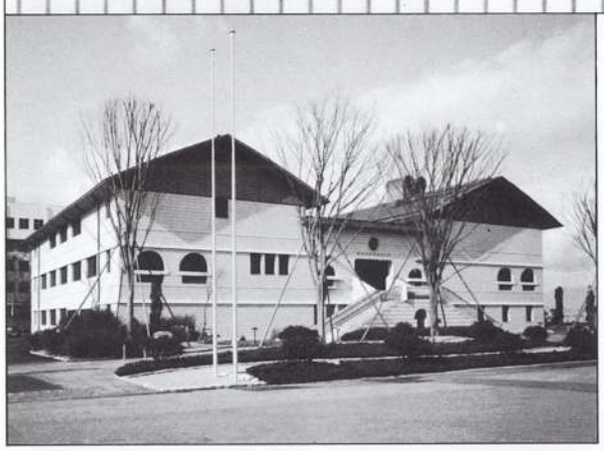
会期中の6月28日18時～19時30分には、建築会館のホールで、山崎正和（阪大教授、評論・劇作家）氏の「都市生活の表現としての建築」の講演が行われる。入場無料、先着順300名。

問い合わせは日建設計東京本社(03—813—3361)へ。

現代建築のクオリティを高める

エルミン窓





琵琶湖研究所
設計/滋賀県土木建築課、㈱浦辺建築事務所
施工/松井工業㈱
場所/滋賀県大津市



窓仕様
窓寸法/1437.25(W)×1533(H)
仕上/外部:電解着色
内部:電解着色
硝子/外:熱線吸収6㎜
内:フロート6㎜

優良断熱建材認定品第2種59-009

建物を彩る信頼の窓

二重硝子の間にベネシアンブラインドを内蔵させた横軸回転断熱窓のエルミン窓は、デザインや機能において多様化したニーズに充分お応えできる窓として、オフィス、ホテル、病院、省エネビルなど全国3,000件以上の建物に採用されています。
当社の独自の設計思想と技術により断熱、遮音、遮蔽、水密、気密、耐震などに比類ない性能を発揮し、建物のクオリティを大幅にアップする理想の窓。省エネ対策、機能、美観など、あらゆる角度から研究しつくされたエルミン窓を自信をもってお勧めします。

エルミン窓はスエーデンで開発され、全世界で圧倒的信頼を得ている国際品です。わが国では、当社が昭和39年に技術導入し、日本の気候風土に合うように改良したブラインド内蔵の画期的な窓です。

日本エルミンサッシ株式会社

本　　社　〒101 東京都千代田区岩本町1-11-2(三泉ビル)　TEL03-861-1891(代表)
大阪営業所　〒550 大阪市西区京町堀1－7－9(東洋ビル)　TEL06-441-1978(代表)
札幌事務所　〒060 札幌市中央区大通西4-6(住生札幌大通ビル)　TEL011-222-3575(代表)

中嶋龍彦

中島龍彦建築事務所

聞き手・編集委員　本多友常（竹中工務店）
プロフィール撮影　島　修一（STUDIO A・T）



略　歴

生年月日	昭和15年3月21日生(45歳)
出身地	大阪府河内長野市
最終学歴	京都工芸繊維大学建築工芸学科昭和37年卒業
職場	中島龍彦建築事務所
教職	京都工芸繊維大学建築学科講師　国際仏教大学建築学科講師
おもな受賞	日本建築学会特別賞（日本万国博お祭広場・1970・共同）NY近代美術館、ポンピドーセンター収蔵作品〈四天王寺女子大学　短期大学（大阪府羽曳野市）　希望が丘青年の城（滋賀県）〉
代表作品	四天王寺悲田院（羽曳野市）　伏見医師会館（京部市）　八尾市桂中学校（大阪府八尾市）　摂津市総合福祉会館（大阪府摂津市）
趣味	絵画
好きな建築物	代々木競技場



四天王寺悲田院



希望が丘青年の城

写真　新建築社

男気、教育、建築

代表作品はなんといっても大阪・四天王寺の一画に建つ四天王寺学園である。この学園建設にたずさわって、すでに20年もの長い歳月が経過した。寺の敬田事業の一つである学園造りにかかわり「自分なりに宗教を見つめ解釈し、判断して慮って仕事をしてきた」という。聖徳太子建立のこの歴史の深い寺の環境に対し、少しも憶することなく、しかし伝統は尊重しつつも、新しい建築の試みを展開してきた。例えば昭和57年に完成した講堂。「建築で新しい胎蔵界を造り出すこと」をめざして、建物はそっくりと地下に沈めた。またそのイメージの原型を石榔やカタコンベにたどった。天井のステンレス板全面に描き出された金剛界の曼陀羅模様、緞帳の大日如来の梵字アーンク、壁のいぶし銀の煉瓦ブロックの処理、いずれも大胆でしかも神秘的。強烈な宗教空間を造り出している。「当時、法隆寺という規範となる寺があったにもかかわらず、四天王寺式を新らたに創り出した。これは強烈なデザイン革命であり、従来、寺とはそうした革進的な文化サロンであったはず」と当時の心意気に負けてはいない。「それに比べて最近の社寺建築は堕落して、デザインが無駄である」と手厳しい。手厳しいと同時にファイトも人並み外れて、喧嘩ばやい。それもそのはず、河内の生まれである。こうと思ったが最後、信念を通すためには喧嘩も辞さない。「おかげで河内の軍鶏と呼ばれている」という。「性格上喧嘩をやめれば棺桶に足を突っこむことになりかねない、したがって来るものは受けて立つ」と設計界ではむしろめずらしく男気があり、精悍、活達である。

大学を卒業し、大建設計に入社。ところが同時に個人的に四天王寺の仕事が舞い込む。他の設計事務所に渡すのが惜しく、向こう見ずにも引き受け、5時に事務所を引けてから寺の仕事をしたという。「当時は1人で数人分の仕事をこなしていた」と馬力も人一倍である。やがて、独立。以前は設計事務所を運営し、なおかつ、国際仏教大学短大の教授として仏教美術を教えていた。しかし設計の時間を充実させるために今は講師だけに止めている。したがって教育には一言をもつ。「教育も建築づくりのうち。自分が建築を創り出す以上に優れた建築を創り出す可能性がある」。つまり建築を創る人間を多く育てれば、必然的に良い建築が多く生まれる。ところが「どうも最近は自分がやってしまった方が手難い」と苦笑。「いろいろと建築を造ってきたが、僕のいちばんの作品は自分の子供かな」としみじみと語る。「建築への心意気が子供を媒介として永々と伝わって欲しい」「子供がどんな世界に住もうとも、一点に集中した心は何んでも通じる。たまたま自分は建築をやっているから建築の心を伝えることになるが、これは他の世界の心にも通じることだろう」。したがって「自分の仕事に対し、今の時代のリアクションがなくても一向にかまわない。むしろ、取り壊す段になって、あれを残したいといわれる作品ができれば最高」と建築の時間のスパンを長くとらえている。

最近では「自分の中で時間が延びた感じをもっている」という。ジャーナリスティックなリアクションを得るために、性急なターゲットの絞り込みをして、建築の本来あるべき姿からはずれてしまう情況を恐れているからでもある。大きな時間軸の中で個性化されることが真のポピュラーになり得るという強い信念を持ち続けているのである。「大切なのは核になるものである。副次的空間はいずれ壊れる。伊勢神宮のように歴史性とはものが残るのではない。仕掛けが残る。つまり生きざまが残っていくことでもある」と熱っぽく語る。この思想を延長していくと「文章だけの建築も可能で、ペーパーアーキテクチェアーでも立派な建築である。むしろ建築以上に建築としてのいのちをもっている」と柔軟な思考で歴史と文化を見つめている。そして「河内生まれの人間は、河内が過去、文化的接着材として存在した歴史性を背負っている」と自らを分析。

勇ましくも、タフネスで、精力的な仕事の合い間をぬった唯一の趣味は「誰にもいわずに、1日か2日絵を描きに行くのが最大の精神的贅沢」と目を細める。〔次号の登場者は深谷浩一氏（深谷浩一建築事務所）〕

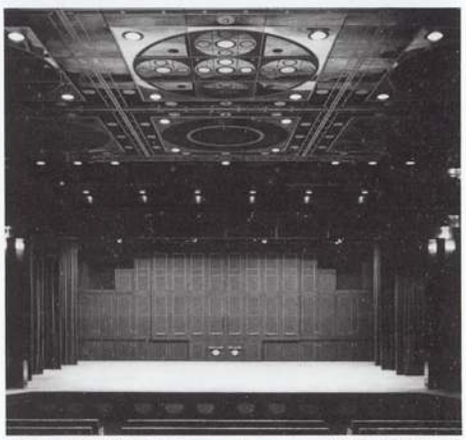
眩暈瞑想

中嶋龍彦と四天王寺学園和光館―

加藤　力



サンクンガーデン



天井に曼陀羅を配したホール　　写真　村井　修

中嶋龍彦の生れは河内である。喧嘩ばやいと人はいう。河内の軍鶏と呼ばれるゆえんの一つはここにある。喧嘩も仕事のうちと、その闘争精神、人一倍にして旺盛である。もう一つは河内弁で早口、たたみ込むようにまくしたてる。まくしたてられたが最後、相手は一瞬たじろぎ、退ぞくはずである。話に妙に納得させられるのは、内容が明快、痛快、壮快ばかりではない。理にかなっていることと筋が一本通っているからでもある。先を見透した洞察力もある。

アルコールでも入り、会話に熱が入る。いつの間にやらとり澄ました様子は消え去り、何やらドツかれるような勢いでまくしたてられる。ハタッと気を取り直しても、時すでに遅く、術中掌握の中である。非礼千万承知で世俗のたとえを引けば、八尾の朝吉、今でいえばさしずめ吉本の横山やすしを建築家に仕立てあげたような感がある。河内の人は実直にして人間味がある。加えて、河内の建築家は理論派でもある。20年間もの長い間、四天王寺学園の仕事を通じて仏教教義に精通する。会話の中に設計者特有の難解用語も飛び出して、仏教用語も口をつく。が、片肘張ったところなぞ何もない。ザックバラン解かりやすい説法が特色である。

この人にかかればさしもの世界のポストモダニスト、磯崎新も磯ヤンに、渡辺豊和も豊サンと、何やら隣のオッサン風の扱いとなって様をなさない。評価判断も迅速。つまらない他人の作品については、多くは語らず一刀両断〝アカン〟と一言切って捨てる。いいものに対しては貪欲な造形食欲をもって自己消化してしまう。

さらに、河内の人は情報に敏感、機敏に対応をする。河内はかつて難波と大和にはさまれて、南に紀伊、北に摂津、山城の国を控え、世風の情報の交換、交流、掌握の要所であったという。現在もこの伝統は受けつがれ、すなわち自由自在、先端を走らないと気がすまない。情報に対しては当意即妙に対応するという。

四天王寺学園大講堂（和光館）は、そうした設計者の特質、心情、性分、すべからく滲み出た建築であろうか。そこは聖徳太子の例えば〝和をもって貴し〟を建学の精神とし、その教学、精神を具現、体現させたシンボル空間という。華綺眩暈、恍惚呆然、そのテーマの気運壮大さに従って、内部は強靱な情熱と燃えるような語りかけに充ちている。

まず、この施設の特色は、その概要のほとんどを、そっくりそのまま地中に埋め込んだところにあろう。そこに設計者の力量と思い切りのよさと、一流の計算とがみえる。むろん狭い校地の有効利用や、歴史的地域の環境保全を考えてのことである。しかし、この地は古代、荒墓山と呼ばれ、四天王寺を創立した蘇我が滅した物部一族の皿と怨念ににじんだ土地である。あえて、その地中に和光館は埋められた。勇猛果敢、歴史にいささかもたじろぎ萎縮するところがない。しかし、地表にわずかに突出た建物の部分を見れば、それは全体に低くおさえられ、既存の伽藍のしころの勾配にそろえられたという屋根が、繊細微妙に抽象化され現代の美学を表現しているものの、怜悧、冷徹に周辺の環境との調和に準じている。古きを尊び、しかし時代の感覚と思考を反映させている。鈍色の適度のスケールにおさえられた屋根はまた、学園で学ぶ者が居ながらにして、七堂伽藍を望める工夫とも聞く。合理やその技術が歴史の情念を越えている例とでもいおうか。

さて、参道からわずかにはずれて、伽藍配置の軸線にそって降る階段を、一歩、二歩、三歩と地界へ足を踏み入れる。玄昌石の壮重な脇壁と床が俗世の垢ではらんだ身を引きしめる。サンクンガーデンに面する外壁の部分はコンクリートの打放し。アクリルクリアーで塗られた剝き出しの壁が荒々しくも、生々しくも冥界の表情を伝えくるかのようである。煩雑な俗世の雑音が次第に薄れて、空気の濃度が重く沈んでいく。サンクンガーデンに植えられた1本の立本をながめ、地表からの光が差し込むホール、ロビーへと入る。形象と素材の冥さが増して、場所のポテンシャルの昂が身体の中で大きくふくらんでいく。しかし稀なる夢の体現はこれから始まる。

客席の扉を引きあける。瞬時、微温俗世の空気が停止するかのような想いに駆られる。広大無辺、時空超越、蠱惑的な解脱の世界がそこに拡がっている。艶やかであるが堅固な表情をもつ。冗舌であるがまた沈思を守る。新奇ではあるが記憶のヒダを触発するところがある。聖と俗、柔と剛、闇と光、夢と現実。あらゆる空間の体系を取り込んで得た変幻自在の空間がひろがる。ここを胎蔵界とみなすことができるとある。天井には一面、つややかな光をもつステンレス板の上に、金剛界の曼陀羅模様が配されている。中央に如意輪観音の種子、その周辺に四天王寺の種子が散々と取り巻く配列である。目を正面にむければ緞帳はやわらかな光を増して、胎蔵界の大日如来の種子をモデュファイしているという。その光が宇宙の永遠に壮大に拡散していく様が描かれている。舞台の周辺は葡萄唐草の掘られた幾可学形状の箱が黒々と重ねつけられてこれを止めている。壁をみよう。腰までは花崗石の江戸切石積みが、その上からはいぶし銀レンガのブロック積みである。天井すれすれのところで、フッと細長い隙間をあけて天井を軽々と浮かせている。客席に座して、上をみあげれば、隙間からの光彩が長々と尾を引いて水平に流れ、曼陀羅の上にちょうど緞帳の大日如来の文様が重ね映って空のかなたへ飛翔していく。胎蔵と金剛、両界の統合の空間がここにある。夢幻荘厳な光景である。大胆な創造の世界である。おそらくは儀軌をも超越した想像の空間であろう。設計者の技量、特質、充分に発揮された空間であろう。この空間にはあるいは異議をはさむ者もいよう。情報社会といえどもわれわれ未だ技術の時代の迷路の中をさまよっている。容赦のない技術の力の支配する創造の時代である。想像力が裏羽し、涸渇した時代の中で、恍惚たる記憶を取り戻すものもまた、剝き出しにされた創造力の力ではないだろうか。我々は今、重い時の中に居る。

（かとう　つとむ／京都工芸繊維大学・住環境学）

受託試験について

皆様には平素当試験所をご利用いただき厚くお礼申し上げます。

当試験所では、本年３月末をもって所長・奥島正一が退任いたし、４月より若林實前京都大学教授が所長に就任いたしました。一方、所員も若干の人事異動を行いました。新所長を中心に所員一同研鑽に励み、公的試験・研究機関として建設産業の発展・向上に貢献すべく、より一層努力いたす所存でございます。

下記受託試験業務内容をご参照の上、ますますのご利用をお願い申し上げます。

試　験　所
所　長　若林　　實
副所長　正法院陽三

試　験　室　名	業　　務　　内　　容
耐火・防火試験室 室長代理　藤川　　慧 主　　査　三田村茂雄 主　　査　大濱　信昭	この試験室の耐火・防火試験施設は、西日本唯一の公的試験施設であり、建設省、㈶日本海事協会および住宅金融公庫の指定試験機関となり、建築基準法に基づいた耐火構造、防火構造、防火材料の認定のための試験等種々の耐火・防火試験を行っております。 （主な試験施設）柱用耐火炉、梁・床用耐火炉、壁用耐火炉（大・中各１基）防火材料試験装置、ガス有害性試験装置、模型箱試験装置
構造物試験室 室　　長　俣野　善治 主　　査　益尾　　潔 主　　査　井上　隆二	この試験室では、構造物および構造部材の載荷試験、建築部品・大型工事用機材等の力学的性能試験を行うほか、建物の耐力調査・診断を行っております。また、縮少模型による建築物に作用する風力、風圧係数および周辺気流の測定もこの試験室で行っております。 （主な試験施設）載荷床、曲げ試験台、ストロングフレーム、1000ｔ構造物圧縮曲げ試験機、動的加力実験装置（20tfサーボパルサ）エッフェル型吹出式境界層風洞
音・熱・動風圧試験室 室　　長　十倉　　毅 主　　査　上田　哲夫 主　　査　倉橋　岩夫	この試験室の音響・熱試験棟は、建物自体が試験施設となっており、サッシ、ドア、壁体、パネル等の遮音、熱貫流率試験等を行っております。また、この試験室の動風圧試験棟では、サッシ、カーテンウォール等の耐風圧強度、気密、水密試験、防火戸の遮煙性能試験、防火ダンパーの漏煙、温度ヒューズ試験、換気扇の風量試験を行っております。さらに本年２月からは、グリース阻集器の性能試験もこの試験室で行うこととなりました。 （主な試験施設）第１～第４残響室、第１～第４熱実験室、動風圧試験装置、防火戸自動閉鎖機構試験装置、漏煙圧力室、グリース阻集器性能試験装置
材料試験室 室　　長　田村　　博 室長代理　長橋　英彦 主　　査　高橋　利一 主　　査　吉木　重明	この試験室では、建築材料（工事用材料を含む）のＪＩＳ、ＪＡＳＳ、公団規格等に基づく各種性能試験を行うほか、既存建物の耐久性診断を行っております。 試験項目としては骨材の潜在性アルカリ反応試験、セメント・コンクリート用化学混和剤の各種性能試験、吹付材の各種性能試験等です。 （主な試験施設）200ｔ万能試験機、インストロン万能試験機、100ｔ耐圧試験機、恒温恒湿室（3）、凍結融解試験機、サンシャインウェザーメーター、オゾン劣化試験機、塩水噴霧試験機、シュミットテストハンマー、非破壊鉄筋探知機、超音波デジタル式コンクリート品質試験機
大　淀　分　室 室　　長　尾谷　　透 試験係長　池田　　茂 業務係長　渋谷千江子	この分室は、当試験所で最も早く業務を開始したところで、骨材、コンクリート、鉄筋等工事用材料の各種試験を行っております。 （主な試験施設）200ｔ耐圧試験機、100ｔ耐圧試験機、100ｔ自動引張試験機、骨材試験用機器
堺　分室 室　　長　西　　仁 試験係長　武井　敏明 業務係長　西口　光子	この分室では、セメント、骨材、コンクリート、鉄筋等工事用材料の各種試験のほか、コンクリート・モルタルのヤング係数測定、境界コンクリートブロック等の曲げ試験、シュミットハンマーによるコンクリート強度の推定（現地出張）を行っております。 （主な試験施設）コンクリート試験用全自動100ｔ油圧式耐圧試験装置、100ｔ万能試験機、シュミットハンマー、骨材試験用機器、セメント物理試験用機器
京　都　分　室 室　　長　星野　善孝	この分室では、骨材、コンクリート、鉄筋等工事用材料の各種試験のほか、コンクリートのヤング係数測定を行っております。 （主な試験施設）100ｔ万能試験機、100ｔ耐圧試験機、骨材試験用機器
加古川　分室 室　　長　中尾　敏郎 試験係長　近澤　一弘	この分室では、骨材、コンクリート、鉄筋等工事用の各種試験のほか、セメント二次製品、インサート、ボード、パネル等の強度試験も行っております。 （主な試験施設）載荷床、100ｔ耐圧試験機、100ｔ引張試験機、骨材試験用機器

本試験所●所 在 地……〒565 吹田市藤白台５－８－１（阪急北千里駅より北西約１km、国立循環器病センター西隣）
●電　　話……(06) 872－0391(代)
●営業時間……平日：午前９時～午後５時、土曜日：午前９時～正午

ユーザー参加のすまいづくり

藤野　邦夫

—グループ分譲住宅制度—

ユーザー参加のすまいづくり（コーポラティブ方式によるすまいづくり）への取りくみがわが国で本格的に始まったのは、10年ほど前からであり、現在までに全国でおよそ3500戸の実績を持っています。住宅に求められるものが多様化し、一律な住宅供給のあり方に見直しが必要とされ、そんな背景の中からユーザー参加のすまいづくりが現れてきたと言えます。この方式への自主的な取りくみの中で、幾多の先進的ですぐれた住宅が建設されましたが、反面、土地や資金、技術、組織づくり等の面で解決すべき困難も数多くあったようです。

そこで公団としては、ユーザーが参加するすまいづくりの中に公団の制度的利点を持ち込めないかと考え、その結果誕生したのが「グループ分譲住宅制度」です。

1．グループ分譲住宅制度

この制度は「グループをつくり、自分たちで協同して住宅を持とうとする人たちに対して、グループの立案した計画をもとに、公団がその住宅を建設し、長期割賦で譲渡する」もので、さまざまなコーポラティブハウスのニーズにこたえるため、資金づくり、土地さがし、グループづくりなどの方法別に３つの事業方式(**表－１**参照)が用意されています。

公団のグループ分譲住宅には、つぎの４つの特色があります。

(1)よいコミュニティができる。

入居者がお互いに協同して住まいづくりをすすめるので、入居後もスムーズな近所づきあいが期待できる。

(2)入居者自身の希望が生かせる。

設計段階から参加するので、住宅の間取り、仕上げ、設備、そして共用施設等に自分の希望が生かせる。

(3)支払い条件が長期、低利である。

公団の長期割賦制度を利用できるので、最高35年と長期の支払いで住宅が取得できる。

(4)公団の責任で工事が行われる。

工事の発注、監理、建物の検査等については公団が責任をもってあたるので、質の面で安心である。

このうち、(1)と(2)はコーポラティブ方式の持つ特色であり、(3)と(4)は公団の分譲住宅制度の持つ特色となっています。

表－１　グループ分譲住宅の事業方式のタイプ

タイプⅠ（用地持ち込み・グループ募集型）	グループが自ら用地を準備し、建設計画を作って、公団に建設を申し込み、これを公団が建設し譲渡する。（常時受付）
タイプⅡ（公団用地提供・グループ募集型）	公団が一定の用地を提供してグループを募集し、グループが建設計画をつくり、これを公団が建設し譲渡する。（随時募集）
タイプⅢ（公団用地提供・個人募集型）	公団が一定の用地を提供して個人を募集し、その人達がグループを結成し、建設計画をつくり、これを公団が建設し譲渡する。（随時募集）

2．グループ分譲住宅の事業実績

昭和53年９月に制度化されたグループ分譲住宅も、すでに25プロジェクト、戸数にして800戸（43グループ）が誕生しています。関西でも５プロジェクト197戸（**表－２**参照）の実績を持っています。

3．事業の流れ—タイプⅠのモデルケースについて

このタイプは、ユーザーが自主的に建設組合を設立し、用地を決めて公団に持ち込む方式ですが、実際には、専門知識や情報網を持たない一般ユーザーだけの力では事業化はむずかしいことが多いようです。これまでの事例では、むしろコーディネーターが企画を立て、用地を探してユーザーに呼びかけるケースが大部分です。一つの建設組合の規模は、これまでの平均では16戸程度となっています。

(1)企画・募集：住宅に対する要求の似かよったユーザーが集まるように、住棟形式、住戸規模、住宅の基本イメージを示しながら人集めをします。ＰＲはコーディネーターが中心となって、企画書、ポスター、チラシ等を作成し、身近なクチコミで伝達されることからはじまり、時間をかけて少しずつ参加者を増やしていくようなやり方が一般的のようです。集まりでは、企画のあらましの説明のほか、コーポラティブ方式についてパネルやスライドで紹介し、モデルプランを示して、事業のすすめ方と、でき上がる住宅のイメージ

表－２　関西におけるグループ分譲住宅一覧

タイプ	名称	所在地	竣工（予定）	戸数（グループ）	敷地面積（㎡）	建物形式	コーディネーター
タイプⅠ	あじろぎ横丁	京都府宇治市小幡	57.3	17	2,768	タウンハウス 低層(２Ｆ)木質系	松村正洙 京都建築事務所
タイプⅡ	タウン花みずき	京都市西京区	60.3	22	3,020	タウンハウス 低層(２Ｆ)木質系	協同住宅研究会
	（仮称）洛西福西Ａブロック	〃	(60.10)	48	3,315	中層(2～5Ｆ)ＲＣ	京の家創り会
	名谷コープタウン	神戸市須磨区神の谷	57.12	80（5グループ）	12,580	タウンハウス 低層(２Ｆ)ＲＣ 低層(２Ｆ)木質系	名谷コープタウンコーディネーター技術者集団
タイプⅢ	タウン高辺	大阪府富田林市高辺台	56.8	30	5,770	タウンハウス 低層(２Ｆ)ＲＣ	公団関西支社（竹内建築事務所）

洛西福西Ａブロック



住宅・都市整備公団協力業者（ＰＲ）

総合建設業
海原建設株式会社
代表取締役社長　海原壹一
〒530 大阪市北区梅田１丁目２－300
電話　06－346－1900

総合建設業
南海建設株式会社
代表取締役　松川義一
本社　〒556 大阪市浪速区恵美須西３丁目14番22号
電話　06－644－1212（代表）
支店／東京・岸和田　営業所／堺・和歌山・橋本・神戸・枚方

について理解を促すようにします。

(2)準備会：建設組合ができるまでに、準備段階をのりきる数人の核となるユーザーのグループを結成します。その上で、少しずつ集まってきた人達を加えて、組織化が前進することになります。ほぼ参加者がそろってから準備会を持ち、事業のすすめ方や住宅づくりについての基本的な学習、建設組合の規約や役員の検討等をし、組合設立の準備をすすめます。

(3)組合設立・ユーザー会議：一人一人の入居者が住宅の建設に参加するに当たり、共同計画主体として建設組合を結成します。組合の運営に当たっては、理事長、副理事長と専門部会担当理事で理事会を構成します。建設組合が発足してから入居するまで、設計、管理のあり方等を全員で話し合って決めるためにユーザー会議をもって事業をすすめます。これは個人と全体との調整が求められるこの方式では欠かせません。ユーザー会議には常にユーザーとコーディネーター、設計担当者が出席します。また必要に応じて理事会や専門部会を持つことで細かい点に及ぶ検討ができ、ユーザー会議への原案をまとめる場にもできます。コーポラティブ方式で最も大切と考えられるのは、ユーザー同士の合意形成、つまり濃厚な意志疎通にあります。公平な情報伝達を条件として、理事会、および小グループでの合意形成が力を発揮できるユーザー会議が運営される必要があります。

(4)全体計画：アンケートや個別の対応による意向把握の結果をふまえて、コーディネーター側で配置素案を作成し、ユーザー会議で討議して決めます。住戸位置を決める前には、土地の専用、共用の考え方、用地費と工事費の按分方法等、判断のポイントとなる事項について基本方針を十分検討し、理解を得ておく必要があります。住戸の位置決めは、事業の大きなやま場となります。全員の要望を出し合い、話し合いで決めることを原則とすべきです。また具体的な位置に対する要望を各自が出す前に、位置決定の方法やルールを明確にしておくことが必要です。要望の整理のしかたとしては、住棟や階数などから、希望位置の幅をしぼってグループ分けし、グループごとに話し合いによって順次住戸位置を決めていくのが一般的です。場合によっては抽選等で決めることもありえます。

(5)基本設計：各戸の基本設計は、個別調整ですすめ、必要のある事項については、ユーザー会議で調整します。個別設計をすすめるに当たって、ユーザーが検討するための基礎資料として、まず住棟タイプごとに数案ずつのモデルプランと標準建設費、標準仕様を示すのがユーザーにとって親切です。設計相談は一人1回2～3時間程度、一人につき3～6回程度持たれる必要があります。ユーザー側はできるだけ夫婦で参加し、コーディネーター側は担当設計者が一貫して対応するようにしますが、担当者により不公平が生じないよう、事前に十分調整しておくことが必要です。住宅地全体のデザインにかかわる建物の外装、屋根、バルコニー等や、集会所、広場等の共用施設は、ユーザー会議全体で決定します。建設コストについて設計の途中で概算をつかむため、公団の一般分譲住宅等のケースに準拠した仕様を前提として、主体工事費、戸当たり屋外工事費、諸経費を算出し、参考数字とします。標準仕様以外のものについては、メニューとして代表的なケースでプラスマイナスの概算を例示するようにしますが、コストは結局は積み上げで決まるものであって、請け負い価額ではないことをはっきりとしておくことが必要です。



名谷コープタウン

(6)実施設計・積算：建設組合から設計図書と工事の負担方法の提出を受けた後、公団で積算を行い、譲渡予定価額を提示します。価額提示にともなって必要な各ユーザーの予算との調整は、工事発注までに大筋の修正を行います。土地代の負担方法は、各戸の専用（敷地）面積に応じて負担することをベースに、住戸位置による格差を土地持ち分に反映させ、公平さを保つよう配慮します。格差を設ける方が、位置決めがスムーズにいくことが多いようです。工事費の負担方法は、建物の共有部分は専用床面積比、専有部分は個別負担とし、屋外工事については戸数割とする場合が多いようです。

(7)工事発注：公団が提示した譲渡予定価額についてユーザーの了解が得られた段階で、発注用設計図書を前提に、各入居者と公団との間で譲渡契約を締結し、工事の発注となります。

☆

メモ□関西支社第一号のグループ分譲住宅の誕生「タウン高辺」

54年12月に30家族が初めて顔を合わせてからまる1年8ヵ月、ユーザーと公団が、ほとんど毎週土曜日に集まり、ひざをつき合わせて住宅づくりに取りくんできたその成果が「タウン高辺」に姿をみせています。グループをつくって共同で住宅づくりをすすめることを条件に、参加希望の個人を募り、公団がコーディネートをしましたが、多くのユーザーには初めての体験であり、コーポラティブ住宅についての学習を積み重ねながら、一つ一つ決めていくという文字どおりユーザー参加の住宅づくりでありました。多数の応募者の中から抽選で選ばれた人たちが顔合わせをし、建設組合を設立、配置計画を固め、住戸位置を決め、そして各戸の基本設計、実施設計とすすめました。そんな道のりを通して入居者の間に親しいコミュニティが形成されたことが、何よりの大きな収獲だったと言えます。

今、タウン高辺には、毎月1回、清掃デーがあります。当日は大人も子供も全員が集まってきて、いっせいに共用部分の清掃をはじめます。管理組合の運営も軌道にのってきました。野外でコーポラティブパーティーを開いたり、忘年会を持ったり。小学生が多いので子供会が盛んです。フィールドアスレチックに行ったり、クリスマス会やもちつき大会、ドッチボール大会、マメまきなど、子供たちも仲よしになって楽しんでいます。30家族の連帯が、新しいふるさとづくりにむかっています。タウン高辺の事業化の流れについては、「参加するすまいづくりへの指針．1982、公団関西支社」に詳しく記載。

総合建設業

株式会社 水間組

代表取締役社長 水間義雄

〒534 大阪市都島区東野田町1丁目1－4
電話 06－352－3121

知的開発力をもって社会のニーズに応える

村本建設株式会社

代表取締役 村本豊嗣

大阪本社 大阪市天王寺区上本町9丁目6番15号
電話 大阪(06)774-2111 ダイヤルイン受付案内台



けんちくの眼

荒木兵一郎
関西大学工学部教授

森内盛一郎
住宅・都市整備公団関西支社
都市再開発部長

瀧　光夫
瀧光夫都市・建築設計事務所主宰

藤縄正俊
大林組本店建築設計第二部部長

正月号から6月号まで上記の4氏が担当

高齢化社会を迎えて——混住には間を

狭小過密となりやすい集合住宅や下町長屋などでの混住では、何かにつけて葛藤が起りやすい。上階の人が歩く足音が頭の上で響くだけでも寝つけなければイライラする。ピアノを弾く優雅な音は心をなごませてくれるはずだが、それが気に入らなくて殺人事件に至った例がある。いずれにしても人と人との間には適当な空間的な間を置くことが重要だが、それができないときには、境界の壁を高く、部厚く積みあげるしかない。そこで鉄の扉も登場することとなり、お互い同士の関係を入口から遮断する。取りつく島もなければ、無関心や無視に至る。孤立しやすい一人暮らしの高齢者にとっては、死亡しても何ヵ月も発見されなかったなどの事態につながり、まったくみじめな話だ。

高齢者の永住する長屋や最近の一部の集合住宅には、玄関前に小さな坪庭があり、そこに丹精を込めた盆栽や草花が植っている。住人の優しさが偲ばれ、気に入らぬことがあっても、怒鳴り込めずに、茶飲み話で終ってしまう。ちょっとした間を置くことによって、人間関係をスムーズにする一例だが、本来、間取りとはこのような空間計画をいうのだろう。

（H．A）

チームワーク

風かおる五月、いよいよ屋外スポーツとくに野球のシーズンに入った。日本人は野球に熱狂しやすい民族のようだ。とくに春夏の高校野球には新聞も大きく紙面をさく。出身地－郷土愛の高揚、それに野球自体のもつ静と動の瞬間的な切替え、これらがわれわれのフィーリングにあっているのかもしれない。とくに高校野球で３ヵ年で基礎を学び技をみがき全国優勝するのは至難のことであろう。豪球投手、強打者などスターを擁して勝ち進むチームもあるが概して優勝するのは〝チームワークの勝利〟〝全員の勝利〟といわれるチームである。プロ野球でも同じことで１人の打者１人の投手が優勝させたと言われる例はごく少ない。

建築の仕事もいろいろの職種のチーム編成となる。設計にしてもデザイン、構造設備、施工にしてもあらゆる職種の技術者の協力が必要である。再開発などはさらにいろいろな専門家の協力を必要とする。西ドイツのある都市では再開発は都市計画、建築、法律、税務、社会心理の専門家でチームを編成するときいた。社会が複雑化していくと仕事も大きくなり、いろいろな人の協力が必要となる。チームワークの大切さがそこにある。各専門家がひとつの目的意識をもち協力して仕事を仕上げていくチームワークの大切さを思い起こすべきであろう。

（S．M）

残る

職業をきかれて、建築の設計をやっている、というと「仕事が残るからスバらしいですねェ……」とよくいわれる。「…うまくできたのが残ればいいですが、ヘンなのができてもそれも残りますから…」と答えると相手はなんとなく同情的な面持ちになり、「大変でしょうネェ……」となる。

たしかに良いところばかり残って、マズいところは次々に消えてゆくなら、これほど楽しい仕事もないだろう。困ったことに逆もありうる。

倉敷の丹下さんの市庁舎が、浦辺氏の手によって美術館になったと聞く。これは２つの意味で重要だ。１は建築家の作品を別の建築家がキチンと（まだ見てないが）リフォームしたこと。ふつうはこうはゆかない。あとの建築家は先のをコワして自分のものをつくりたがる。

もう一つ大切なのは、「１つの建築物が市庁舎でも美術館でもありうる」という事実で、「形と機能はほとんどカンケイない」ことを示す生きた見本ができたことだ。

（M．T）

快適な街づくりへの配慮

雨に濡れた歩道橋の階段を踏みはずして足首を強くくじいた。跛をひいた憂うつな数日間ではあったが、ハンディキャップを負った視点から、改めて街を見直す貴重な体験を得ることができた。

通勤時の満員電車、ビルの数階分もある駅の階段、目まぐるしい動きの雑踏、点燈時間の短かい歩行者信号、凹凸した舗装面、看板・電柱・標識・自転車など種々雑多な物の溢れた歩道。不自由な足の動きを思うと、街へ出掛けるのがうとましく感じられてがく然とした。

五体満足な若者だけに、街が存在しているわけではないのに、日本の都市はそれ以外の人々への視点と配慮を欠いたままに、発展し続けてきたことに気付く。

高齢化時代が間近かにせまっていながら、これといった施策の打ち出されていない現在、はたして21世紀の都市生活は、私達にとって快適なものになりうるだろうか——どうしても不安を拭いきれない。

（M．F）

◀「建築と社会」誌バックナンバーのおしらせ

バックナンバーがそろっております。購入ご希望の方は日本建築協会まで(電話06－348－0635)お申し込み下さい。バックナンバーは特価以外￥750(58年4月号以降は￥950)です。なお、郵送料は実費いただきます。年間購読のお申し込みも応じます。

＊印は欠号

巻＼号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和41年(47集)	＊都市住居	地下街	空気調和設備	建具金物	建築法規	国立京都国際会館	第13回青年建築家	1970年万国博会場計画	＊造園	最近の地下工法	市街地改造	公害と都市・建築
昭和42年(48集)	＊国立劇場	建設機械	日本建築協会50周年記念号	社会と建築	都市と流通空間	住宅と設備	生産施設	モントリオール万博	建設資金	最近の外装	第14回青年建築家	建築と生命
昭和43年(49集)	都市生活	都市のいこいの場	＊50周年記念事業記録号	＊幼児施設	＊教育施設	＊医療施設	都市交通施設	都市供給処理施設	群としての住居	都市のアクセサリー	第15回青年技術者	新都市計画法の諸問題
昭和44年(50集)	＊建築産業の構造と方向	鉄筋コンクリート構造耐震設計の再検討	計画と住民－中部からの報告	＊老人とすまい	建築史の方向－現代によみがえる過去－	建築行政に期待するもの	転換しつつある住宅生産	＊解決をせまられる公害問題	＊海洋開発	＊民家の系譜と保存計画	＊第16回青年技術者	＊九州からの報告
昭和45年(51集)	現代社会とは何か	建築と安全	＊日本万国博と技術開発	＊設計のシステム化	＊グッドデザイン運動	高層建築問題	欧米における契約	建築家の課題と責任	＊工事計画	ディベロッパー	第17回青年技術者	＊山陽・山陰からの報告
昭和46年(52集)	住宅－60年代の総括と70年代の展望	都市エネルギと無公害化ビル	建築基準法	都市生活とみどり	＊企画と設計のプロセス	解体工学	都市と港湾	転換期のニュータウン	＊軟弱地盤と震災	変貌する建築生産	第18回青年技術者	＊自然とレジャ空間
昭和47年(53集)	冬季オリンピックと札幌	600号記念号	インテリアデザイン	＊都市交通問題	＊水利用	量産住宅の設備	＊一般号(桂中学)		都市住環境へのアプローチ	＊都市防災	第19回青年技術者	北陸の新建築
昭和48年(54集)	建築教育	＊泉北ニュータウンのコミュニティ施設	＊大阪大林ビルディング	＊レジャーと施設	＊大阪国際ビルディング	＊老人コミュニティ	住宅－建築家のすまい	＊新用途地域制と環境	構造と施工	仕上と材料	第20回青年技術者	＊ヨーロッパのまちづくり
昭和49年(55集)	歴史的環境保全	明日の建築はどうなるか	保養所作品	既成市街地の住宅地整備の方策	北摂ニュータウン計画	建築生産と流通機構の変容	ビルの省エネルギ化	高層プレハブ住宅の構造設計	＊みどり	＊屋根防水工事の失敗例とその対策	第21回青年技術者	＊ビル防災に関する12章
昭和50年(56集)	図書館	＊東海の新建築	＊インテリア	PC板を使用した工業化住宅	＊社会・建築・法	＊都市の景観と施設	建築とプレストレストコンクリート	生活排水処理施設のあり方	＊人間環境としてのターミナル	騒音対策と防音材料	第22回青年技術者	＊集合住宅の設備
昭和51年(57集)	証言'76－建築デザインの動向	＊建築基礎構造の問題点	医療施設	床工法と材料	建築防災と法	市街地整備	工場建築と設備	鉄骨構造のジョイント	集住体のハードとソフト	＊結露防止対策と断熱材料	第23回青年技術者	＊設備からみた建築の問題点
昭和52年(58集)	＊デザインの動向－部分と全体	兵庫県－その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	コンクリートの品質管理と行政指導の方向	＊日影規制と法	＊身障者施設	照明設備	埋立地における構造問題－大阪南港と芦屋浜を例として	日本住宅公団と建築作品	ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ	建築における省エネルギー化	第24回青年技術者
昭和53年(59集)	デザインの動向－新旧のコントラスト	＊水	医療施設－病院建築と情報システム	外壁塗装材料	＊電波障害と建築	組合方式による集合住宅計画	住宅設備	新しい耐震設計	CAD－設計とコンピュータ	＊一般号	第25回青年技術者	ビル環境
昭和54年(60集)	＊転換期の再開発	大阪南港ポートタウン	商業空間	コンクリートのひびわれ	日影規制	ホテル建築と情報システム	＊農村施設の変貌	建物の終局強度の検討	庄内のまちづくり	80年代のインテリア	第26回青年技術者	建設業の労務事情
昭和55年(61集)	80年代の都市と建築－まちづくりの歴史と展望	＊●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	＊●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	住宅の耐久性	建築行政と法規	最近の防水工法	＊都市景観とアメニティ	屋内体育施設の設備	水ぎわのまちづくり	今後の外装吹付仕上材	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション・集合住宅	設計のための新耐震設計法
昭和56年(62集)	職能論	中国の論文－北京の都市計画	＊ポートピア'81	台所まわりの計画と設備	シーリング材の知識	災害と法－安全な環境をめざして	都市住宅－住まい手からの発想	●建築物と風－デザイナーのために ●日建設計作品集	住宅・都市整備公団－関西における都市整備を中心とした新公団の役割	間仕切壁の性能評価	第28回青年技術者	障害者の暮らしやすい環境と設備
昭和57年(63集)	新たな商業空間の展開	省エネルギーと開口部	医療施設－地域医療と設備計画	近畿の地盤と地質	都市景観－まちなみ美観への誘い	大阪市庁舎(第1期)	音とホール建築	大スパン構造	＊昭和設計作品集	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築	風土・空気と人間
昭和58年(64集)	＊関西の建築文化を考える	マイコンの建築への利用	＊多様化する運動施設	建築と品質管理	計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	大阪駅とターミナルビル	維持管理と設備更新	東海の将来と文化を考える	オフィス・インテリアの変革	プレストレスト(鉄筋)コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール	集合住宅と生活音
昭和59年(65集)	＊21世紀への関西－魅力あるまちづくりを問う――	関西の超高層ビル	ビルのリフレッシュー内外装補修技術の現状と発展―	建設産業とロボット開発	住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル(アバンティ)	消防設備のポイント	みどりとそれをとりまく人々	高齢化社会と生活空間	床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	光応用システムと建築
昭和60年(66集)	大阪湾物語	東海の現在と近未来	●自由様式への道－建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	情報化をめぐる建築・都市事情	ホール－それが生みだす文化－	外壁材料－最近の外壁－(予定)	水と空間(予定)					

雑誌の大きさは第48集からは現行のA4判変形、それ以前はB5判

楽屋は誰れのもの!!

大野　一夫

人間社会にはほとんどといって「陽と陰」、「表と裏」がうまく使い分けされています。私たちのたずさわる建築の世界でも「表玄関と裏玄関」、「正門と裏門」、「表口と裏口」のように必ず区分されて計画されているのです。ホール建築においてもこの例はいろいろなところに見られます。たとえば「正面玄関と大道具搬入口」、「正面入口と夜間出入口」、「客用入口と楽屋入口」などのようにいろいろの用途や形態によって位置づけされています。

ところが最近、楽屋入口について困った点があります、これは最近のホールは直接ホワイエに入口を設け、開演直前まで外で客を待たせることをできるだけしないで、共通のエントランスホールを設け、そこからモギリをすることにしています。今までの場合ホールの管理事務室や楽屋口は、ホールの入口と直接連絡できる場所ではなくて、まったく別の場所であっても成り立っており、楽屋入口に向って出演者は導入されていました。一方、共用エントランスをもった場合はどうしてもエントランスホール近くに管理事務室をもってきて案内を良くしようと、プラン上の工夫をします。楽屋入口はこの場合ホールの動線的にはエントランスの反対側になる宿命があり、これらをエントランスと結ぶにはそうとうの面積が必要になりつい大きなルートは遠慮してしまうことがあります。

ここに大変な時代の移り変りとともに不幸な出来事が起るのです。ホールを利用するそうとうな割合が東京や大阪の出演者であり、その人たちがホールを訪れる際、「○○ホール」といってタクシーに乗ります。タクシーはホールの正面、または車寄玄関にスーと付けられ出演者が降り、まず建物のエントランスホール＝表口には入ってしまいます。それから楽屋口をさがしても小さなサインではなかなか判らず管理事務室を尋ね楽屋入口の場所を聞きます。すると「楽屋は裏口」ですと説明しても、一度玄関は足を踏み入れるとも う外に出るのはめんどうと、なんとか玄関から行くルートを求める。……この原因は、正面玄関から楽屋に行くルートを作らない建築家の側にも責任がありますが、出演者も「○○ホールの楽屋入口」とはっきり運転手にいわないこと、主催者が楽屋入口があることを徹底しないこと、会館も楽屋入口を積極的にＰＲしないことなどいろいろの要因があります。

さらに出演者が日本の伝統芸能の格式に従い、ホールの表は「客の入口」、出演者の入口は「楽屋入口」と徹底しなくなったことが最大の原因ではないかと考えられます。

ここでもうひとつ別の見方をしてみますと、「楽屋」は出演者にとって舞台が大事であり、それ以前に化粧をし衣裳を着け、心を落ちつけ出番を待つ重要な場所であるはずで、出演者にとって楽屋入口は「表」のはずです。この楽屋を安全で、心やすらぐ場とするために、一般客のルートとは区分し、楽屋番を設け厳しく出入りのチェックをし、盗難やトラブルのない、そして静かな場所としてプラン上の工夫をしています。しかし現状の使用状況は、楽屋番となる会館の守衛も人件費の関係で居ず、主催者も、モギリや出演者、出し物の用意、そして次のホールとの打合せなど人手が足りず楽屋の番などは居ないのです。ですから楽屋玄関や楽屋ロビー、守衛室、主催者室を設けても利用せず、「楽屋は一体誰れのためのものか」と疑いたくなり、かといってこうした楽屋のあり方を放棄して、もっと正面から堂々と楽屋に入れればガードが大変であり、ますますチェックが不完全となりかねないのです。

（おおの　かずお／日建設計設計主管）

舞台床は堅貼り？

松山　新

九州の某市でホールを設計したとき、建物が竣工してから、舞台の床は堅貼りにすべきか横貼りにすべきかで、大騒ぎになったことがありました。行政と文化団体との絵にかいたような相互不信のなかで、竣工後オープン前に始まった地元新聞のホール批判キャンペーンによるものです。舞台床が堅貼りのホールなど日本中に一つもない。このホールは欠陥ホールであるという主旨の記事でした。

設計者としては困った立場になりましたので、キャンペーンの火付役の各文化団体の指導者に一人一人面会して意見を聞いて廻りましたが、堅貼りはよくないとする意見の持ち主についにあうことができませんでした。

事態は、舞台床の堅貼りホールも日本中にたくさんありますよという、事例による甚だ行政的な解決となったのでした。ただし、新聞のこの件に関する最後の記事は、このような問題が起きるのは、行政と文化団体の意志の疎通を欠くことに原因があり、堅貼りでも横貼りでもどっちでもいいのだという典型的なマッチポンプで締めくくって終わりとなったのでした。後日かなりいいわけがましく某有名劇作家の談話「舞台床が堅貼りでは江戸時代の封建的身分制度が表現できない」がコラム欄に登場したので、びっくりして、その劇作家の芝居をよく上演する作家お気に入りの劇場の舞台床を調べたところ、堅貼りとなっておりました。

そのとき意見を求めに、はるばるバスに乗ってでかけた中学校で、出会った演劇団体の指導者的立場にいる先生のやさしくも情熱な人柄は、今でも時々思い出します。

設計という行為を通じて、とくにホール建設というその地方にとっては一大文化的イベントに係りあえるのは設計者冥利につきます。

（まつやま　あらた／安井建築設計事務所専門部長）

ホールのワープ感覚

橋本　健治

ホールを設計し監理してその完成に至るまで2～3年の間、そのホールと生活を共にする設計者の目というものは、ホールのさまざまな部分の見え方を識ってしまう。ぶどう棚から見おろした舞台、幕間からみえる舞台と客席、ひとつひとつの客席や通路からの舞台のみえ方、天井投光室からの客席と舞台、昇降する迫りからの見え方、等々それらが融合して、とても人に伝えられないようなそのホール独特の全体的イメージが浮かべられる。

そんな設計者がそのホールを使うとしたら、設計者でこそできる何かがあるはずと考えて、かつて、ある演劇の舞台美術装置を担当させてもらった。本を読み、練習の全プロセスに立合い、舞台装置の構想を練るが、舞台美術を専門とする人のような発想には当然ならないし又できるものでもない。

役者の肉体がぶつかって格闘せざるを得ない装置。役者が観客の中に入ってこざるを得ない装置。即ち、役者と観客とを一体に演劇の中にまきこむような効果装置を考えなければならない。その装置は、ホールの舞台と客席に立体フレーム軸を貫通させ、ホールの外の街まで貫通するトンネルのイメージであった。ライトに浮かぶ装置と役者と観客、それらの影がホールの壁に大きく映るのをホールの天井上からひとりながめる作者だけの空間時間が忘れられない。

ホールの設計というものは、苦労を重ねて登場する出演者たち、この日を忘れずにやってきた観客たち、役らのために働く黒子の人たち、それぞれの気持ちを感じながら、ホールのさまざまな場所と人とをワープする行為といえる。形や材料や色の決定などは設計の表面的なごく一部に過ぎない。ホールの設計者には、このような独特のホール中をかけめぐるワープ感覚が欲しい。

扉を開く。そこには大きな闇と静寂の空間があるのだ。

（はしもと　けんじ／坂倉建築研究所）

感劇

谷　浩輔

年表によると、歌舞伎の始まったのが1603年、イタリアでオペラが起ったのがこの10年前の頃のようだ。建築ではバロック様式の始まりでサンピエトロ大聖堂がようやく形をなした頃で日本では江戸幕府が開かれようとした年である。それから約380年の今日、あらゆる種類の演劇、演芸、音楽、オペラに至るまで上演されるようになり、ホールの数は公共のものだけでも1000近くになっている。しかしそのほとんどのものは、ここ30年間に建てられたもので、そこで何が演じられるかは後廻しで見よう見まねで入れ物だけが先行した感である。演じる中味の方は明治の後半になるまでは歌舞伎、文楽が中心で中味と入れ物には何の違和感もなかったと思われる。

今でいう演劇の始まりは「演劇改良会」の設立からといわれているが、「造家学会」の設立とほぼ時を同じくしているのはお面白いことである。建築の見よう見まねはこの頃の西洋から学ぶことから始まったのであろうが、今も続いているようである。

もう数年前になるが、劇団「夢の遊眠社」の芝居を見て新鮮なショックを受けた。セリフのスピード、アクションの大きさ、展開の早さ、若者で超満員の客席、まさに若者のエネルギーそのものであった。舞台と客席とが一体となったその雰囲気はホールという既成概念での建築的な空間の不在を感じさせた。観劇でなく感劇である。公共のホールにおいては「多目的」という大義名分はまぬがれぬとしても、既成の一流演劇の鑑賞に場を貸すだけでなく、地元の高校、大学、同好会、はては近隣の自治体のそれをも含めた交流により創造活動の場として若者たちに開放し、育てて行く使命があるのではないか。近年、公共ホールにも手頃な大きさのホールができて素人でも扱えることは喜ばしいことではあるが要は運用次第である。

（たに　こうすけ／東畑建築事務所設計課長）

こけら落とし

谷　浩輔

「こけら落とし」という言葉がある。通常我々が用いるのは、劇場が新しくできて行なう最初の興業をいうが、元来、歌舞伎の専門語であって、劇場が完成することを意味したらしい。

こけらは「柿」と書き、柿坂、柿葺の柿である。建築大辞典によると、柿坂は木削り坂の意で、斧や鉋で削られた細かい木片をいい、転じて葺坂の一種のこととある。更に江戸時代、屋根を柿で葺いた木造の劇場が、完成後余分の板屑を掃き落とした事から、柿落としが先の様な意味になったという。

しかし、考えてみれば、柿葺は何も劇場に限った訳でなく、他の種類の建物に用いられたはずであるのに、劇場だけが今だにその言葉が生きているのはどういうわけだろう。俗にとんとん葺というくらいなのである。

想像するに、江戸時代において庶民の接する唯一の大建築が劇場だったのではないか。しかも、そこは数少ない娯楽の場であると同時に社交場でもあったろう。歌舞伎役者は今でいうアイドルだったろうし、武士階級の凋落と町人の力の抬頭の中で、観客という立場においては、武士も町人もない世界に遊ぶ事のできる唯一の場が劇場ではなかったか。今のような仮囲いもない中で、劇場という建物が次第に出来上がる過程を見てきた人々が、いよいよ完工時、建物が屋根の柿落としをする姿を前にして、その嬉しさは職人と共にあったろう。そういう町人の思いとそれを支えたエネルギーが、今にいたるまでこけら落としという言葉を存続させてきたように思うのである。

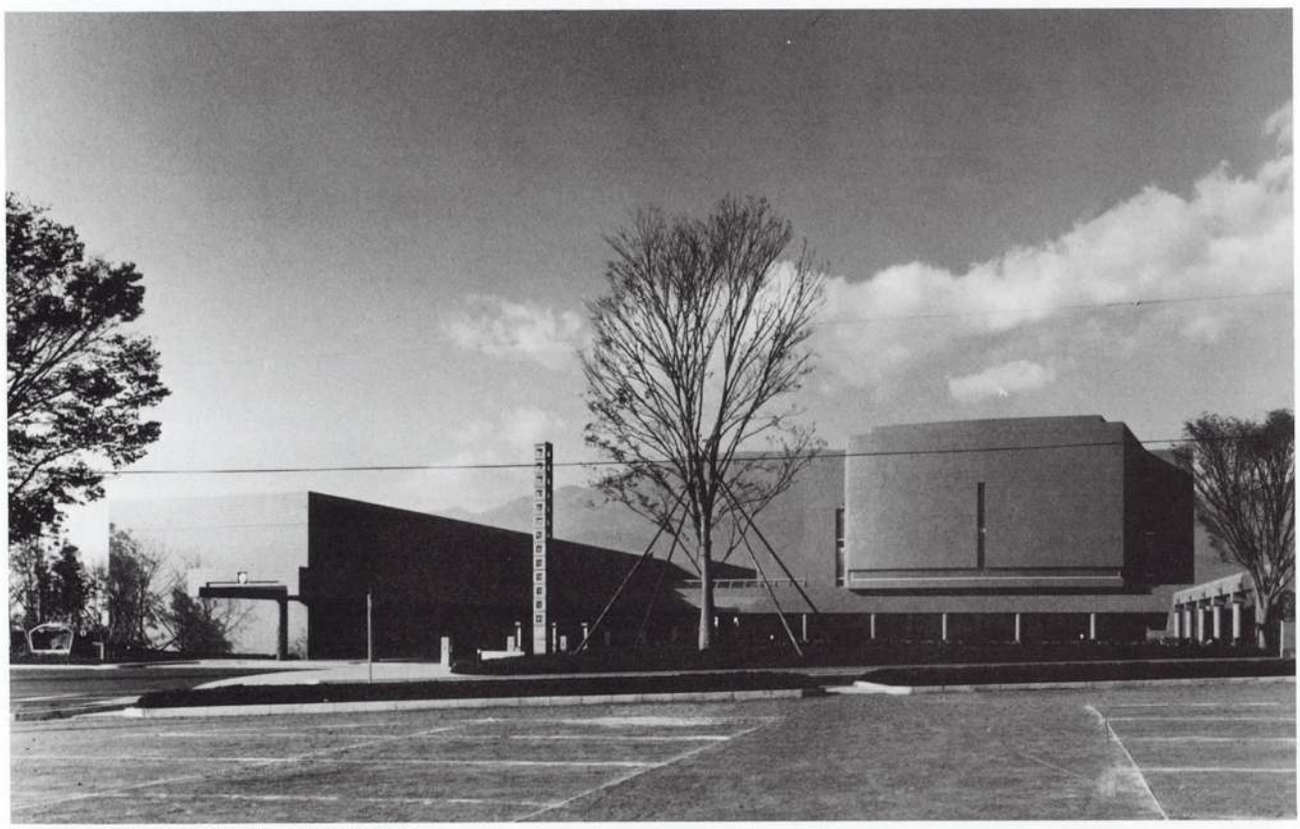
今、各地で文化会館という劇場が建てられてきている。それらの多くは、地方自治体の主導の許に、その内容を競っている様子である。果して、現在のこれら落としという言葉に込められた意味は市民のエネルギーに支えられたものなのだろうか。

（たに　こうすけ／東畑建築事務所設計課長）

南アルプス山麓に

「ヒューマンな環境」が……

南アルプス山麓桃源郷に
空気のしらべが聞こえます。
新菱冷熱が、さわやかで、
健康で、人と人とが温かに
ふれ合える、故郷のヒューマンな
環境を演出しました。



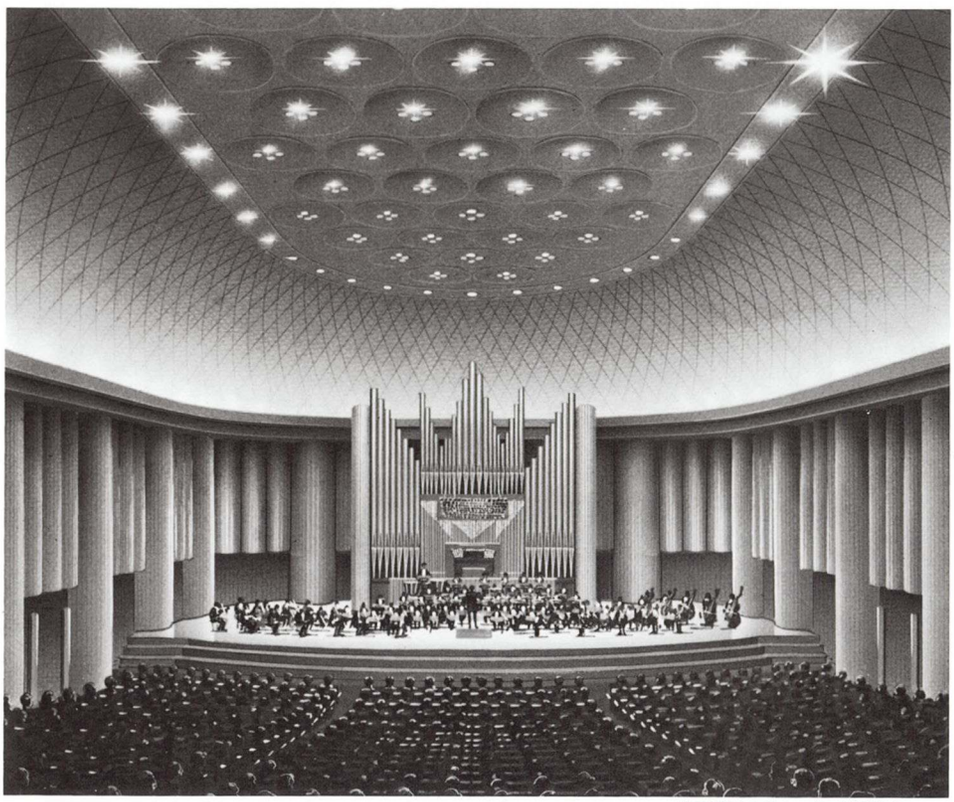
（山梨県白根町 桃源文化会館 空調工事施工）

新菱冷熱工業株式会社

取締役社長　加賀美　勝

本　　社　東京都新宿区四谷2-4 TEL(03)357－2151
甲府営業所　甲府市丸の内1-9-19 TEL(0552)35－5477
（山梨県信ビル）

特集・ホール
――それが生み出す文化――



松江市総合文化センター(仮称)大ホール

作品作風
吹田市文化会館〈メイシアター〉
白根桃源文化会館
人吉球磨カルチャーパレス
守口文化センター〈エナジーホール〉
徳島・新聞放送会館
OCC－TV&SPホール

特集企画幹事（順不同・敬称略）
大野一男、橋本健治、谷　浩輔、松山　新
大泉研二、北村恭一、松村孝治、本多友常

1インタビュー／ホール―それが生みだす文化
朝日放送代表取締役会長
原　　清
インタビュアー　日建設計設計部長
寺本敏則
2自治省のホール行政―リージョンプラザについて
前自治省行政局振興課長
小島重喜
資料：国の推進する最近のホール
3劇場運営者からみた公共ホール
3－1．ホールに期待するもの――商業ホールからみた公共ホール
コマ・スタジアム取締役社長
伊藤邦輔
3－2．「開かれた劇場」――ピッコロシアターの場合
兵庫県立尼崎青少年創造劇場館長
山根淑子
聞き手　坂倉建築研究所
橋本健治
4劇場鑑賞をすすめる側からみたホール
親子鑑賞活動とホール―伊丹おやこ劇場の例
伊丹おやこ劇場運営委員長
安積千恵
5演劇界興行スタイルの新しい動き
5－1．新しい街づくりとホール―OCC－TV&SPホール
大倉産業代表取締役社長
服部躬依
5－2．小ホール―若者文化の拠点
5－2－1．フリースペースから小劇場へ
―これからの若者文化はどこで産み出されるか―
21世紀ディレクターズユニオン代表
林　信夫
5－2－2．〝遺跡〟を造るなかれ
―活況呈する民間の小ホール―
オレンジルームプロデューサー
中島陸郎
5－2－3．ライブからのメッセージ
―バナナホールと近鉄劇場―
ワークショップ代表取締役
吉川裕之
5－2－4．酒蔵変じてライブハウス
―いろんな楽しみが毎日生まれています―
礫礫経営・プロデューサー
水島博範
5－3．ホールをもつ商業ビル―Yビル計画
吉田映治
柚建築設計事務所　加藤博司
5－4．脱ホールの論理―けんちくかのあほどもえ
日本維新派主宰
松本雄吉
6設備技術者からみたホール―ホールの内輪話
関東電機常務取締役
前田順一
7コラム――**ホール建築設計者より**――

吹田市文化会館「メイシアター」

設計監理　吹田市教育委員会文化会館建設事務所　東畑建築事務所
協　　力　音響　前川純一（神戸大学教授）　モニュメント　新宮　普
施　　工　竹中・前田・紙谷建設工事共同企業体



撮影　島　修一（外観および大ホール）
撮影　ＳＳ大阪

1
2 3 4 5

1．大ホール
2．大ホールホワイエピロティ
3．２階ロビー新宮普のモニュメント「空のイメージ」
4．東面全景
5．北東面前庭よりみる



大中小３つのホールと展示、会議機能を有す複合文化施設である。敷地は阪急吹田駅前の市庁舎に向いあう住宅地に位置している。セットバックした外観と、それを利用した屋上庭園、さらに１階を半地階とした敷地の立体的活用は、建物の威圧感を押え、周辺に欠如した緑地を可能な限り敷地に取り込みたいという思いから生まれた。

機能上の構成は、２階をホールゾーンとし、展示、会議機能をロビーを中心として１、３階に配しているが、例えばホワイエがロビーの吹抜を介して展示室とともに展示機能を果す、あるいはロビーの段床が演奏空間への転化をもたらすなど、各部屋が独立しながらもロビーを媒体とした多機能への可能性を期待している。

ロビーの２つの吹抜には鳥と雲のオブジェが空調の微かな風を受けて回り、壁に複雑な影を落とす。建築空間をキャンバスとして描かれた新宮晋氏の作品である。二つの吹抜はこれによって初めて一つのものとなり、字義通り空間に息吹が与えられた。

大中小３つのホールはそれぞれの規模に応じて音楽、演劇、人形劇という主目的を有している。各ホールとも特徴的であるが、とりわけ中ホールにはアダプタブル劇場という舞台機構上の特色がある。建築的にはホールの素材、色調、あるいは形態自体が舞台に対し働きかける事を考えている。おそらく、彫りの深い強固な壁が大ホールに豊かな響きを、フラットな壁と天井が中ホールにアダプタブル劇場としての舞台と客席の一体感を、扇形配置とベンチ形の椅子が小ホールに親密感を、それぞれもたらしているはずである。

（東畑建築事務所）

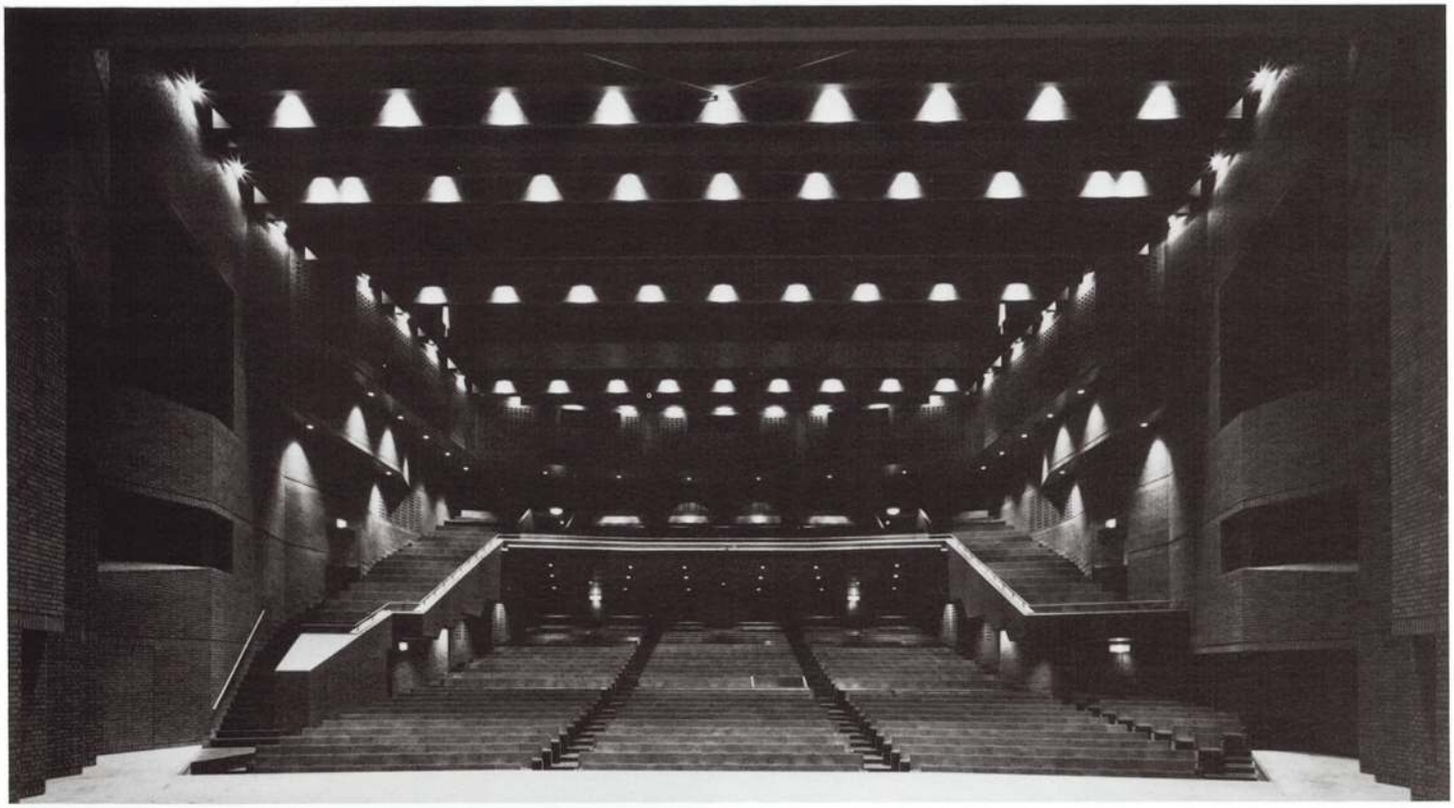




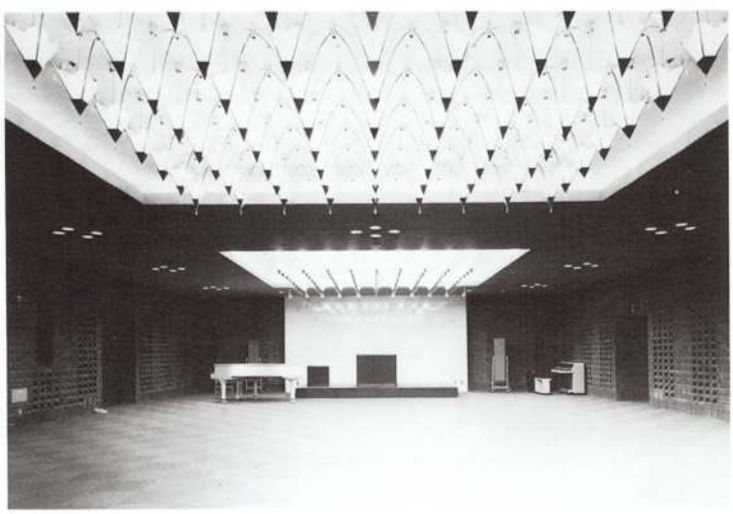




吹田市文化会館「メイシアター」







施工にあたり留意した点

公共的な建物の施工については、当然ながら、その機能と工程の過程で絶体的な安全性が要求される。とくに劇場建築における特殊性から、客席の空間をはじめ、舞台機構との関係で施工的には危険性の高い構造となるのはやむを得ない。そのなかで無災害を達成できたことは、物理面のみでなく精神面での教育に一致協力して取組んだ成果である。

品質的には、内外ともにタイル張りと、大理石が多く、とくに炻器質で大型な外装タイルは、工期の関係で後貼りとなったことから、剥離とエフロ現象の防止を重点管理項目とし、特殊な金物と、モルタルの調合で施工の前、後を通して接着強度のテストを充実して安全性を確認するなど品質の向上につとめた。なお広い面積での色調バランスの成果も、建築主、設計者の意に添えたことは、施工者として自負できるものである。

（竹中・前田・紙谷建設工事共同企業体）





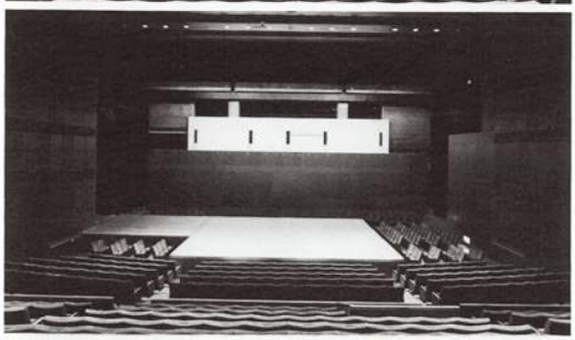
1．ステージからみたホール
2．小ホール
3．レセプションホール
4．中ホールステージと客席の変化例、プロセニアム形式（反射板使用時）
5．　同　上　　アリーナ形式変形1
6．　同　上　　変形2
7．　同　上　　変形3

所 在 地　吹田市泉町２丁目29番１号
敷地面積　10,229.24㎡
建築面積　 6,772.36㎡
延床面積　15,732.46㎡
構造規模　ＳＲＣ、Ｂ１、４Ｆ
工　　期　昭和58年４月～昭和59年11月
最 寄 駅　阪急千里山線吹田駅

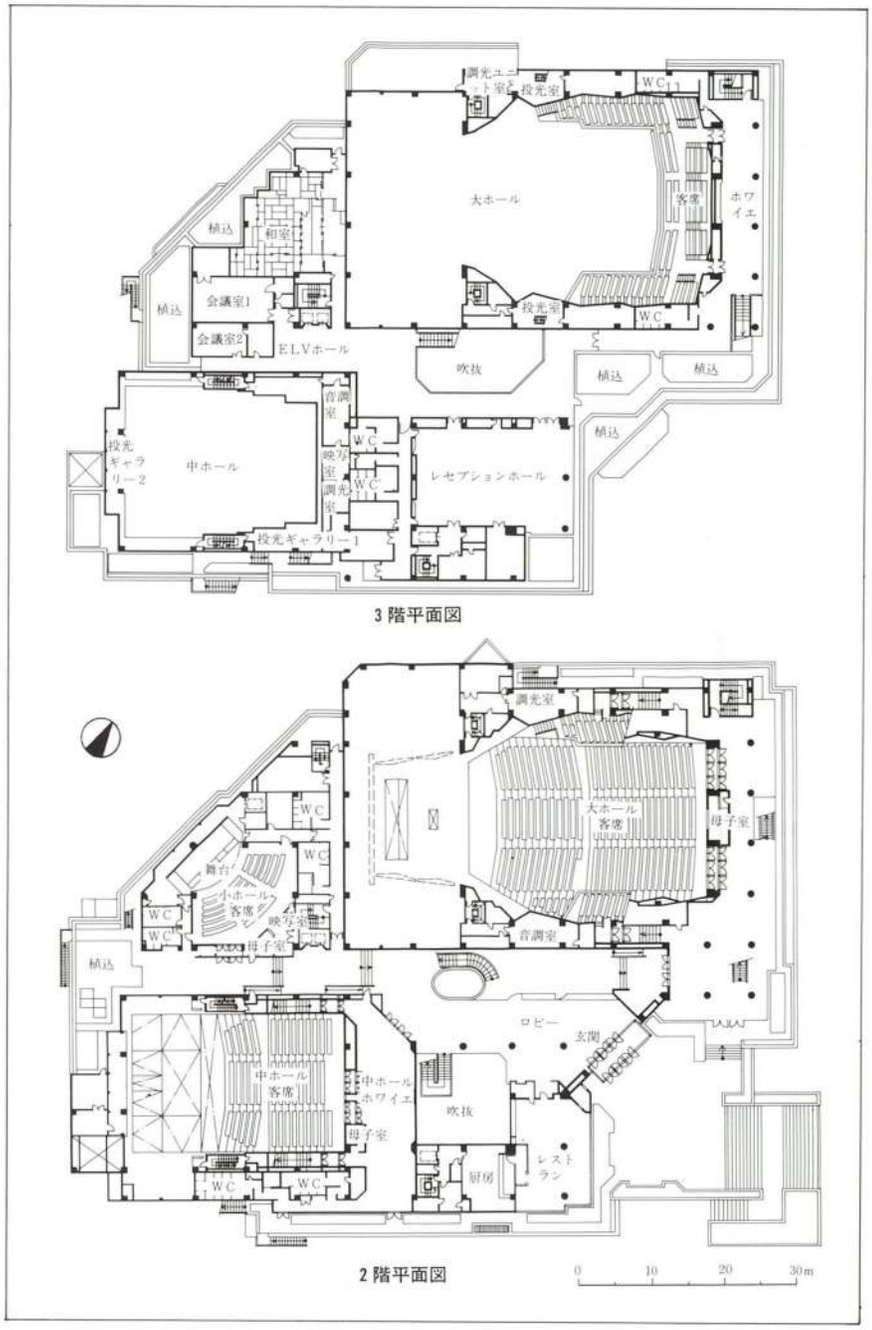
外装仕上
屋　根　アスファルト露出防水断熱工法、砂付ルーフィング▼
外　壁　タイル張
外部床　タイル張、一部豆砂利洗い出し











電　気	山陽電気工事大阪支社	大阪市大淀区本庄西3-9-3　ＴＥＬ06－372－1664	舞台照明	龍電社関西支社	大阪市北区芝田2-2-17　ＴＥＬ06－372－2824
機　械	新菱冷熱工業大阪支社	大阪市北区堂島1-1-5　ＴＥＬ06－344－7104	ガ　ス	大阪ガス北摂支社	高槻市藤の里町39－６　ＴＥＬ0726－71－0361
給　水	藤本商会	吹田市江坂町2-12-11　ＴＥＬ06－384－5140	ソーラーシステムI	新菱冷熱工業大阪支社	大阪市北区堂島1-1-5　ＴＥＬ06－344－7104
舞台機構	三精輸送機	吹田市江坂町1-13-18　ＴＥＬ06－385－5621	ソーラーシステムII	西日本シャープ設備機器	大阪市平野区加美南3-7-19　ＴＥＬ06－792－5805
舞台音響	松下電器産業近畿電設営業所	大阪市東区高麗橋1-12　ＴＥＬ06－201－1421	植　栽	イハラグリーン	吹田市津雲台1-20　ＴＥＬ06－871－1691

白根桃源文化会館

設計監理　日建設計

施　　工　西松建設

ホール





ステージから客席をみる



撮影　ＳＳ東京



正面全景

白根桃源文化会館

南アルプス連峰と釜無川（富士川）に挟まれた山麓一帯は、桃源郷の名にふさわしく、春には桃の花と香りでうめつくされる。そんなところにこの会館は建っている。

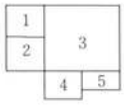
建物は、音楽ホール棟とコミュニティ棟の構成になっており、楕形山を背に建っている。正面の広々とした庭は、屋外での各種催しにも対応できるように回廊で取り囲んだ。

音楽ホールは、収容力756人と小規模ながら、音の響きの豊かなホールを目指し、客席容積も10m³/人と残響時間を長目にできる計画とした。また、オーケストラ演奏から室内楽、講演会など多目的な使用を可能とするため、客席後部に残響可変装置を設けた。可変幅も1.9秒（満席時）から1.2秒まで幅広く変化させることができた。ステージには半固定式の音響反射板とパイプオルガンの設置スペース（将来設置）を設け、音楽ホールとしての十分な活用と充実を図っている。

コミュニティルーム各室は、各種集会から結婚披露宴まで、多彩な催しに利用できるように、また、音楽会とレセプション、講演会と分科会など施設相互を連動させた使用が可能となるように計画している。

（日建設計・東京）

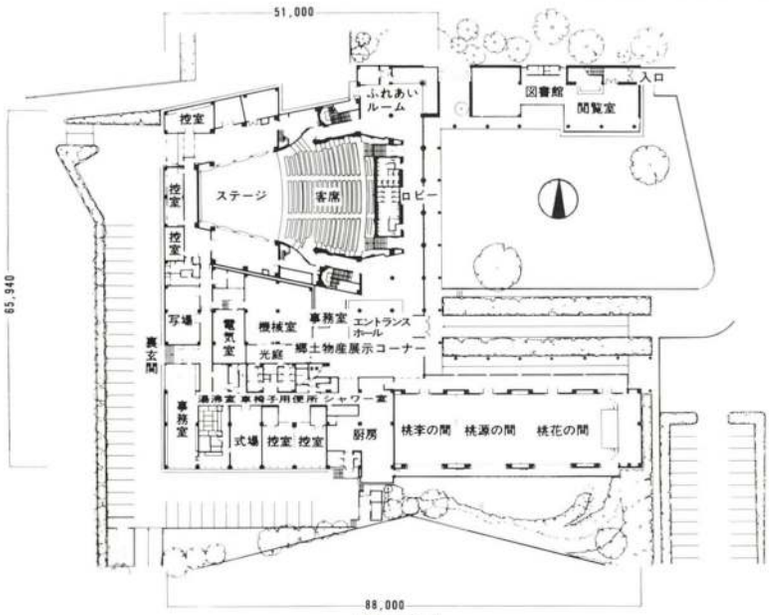
外　装　2丁掛磁器タイル　岩尾磁器工業
サッシ　アルミ・アルマイト仕上　新日軽
屋　根　アスファルト防水　砂利敷
外構床　磁器タイル100角



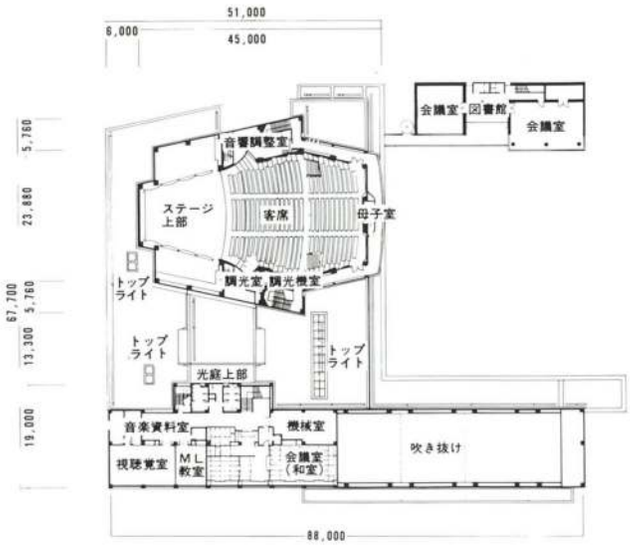
1．エントランスホールからロビーをみる
2．コミュニティルーム（3部屋通しの場合）
3．コミュニティルームの庭と池
4．ホールロビー前の回廊をみる
5．夜景





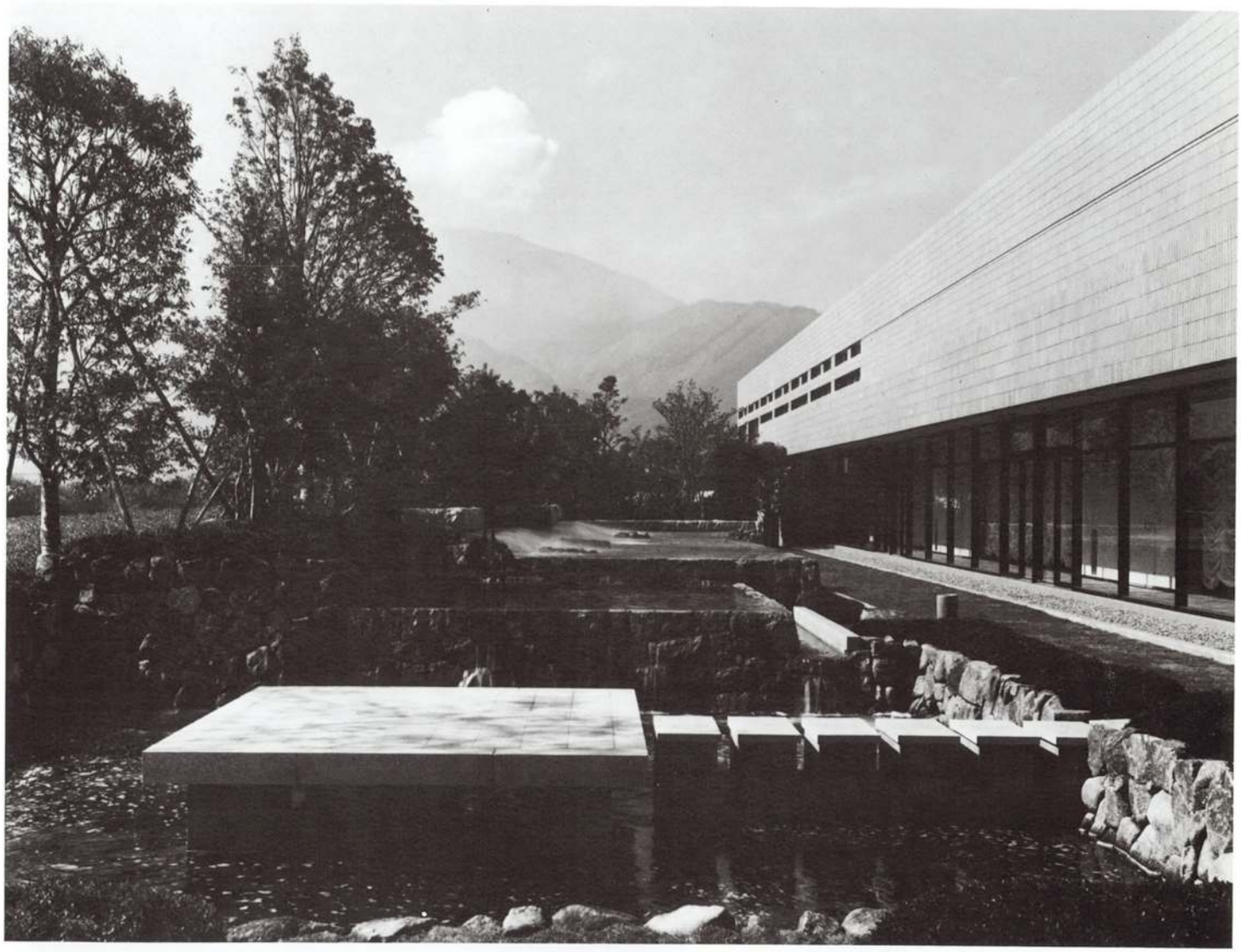


1階平面図



2階平面図

所 在 地　山梨県中巨摩郡白根町飯野2971
敷地面積　20,036.51㎡
建築面積　4,551.81㎡
延床面積　5,896.79㎡
構造規模　RC、一部S
工　　期　昭和58年4月～昭和59年9月
最 寄 駅　中央線甲府駅







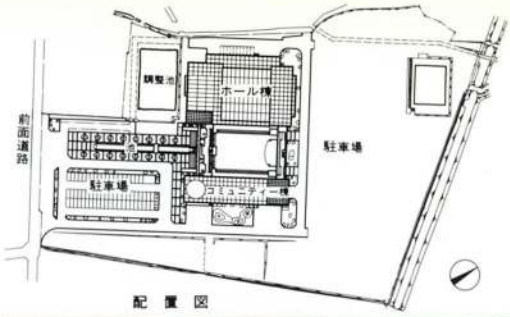
主な協力業者

空調	新菱冷熱工業	東京都新宿区四ツ谷2-4 TEL03-357-2151
電気	関電工山梨支店	甲府市中央4-12-15 TEL0552-33-5111
舞台設備	森平舞台機構	東京都台東区花川戸2-11-2 TEL03-842-1621
給排水衛生	大栄設備	甲府市下飯田2-11-17 TEL0552-24-4331
外装タイル	岩尾磁器工業	佐賀県有田町1288 TEL09554-3-2111
アルミ建具	新日軽	甲府市住吉2-4-29 TEL0552-32-1597

人吉球磨カルチャーパレス

設　計　安井建築設計事務所

施　工　間組



配置図

正面全景

撮影　河野博之＋総合写真・大楠　武

所 在 地　熊本県人吉市下城本町
敷地面積　40,792.74㎡
建築面積　 4,876.76㎡
延床面積　 7,756.36㎡
構造規模　SRC、RC、3F
工　　期　昭和57年12月～昭和59年8月
最 寄 駅　国鉄肥薩線人吉駅



日本三急流の一つ、球磨川上流に突然ひらけた町、人吉は地理的な条件もあって古来独自の文化を育ててきました。しかし、既に着工された九州縦貫道路最後の区間、八代～人吉間が開通すれば、九州の大動脈に直接接する町となり、大きな変貌を遂げることが予想されています。他の都市とやや隔絶された穏やかな町も否応なく新しい情勢に対処せざるを得なくなると思われます。人吉球磨カルチャーパレスはこの情勢を踏まえて建設された施設です。直接のサービスエリアである近辺13ケ町村の文化活動の核となるばかりでなく、八代近辺や宮崎との県境周辺にとっても中心的文化施設となる可能性を持っています。

大小二つのホールと図書館、プラネタリウム、他の文化活動のための施設や広大な駐車場、屋外の集会広場は、この状況に答えられる計画となっています。

計画の特徴は、ホール棟とコミュニティ棟、二つをつなぐ渡り廊下によってつくられた囲われた屋外の広場とアプローチ広場の流れる水にあります。屋外広場はステージや照明音響設備をもった約2,500人収容の平土間の空間で、種々のイベントが可能な構造となっていて、中央には人吉球磨地方の地図が床にパターン化されて設けられています。アプローチ広場の川状の池は、この地方の特徴である豊かな水を象徴したもので広い敷地の中の施設に潤いを与えるよう配慮したものです。

大小ホールは使用状態等を想定して、両方とも多目的ホールで計画しました。大ホールでの新しい試みは、1階座席後部に音響照明調整室をまとめて設けた点です。2階座席の左右壁際は1階まで連続させて、音響条件の改良と1・2階客席に連続感を持たせるよう配慮しました。

広い敷地の中で施設が散漫にならないよう、形態的には単純な箱型を採用し、箱のシンメトリーな連続によって緊張感を出すよう努めました。雨の多いこの地方の気候に対応させて、窓には庇をつけ、中間期は窓を開放してもいいように網戸をつけるなど実用的な建物をも意図しました。

文化は与えられるものではなく、自らが作り出すものと思います。熊本県南部一帯の文化活動の拠点となることを期待しています。

（松山　新／安井建築設計事務所）

主な協力業者

電　　気	九州電気工事熊本支店	熊本市本庄6-17 Tel096-366-2151
空　　調	日比谷総合設備福岡支店	福岡市博多区博多駅中央街8-36 博多ビル Tel092-431-6784
鉄　　骨	岩永工業	長崎県西彼杵郡時津町時津郷1000-137 Tel0958-82-2511
石	長門石材	山口県厚狭郡山陽町大字山川 Tel08367-2-0650
屋根防水	安藤工事熊本出張所	熊本市健軍本町12-8 Tel 096-367-9111
舞台機構	三精輸送機九州出張所	福岡市中央区天神1-14-16 三栄ビル Tel092-751-1824
舞台照明	松村電機製作所福岡営業所	福岡市博多区博多駅前1-15-20 日本団体生命福岡ビル Tel092-451-3831
舞台音響	日本無線福岡営業所	福岡市中央区渡辺通4-9-18 Tel 092-761-2636
ホール客席	コトブキ福岡支店	福岡市博多区博多駅中央街8-36 博多ビルTel092-441-0763
プラネタリウム	ミノルタカメラ	東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル Tel03-435-5551



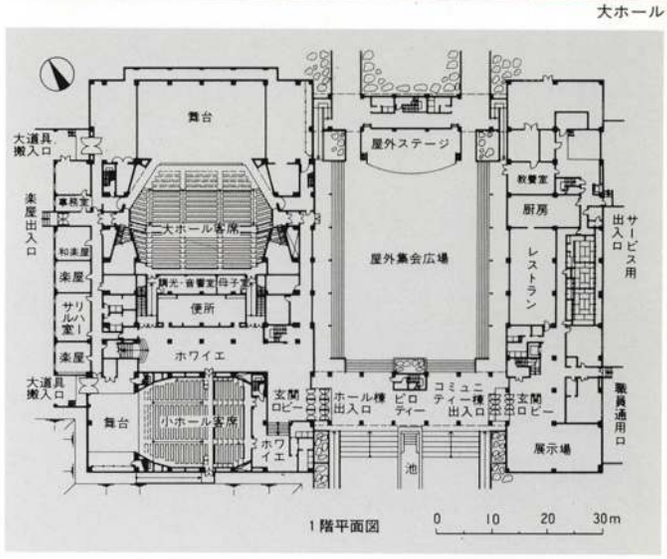
南側上空より



屋外集会広場



大ホール

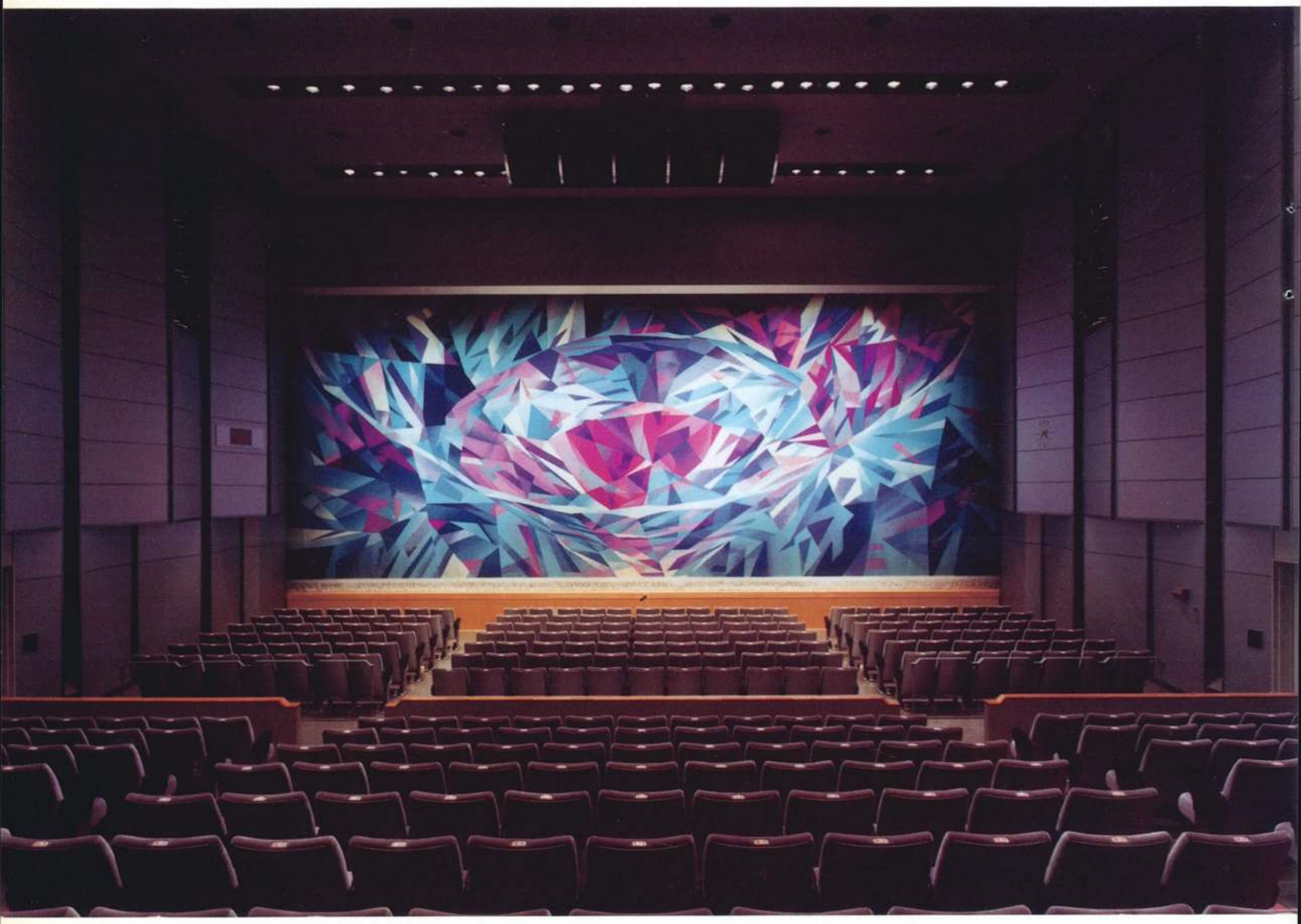


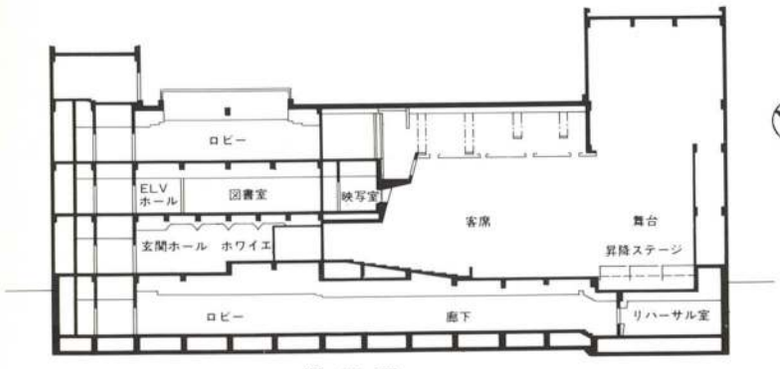
1階平面図

守口文化センター「エナジーホール」

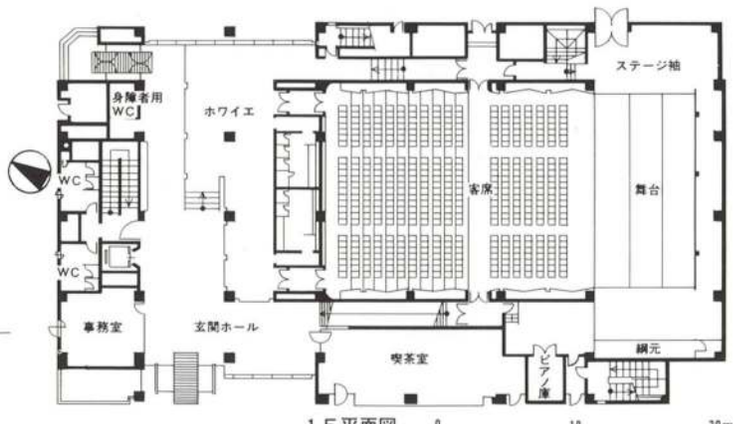
設計監理　守口市都市再開発部　安井建築設計事務所

施　　工　清水建設・不動建設共同企業体

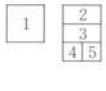




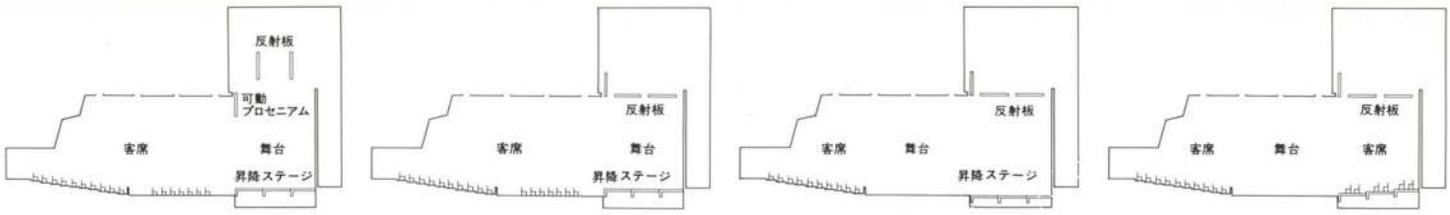
断　面　図



1Ｆ平面図



1．ホール
2．西面外観
3．ステージからホールをみる
4．ホワイエ
5．ロビー



I　演劇型式
（講演・演劇など）

II　コンサート型式
（音楽）

III　拡大舞台型式
（傍聴席付の会議など）

IV　中央舞台型式
（特殊な演劇・パフォーマンスなど）

所 在 地　大阪府守口市河原町1
敷地面積　11,386.80㎡
建築面積　1,500.02㎡
延床面積　5,165.15㎡
構造規模　RC、一部S、B1、3F
工　　期　昭和58年7月～昭和60年3月
最 寄 駅　京阪電鉄守口市駅

この7月にオープンする予定の守口文化センターは、守口市施行による京阪守口市駅前の市街地再開発事業の一環として建てられた文化施設である。勤労青少年の文化活動と、その発表の場として位置づけられるこの建物は、前者の機能として、音楽練習室・工芸室など、後者の機能として、ホール・ギャラリーなどを有する複合建物である。

最近、若者の間でとみに自己表現の欲求が高まっているが、その意欲の発露の場としての施設は；その質・量ともに充分とはいえない現状であろう。とりわけ、音楽・演劇などの発表の場としての、大き過ぎない〝小屋〟（小ホール）は、その需要のわりには、案外少ないのである。そこで、当建物のホールを企画・設計するにあたり以下の諸点を考慮して行なった。アマチュアグループでも満席にしやすい〝手ごろ〟な規模の席数とすること、多様なニーズに答えうる多目的性をもつこと、小さいながらも充実した設備を有すること、音楽の生音をよく響かせるためにこの規模のホールとしては、やや残響時間を長めに設定すること〈満席時想定約1.4秒(500HZ)〉。

多目的性をもたせるため、可動プロセニアム・可動反射板・昇降舞台などの装置類を導入し、舞台と客席の固定化や一方通行性を排除する工夫を行なった。使いかたの一例をパターン図に示すが、これら以外にも、自由な発想での使用方法が利用者の側から提案されることを期待している。

若者の活力の満ちあふれる場としての意味をこめて、エナジーホールと愛称がつけられたこのホールが守口の人々に愛され、地域文化活動の拠点となることを期待してやまない。（安井建築設計事務所）









電気	浅海電気	大阪市北区西天満3－7－4　TEL　06－362－8703	金属	大装金属工業	大阪市東区横堀4－5－2　TEL06－241－1291
給排水衛生	斎久工業	大阪市北区中之島4－2－38　TEL　06－443－5044	木工事	高島屋	大阪市南区難波5－1－5　TEL06－631－1101
舞台装置	三晃工業	大阪市西淀川区御幣島2－20－10　TEL06－474－3161	内装	高見商事	大阪市東区内本町1－11　TEL06－945－0791
AV設備	松下電器産業近畿電設営業所	大阪市東区高麗橋1－12　TEL06－201－1421	塗装	石渡康三郎塗装店	大阪市阿倍野区播磨町2－6－1　TEL06－693－2031
タイル不二窯業		大阪市淀川区西中島3－5－8　TEL06－301－9166	ガラス	三好ガラス建材	大阪市浪速区元町2－3－19　TEL06－632－0029
タイル	島田タイル	東大阪市鳥居町7－3　TEL0729－82－4330			



徳島・新聞放送会館エントランスホール

徳島・新聞放送会館

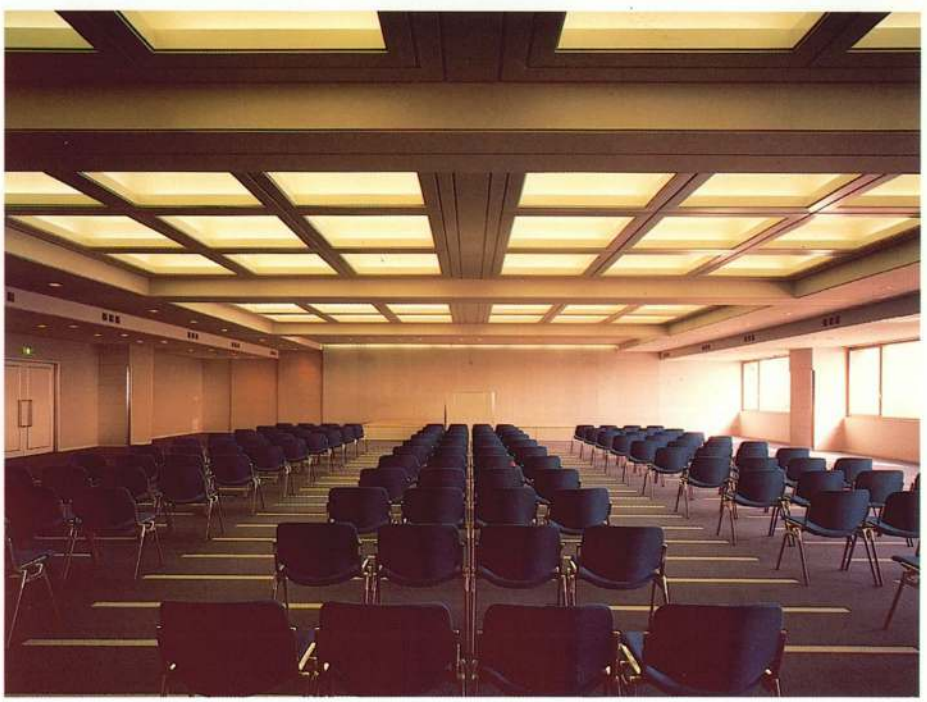
設計監理　加藤博司・柚建築設計事務所
施　　工　鹿島・西松・不動建設共同企業体

西側全景



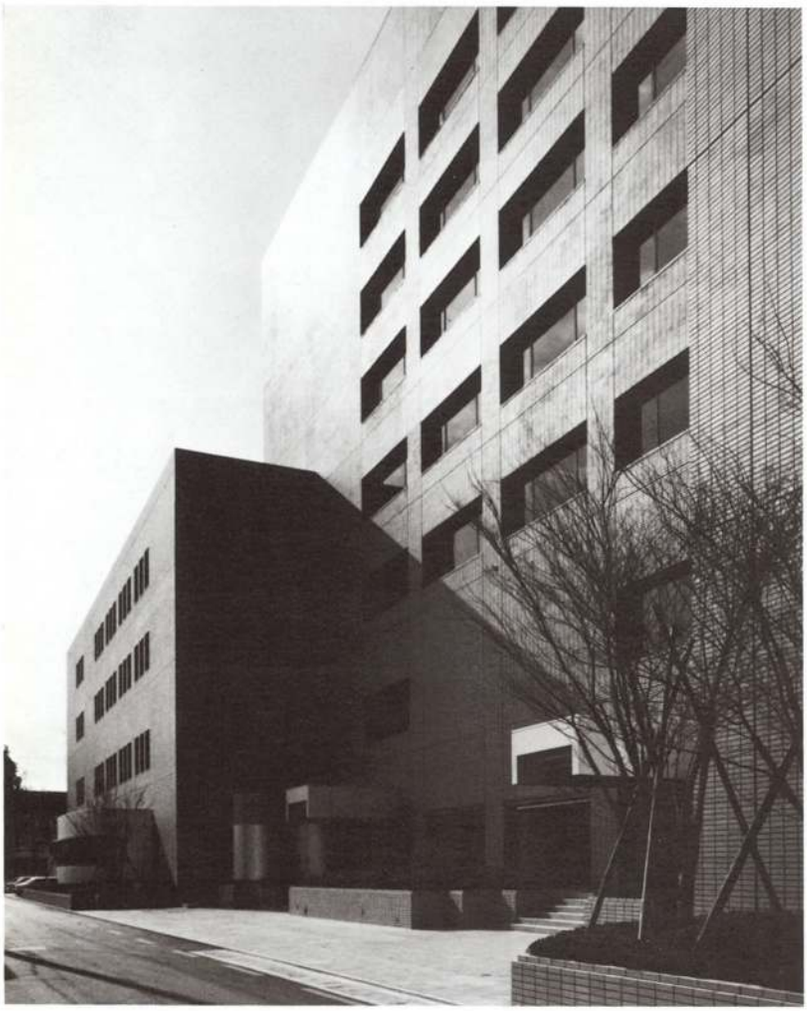


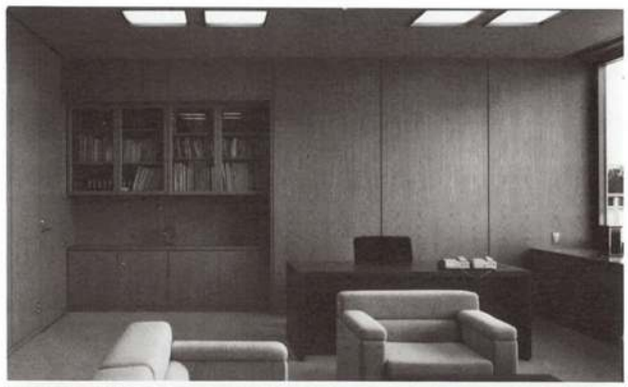
西側（国道）玄関庇とモニュメント



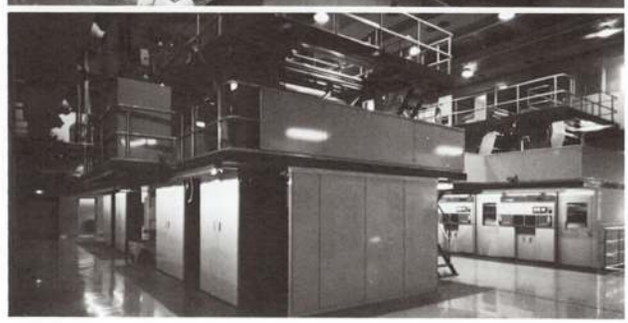
7F大ホール

徳島・新聞放送会館









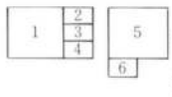
徳島・新聞放送会館は社団法人徳島新聞社と四国放送株式会社の共同ビルで、延床面積約21,000㎡、高さは最高部で地上35ｍである。敷地は徳島市の中心部に位置するが、周辺には徳島城址、市立動物園、高校、住宅などの比較的低層の建物が並ぶおだやかな街並である。新聞社、放送局という内部の複雑な機能を満たし情報の拠点にふさわしい表現と、街並に関連づけ、新たな風景をつくることが設計の意図であった。

具体的には国道に面して南北に 130 ｍの細長い敷地の両サイドに４階建の低層部、その一方をスタジオ関係諸室を、もう片方を輪転機関係諸室などとし、中央８階高層部に両社の共用部分である玄関ホール、食堂、大ホールを配置する。低層部をより周辺の家並のスケールに合わせるためアルミパネルでカバーした平家部分、吸排気塔などを点在させ、三方道路と建物の間はできるかぎりアキをとり植栽を施した。街並を構成する重要な要素である外装はグレータイルを選び、もっとも単純な貼り方で静かな表現とした。東側玄関植込の中に流政之氏の新聞・放送にちなんだユーモラスな彫刻〈撮影時には設置されていない。また玄関ホールにもＥＴＴＯＢＵＲＩと題した等身大のものが置かれる予定である〉西側玄関前に、伊原通夫氏〈ボストン在住〉の風の彫刻が鏡面状の水盤の上に建ち点景を添えた。

新聞社の機能をひとことでいえば－動－であり、放送局は－静－である。新聞社の制作部門には100ホーン近い音を発する輪転機がある、一方スタジオは音を嫌う。それらを建物両サイドに配置し、中間の共用部門で緩衝帯とすることは機能に従った構成でもある。設置された新聞放送機器は21世紀を見すえた情報の拠点にふさわしい最新のものである。機器はいうに及ばず、働く人々にとっても快適な環境をつくるべく、インテリアのデザインと建築設備を用意した。マスメディアの変革は、この数年はげしく、未来の予測は難しいが、建築、設備とも進歩にフレキシブルに対応するよう処理をした。省エネルギーについても許されたコストの中でポピュラーな技術を集積した結果、最近の測定では37%に達している。

竣工後、多勢の人が訪れ、印象を話してくれたなかで、私にとって喜ばしかったのは、近所のある老人の「朝の散歩が楽しくなりました」という言葉であった。

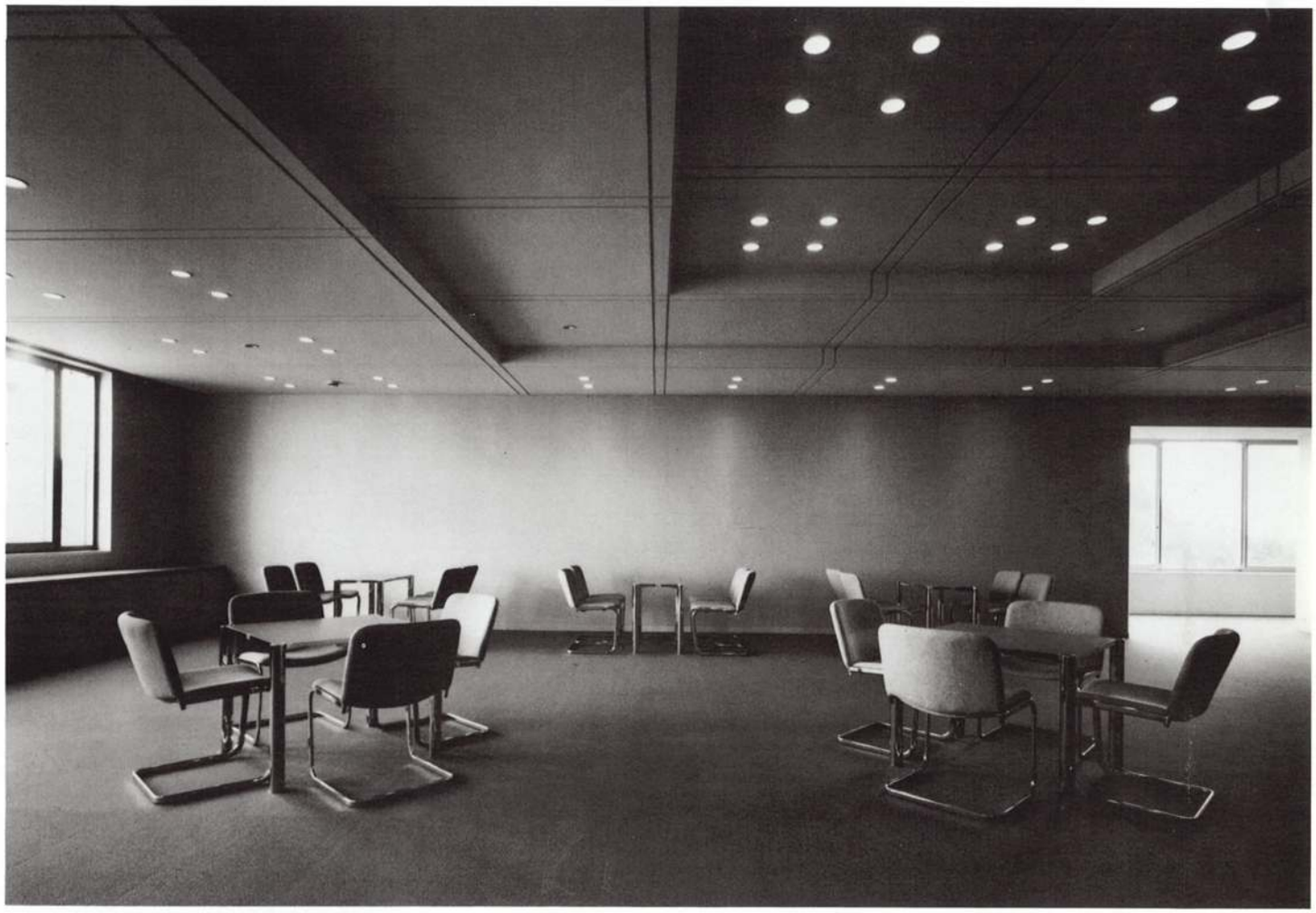
（加藤博司／柚建築設計事務所）

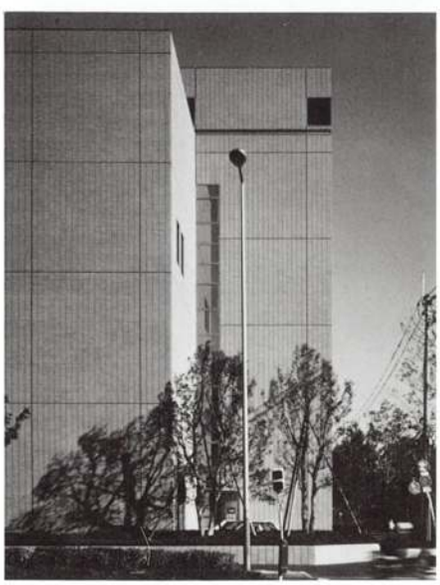


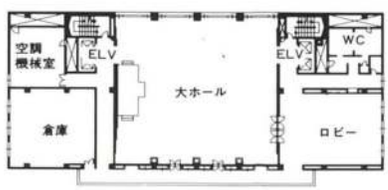
1. 東側（市立動物園側）玄関
2. 社長室
3. テレビマスタールーム
4. 輪転機
5. 7Ｆロビー
6. 底層部コーナースリット、外壁詳細

所在地　徳島市中徳島町２丁目５番２号
敷地面積　5,809.27㎡
建築面積　3,481.65㎡
延床面積　20,810.16㎡
構　造　SRC、一部S
工　期　昭和58年１月～昭和59年11月
最寄駅　国鉄高徳線徳島駅

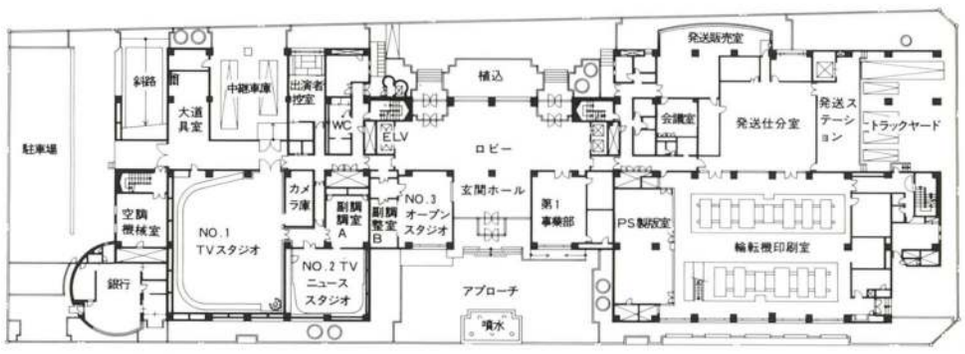
仕上げ
外　装　施釉磁器タイル貼り・一部アルミパネル貼り
内　装
1階・玄関ホール　床　白大理石貼り一部ジュータン敷き
壁　白大理石貼り
天井　石コウボードジョイント工法のうえAEPぬり
7階大ホール　床　ジュータン敷き
壁　別注クロス貼り・正面陶板貼り
天井　石綿ケイ酸カルシウム板のうえクロス貼りのうえAEPぬり
一部格子天井







7階平面図



1階平面図



OCC-TV&SPホール

設計監理　大倉産業開発技術室
建築設計　建築事務所不二　フジタ工業大阪支店
施　　工　フジタ工業大阪支店

滋賀県、大津市郊外の瀬田川に近い丘陵地に建設された「桜谷パークタウン」は、開発者の「これからは家だけでなく、優れた街を買う時代」という考えのため住宅地の一角に、このＳＰホールが建設された。このＳＰホールは、地域の人に本当に役に立つ多目的ホールを建設するというオーナーの考えにより、文化ホール、体育館、パーティの三役が充分こなせるように、計画し、施工した。多目的ホールとはいうものの、文化ホール、体育館、パーティの３つの相反する機能を１つの建物内にまとめることは大変むつかしく、この調整が最も大変だった。これらの目的を遂行するため、また地域の文化の育成も兼ねて、CATV局の施設をそなえるとともに、可動式椅子を1220席と、光度、高さ調整可能な照明器具を設置している。建物は土地の有効利用のため、汚水処理場上部に建設し、臭気の処理はジェットエンジンを用いて、完全燃焼させこの熱処理で冷暖房を行うなど省エネルギーも考慮した。

（大倉産業開発技術室）

写真撮影　島　修一（全景、北東面のみ）
写真撮影　ＳＳ大阪　花城辰男





北東よりみる



多目的ホール

OCC-TV&SPホール

所 在 地　大津市大石東町桜谷パークタウン
敷地面積　9,122㎡
建築面積　3,357㎡
延床面積　6,480㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　昭和58年12月～昭和60年1月
最 寄 駅　東海道本線石山駅

外装仕上　炻器質タイルのフランス貼り



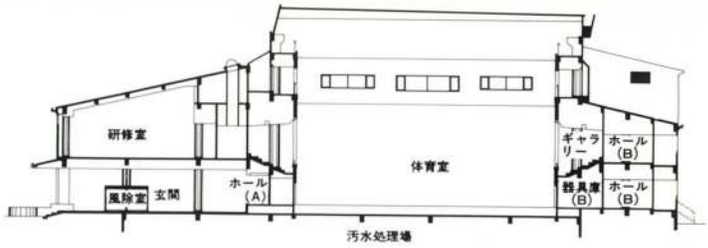


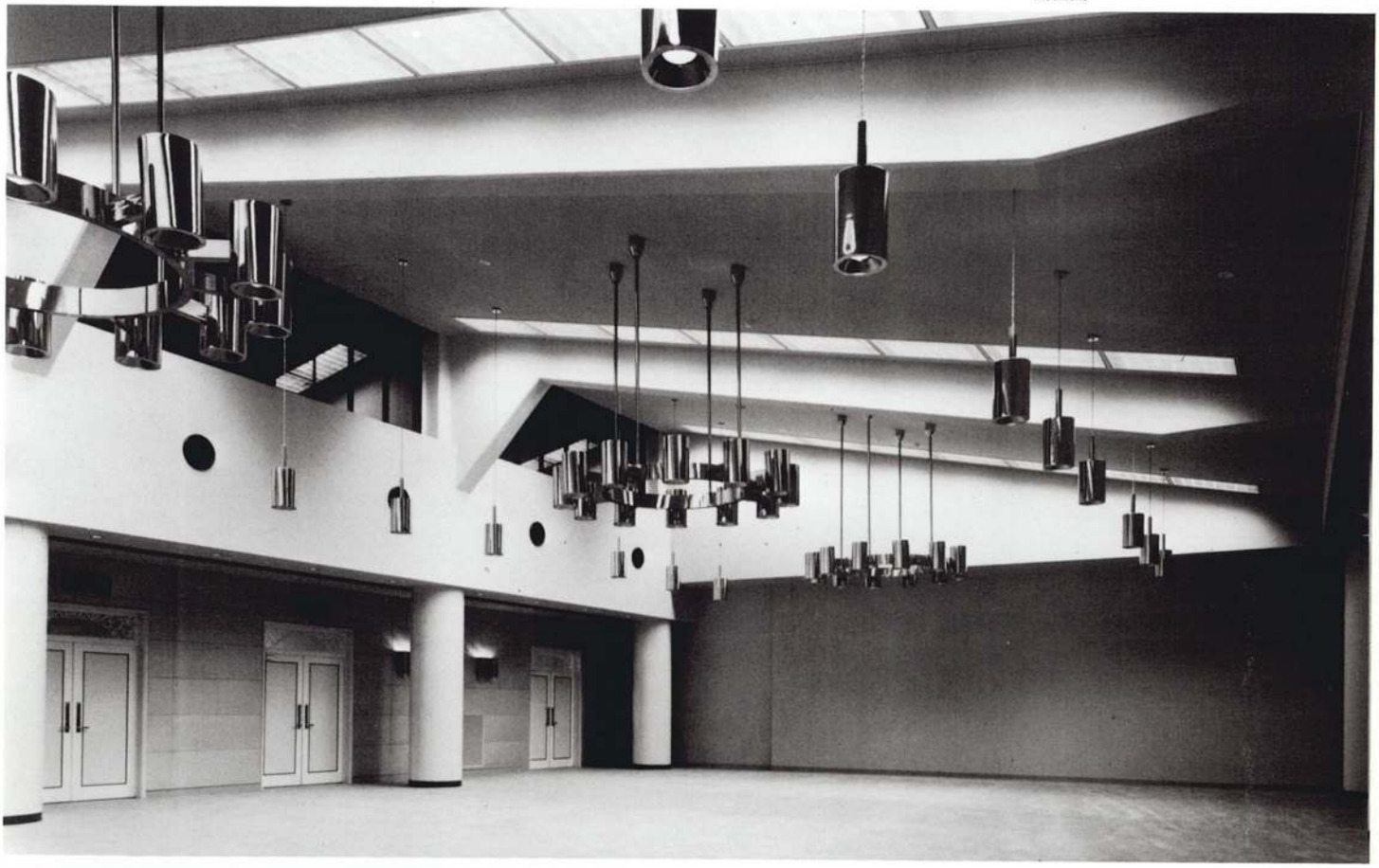


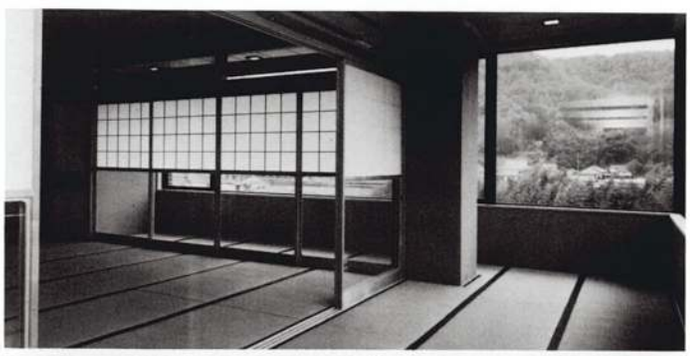


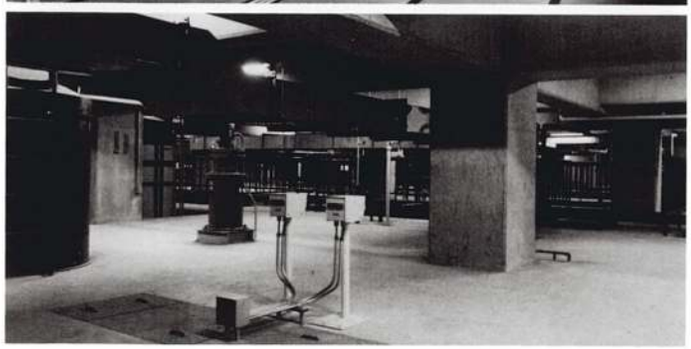
1		5
2	3 4	6 7

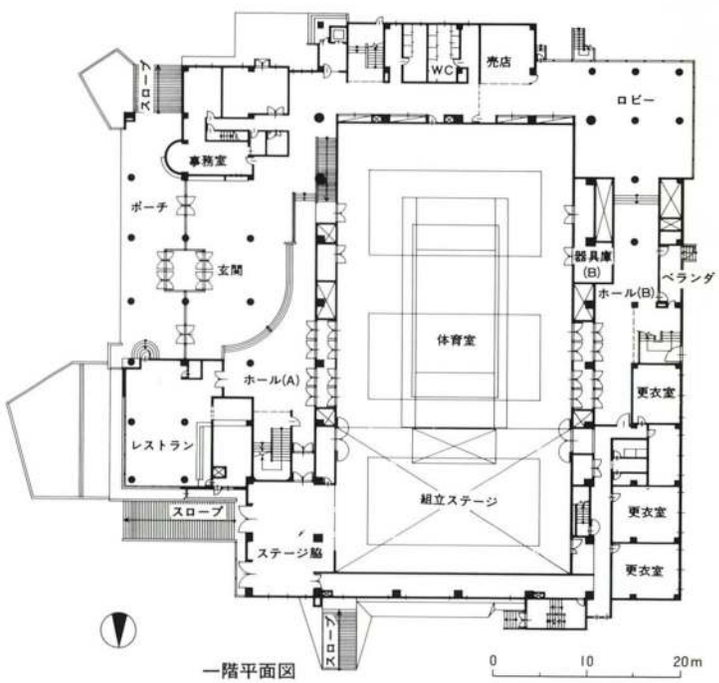
1．エントランスホール
2．レストラン
3．調整室
4．テレビスタジオ
5．研修室
6．和室
7．汚水処理場


研修室
風除室
玄関
ホール
(A)
体育室
ギャラリー
ホール
(B)
器具庫
(B)
ホール
(B)
汚水処理場
断面図








トイレ
WC
売店
ロビー
事務室
ポーチ
玄関
器具庫
(B)
ベランダ
ホール(B)
体育室
ホール(A)
更衣室
レストラン
組立ステージ
スロープ
ステージ脇
更衣室
更衣室
トイレ
0
10
20m
一階平面図

ホールが生み出す文化
――ザ・シンフォニーホールの例――

原　　清
（朝日放送株式会社代表取締役会長）



インタビュアー　寺　本　敏　則
（日建設計設計部長）

1．設立の動機と〝残響2秒〟への決意

寺本　「ザ・シンフォニーホール」、オープニングはたいへん感動的で、〝超一級のホール〟の名声をアーティストや聴衆から受けられ、大成功でした。そして、2年半たった今日、朝日放送の総師の原さんに当時の最高責任者として、ホールづくりの理念、ホールが生みだす文化といったお話をうかがいたいと思います。初めにザ・シンフォニーホール設立の動機、いきさつについてお聞きしたいのです。

原　設立の動機、いきさつは、朝日放送の創立30周年記念事業に何かをやろうと。それには、後世に残るものをというのが設立の動機でした。そこで、その案を社員から募集したところ、300～400の案が出ました。その中には劇場、図書館、博物館とかをつくる案があり、いままで、日本になかったものという基準で選ぶと、クラシック音楽専門のホールだったわけです。これだけ音楽文化が進んだ日本にクラシック音楽を最上の状態で聴きうる専門のホールがないことを発見したのです。

そこで、それを作るのにどういう条件がいるかということになり研究をはじめると、なかなか難しい。いままでにないものですからね。まず海外、ことにヨーロッパのクラシック音楽発祥の地でのホールを調べることに着手しました。

調査班を派遣したのが、ベルリンのノイエフィルハーモニーホール、ウィーンのムジーク・フェラインザール、アムステルダムのコンセルトヘボウ、ロッテルダムのデ・テーレンホール、新しいところでは、クラシックというよりも、ホールとしてのスケールの点で、ニューヨークのラジオシティミュージックホール、ごく最近できたサンフランシスコのデービス劇場。新旧とりあわせて、建物の視察に行きデータを集約しました。

〝残響2秒〟というのは、東大の石井聖光教授にお話を聞いたのです。「クラシック音楽を最上の状態で聴きうるのは、残響2秒のホールである」とのご託宣をえたわけです。われわれは素人ですが、音響学の権威がそういわれるのだからこれでやろうと。しかし、いままで残響2秒というデータが解っておりながら、なぜ実現しなかったのかと調査してみると、当初は、そういう理想で建物を建て始めても途中でいろんな雑音が入るわけですね。例えば、収容人員とか、建物の大きさ、高さ、シートその他設備、費用の問題などいろんな制約の結果、無難な多目的ホールになってしまうという打ち明け話を聞きました。そこで私どもは、この際、何が何でも、この〝残響2秒〟という金字塔を守っていこうと固い決意をしたわけです。

施工業者の大成建設も、最高の頭脳とエネルギーを傾けてやるからということで、同社の技術研究所内に、まず10分の1の模型をつくり、中にエレクトロニクスとコンピュータを組み込み、その模型を中心に詳細なデータをつくり、それを10倍に拡



ザ・シンフォニーホール正面外観

大してホールをつくるという綿密な工法を確立、その現場へ常に石井先生をお呼びして、詳細なデータはすべて先生の指示に従いました。

具体的にいいますと、うちのスタジオに歌手の中島みゆきさんを呼び歌をうたわせる。それを10倍のスピードで録音し、模型の中にもっていって再生する。模型の中には十数ヶ所のチェックポイントをおき、音の伝達のデータをとらせる。そのデータを基本にして、こんどは、それを10倍に拡大したものをホールの中で要所要所にあて、実際拡大したものが残響２秒になっているかどうかを実験していただいたようです。

皇太子殿下ご夫妻がザ・シンフォニーホールへお見えになった折、ホールを大変ほめていただいたのですが、殿下から「いままで、なぜこうしたホールができなかったのでしょうか」とご質問があり、私が模型による音響テストのことを説明しますと、「なるほど。エレクトロニクスとコンピュータの技術が結合して、これができたのですね」と直截簡明なおことばを賜ったのです。さすがに帝王学を学ばれた皇太子殿下だけに直感が鋭いと感銘しました。

そうしたいきさつで、今までは当初の理想だけが残響２秒で、結果的には多目的になったものが、生粋にクラシック専門ということが守られたわけです。

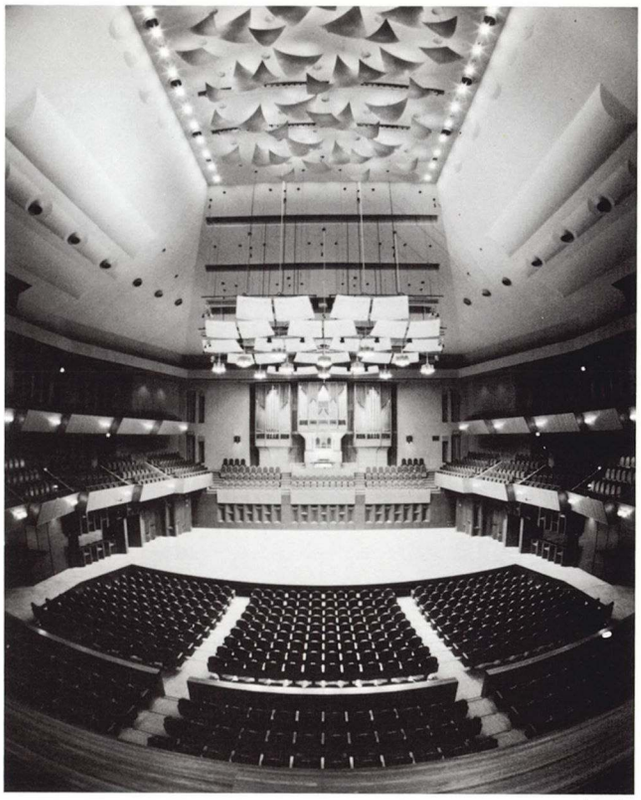
また、私が大決断をしたように思われがちですが、敢えて言えば、私は、決裁に当り、かたくなに〝残響２秒〟を押し通しただけの話です。例えば、壁の材質はどうかとか、床は何を使うか……など、いろんなデータや予算がでてくる。そのときも、残響２秒にはどれがいちばんいいのかと。(笑い) 費用のことは二の次でした。一席６万円というぜいたくな客席の椅子にしても〝残響２秒〟で決断しました。

２．音響反射型照明灯

寺本　非常に当をえた判断ですね。

原　すべて残響２秒にもっていった笑い話ですが、ホールのステージの真上に、照明灯が下がっております。あれは実は音響反射板なんです。残響２秒にするための一つの補助板ですが、私は、音響反射板は絶対にいかんということを最初から提案していました。いかに音響がいいからといっても反射板は、視覚的に非常に不愉快だから、それを取り付けずして残響２秒にしてほしいというのが私の宿願でした。

私がなぜそういうかといいますと、ロンドンにロイヤルアルバートという有名なホールがあります。このホールは、私にとって昔から憧れの的でした。演奏会がありますとよく聴きに行きましたが、いちばん最近に行ったおり、ふと気がつくとあの立派なクラシックホールの天井に、すごく大きい音響反射板がついていたのです。昔は無かったものです。調べてみると、このホールがＢＢＣの所管に移ってから、ＢＢＣが放送用の録音効果を上げるため、反射板を作ったわけです。いかに音響効果のためとはいえ、格調高いアルバートホールの建築ムードを台



ホール

無しにしている音響反射板を見て、幻滅の悲哀を感じました。ですから、私は反射板だけは絶対取りつけぬように、といっていたのです。

ところが、石井先生はじめ、技術現場では、どうしても最少限のものは付けないと残響２秒は無理だといいはじめたのです。困りました。せっかくの金科玉条がここで破れては何にもなりません。一時はまったくデッドロックに乗り上げました。

ところが或る日、実行委員が折衷案を作って来ました。放送会社が使うホールだから、テレビ撮影のためにも使う。それには、普通のホールの照明以上の照明がいる。その照明灯をカバーするものとして反射板を使いたい。設計図をみると反射板型の照明灯です。私はどうしてもこれを使わないといけないかと聞くと、そうだというのです。しばらく考えて、認めよう、ただし私は、これを音響反射板とは認めないよ。これは音響反射型照明灯であると。(笑い)

寺本　いい解釈ですね。(笑い)

原　私は実際、歌舞伎の「勧進帳・安宅の関」で弁慶と見破りながら関所を通した富樫の心境でした。

３．焼け跡の「新世界より」

寺本　日本にこれまでないものをつくろうと発案されたご苦労があったわけですね。大阪はまさしく音楽ホールに恵まれない実情でしたし、専門分野の音楽家の方々、例えば朝比奈隆さんとかいろんな方からご要望やご意見も多かったと思うのですが、どのようにお取り上げになられましたか。

原　朝比奈さんは、私より１歳下で、私が朝日新聞時代からの親友なのです。音楽に関しましては、彼と深い因縁があるのです。と申しますのは、昭和22年、終戦直後、当時、私は大阪朝日新聞の社会部長をやっておりました。もちろん一望焼け野原の大阪でしたが、その時に有志が集まって、大フィル（当時の関西交響楽団）をつくったのです。常任指揮者に朝比奈さんが選ばれて、昭和22年４月頃に、焼け残った朝日会館でその発表演奏会があったわけです。朝日会館の窓からみると大阪は一面焼け野原です。指揮棒をふる朝比奈さんは、だぶだぶのタキシードで、後に聞くと、これは借りものだったそうですが。(笑い）曲はドヴォルザークの「新世界より」でした。

私はこれを聴きながら、ほんとうに感激し、感涙にむせびました。戦争中は音楽、ことに西洋音楽は禁止されていましたから、それが戦後、日本人がこれだけ集まって音楽会を開いた。しかも、「新世界より」は明るい希望に満ちたメロディでしょう。これから日本は立ち直らなきゃならない。新しい世界が始まるのだという、そんな希望と熱気に満ちたメロディですね。

私が育ったころの新聞記者は、喜怒哀楽におぼれてはいかん、どんなに悲しい取材でも新聞記者は泣いてはいかん、面白い取材でも笑ってはいかん、そんな訓練を受けていましたのに、そのときばかりは、涙が止まらなかった。それほど感動をうけたクラシック――後にクラシック音楽ホールをという時いちばんのモチーフとなったのがこのことでした。

その時から、朝比奈さんとの親交も一段と深くなりました。以来、当社の音楽顧問として公私ともにお際き合いがあります。今回の件でも、彼にいちばん最初に相談しました。彼は「やるなら、最高の水準のものをやりなさいよ」の一言でした。事あるごとに朝比奈さんに相談して、彼の専門知識でバックアップしてもらいました。

それから、楽屋も自慢したいのですが、これは普通のホールにはない、ぜいたくなものにしています。「アーチスト・ルーム」と名づけて、大小８つほどの部屋をつくり、指揮者や最高の演奏者のアーティスト・ルームには、シャワーやバスルームを備えて、ホテル並みの設備にしています。辻久子さんとか小沢征爾さんが、ホテルに帰らないで、ここに泊り込もうか（笑い）と冗談半分におっしゃるほど快適な部屋にしています。アーティスト・ルームの横には、応接室もつくっています。これらの設備は、朝比奈さんからの提案を生かしたつもりです。外国人指揮者の方からも評判がいいようです。

寺本　朝比奈さんと戦後すぐの出会い。それからかつての日のことが原風景となって、設立を決められた時は、音楽家に喜こんでもらいたいという発想があったと思います。

原　小沢征爾さんもホールの実現に協力してくれました。たまたま竣工直前にパリに行った帰りの飛行機で小沢さんと隣合わせ、ホールについてあれこれと助言をいただきました。とくにホールを最高級のものにし、それを受け皿にして、世界のアーティストを呼んでほしいと熱望、オープン直前にも来てくれて、全館を私と一緒に回わり、要所要所で、両手を打ち合わして残響を計ってくれたのです。ステージの中央にきて、手を鳴らして「ああ、結構だ」と。そして、２ｍほど離れて手をたたき「ちょっと変だな」というのです。そして「原さん、少しおかしいでしょう」というわけです。そんなこと素人の私が解りますか。(笑い)「そういえばそうですね」(笑い）といい加減な合槌を打っていたのです。そこへ工事の人が飛んできて、「すみません、アジャストするのを忘れてました」と。小沢さんの耳の鋭どさというのは、専門家とはいえ、なるほどと感心しました。


ホワイエ

寺本　たんに残響２秒という冷たいことばでなく、その味わい、音量感、分離性、響き、そのへんを非常に感覚的に聴きわける耳だと思いますね。

原　さすが音楽家ですね。それと実際の演奏家のその後の感想は、大フィルはいまでもフェスティバルホールで定期公演をしているんですが、フェスとシンフォニーでは、演奏の力の入れ方を変えなければいかんと。(笑い)　あちらは大ホールですから、弦楽器も管楽器もワァーと力を入れなければいけないでしょう。ここでは押えて、あまり強く演奏するなと朝比奈さんはいうそうです。同じことを辻（久子）さんからも聞きました。ここでソロを演るときは、自宅で弾くのと同じように弾けば全館にゆきわたる。ステージ用の演奏で頑張るのではなく、普通の演奏でピアニシモもフォルティシモもうまくいくのがうれしいということをいわれていましたね。

４．音楽と市民生活

寺本　海外のいいホールもそうなっておりますが、ザ・シンフォニーホールも１階から２階へ、グランドホワイエでつながって、いい雰囲気を出しています。そうした素晴しい雰囲気は、超一級の音楽ホールには必要な空間だと思います。着飾ったり、少し気取って、三々五々集まってくるという風景は、大阪にはあまりないものですね。そうした意味でいい空間をつくっていただいたと思うのですが……。

原　いま大阪にとおっしゃったが、東京でもそうですよ（笑い)。日本全体が音楽会に対する考え方、自分の生活と音楽との関係が欧米ほどではないですね。例えば、ザルツブルグ音楽祭がありますね。私も一昨年行きましたが、10日間ほど毎晩のようにタキシード、ロングドレスの人たちがぞろぞろやってきて、

会場で音楽を聴いて、町へ流れて、レストランやクラブで、音楽を語りあい散っていく。町の人だけでなく、世界各国からきますね。

そういう雰囲気は日本にはありませんね。生活様式の差でしょうか、日本はこれから、そうした方面への充実、音楽を取り入れた生活というものを大衆化したいという大それたことを考えて、このホールも従来のものにないゆとりある雰囲気を出そうということでつくりました。2階のホワイエでは、この前に100人くらいのピアノリサイタルをやりましたし、ホールとしても、また展覧会場にもなります。クローク・ルームも広くとってありますから、コートやショッピングバッグも預けていただく。ホールがあれだけの装いですから、自ずといらっしゃる方もこぎれいになさってます。腕時計のアラームももちろん止めていただきますし、そういう雰囲気の中で皆さんに楽しいひとときを過ごしてもらえる雰囲気づくりをしています。ですから、こういうホールをつくりたいというホールの使命をはっきり打ち出すことが、かえっていいのではないでしょうか。

寺本　オープンから2年半たって、その後さまざまな評価とか、思いがけないできごとがあったかと思いますが、そのへんをお聞かせいただきたいのですが……。

原　いままでのところ、予期せざることというのはありません。年260回ぐらいの演奏会をしています。充足率は抜群で、260回ということは、リハーサルを入れると、ほとんどフル回転です。しかも春秋の音楽シーズンは重なり、お断わりするぐらいです。したがって収益も予想以上で、経常費は黒字になっています。償却費も6年で完済できるかと考えています。当初、需要がなかった場合、最後の手段として、スタジオとして使うことを考えていましたが、いまのところ予想外の好調で、それは考えなくてよい状態です。

昨年、カラヤンを招いたとき、私が直接行って交渉をしたのです。私はカラヤンと一歳違いで、私が77歳、彼が76歳のとき会ったのですが、「貴方は、身体の具合が悪いから日本に行けないというが、私は貴方より一つ年上で、日本から飛んできたのです。日本なんか近いからいらっしゃい」ということで、彼は来日してくれたのです。彼も指揮した後、大満悦で自分の写真に"THE BEST HALL IN THE WORLD"と英語で書いて、うちの社に残してくれました。

寺本　ホールの開演の時間は何時からですか。

原　だいたい七時からです。本来は演奏を聴き終ってその感激を語りあい、クラブかレストランで食事をしたりして、もう一度エンジョイする豊かな雰囲気が日本でも普通になってほしいですね。

寺本　その場合、ホテルプラザに隣接させ、互いに相乗効果があり、よい具合に機能していると思います。そのへんはいかがですか。

原　それは最初からの案で、ホテル3階とホールの3階をブリッジでつなぐように設計されています。少し問題点があり、現在は実現していませんが、将来、必ずやりたいと思っています。

寺本　アーティストを選ばれる基準は？

原　ホールの品格、雰囲気をなるだけ大事にしたいので、音楽の内容からいうとロックとかジャズは、それ自体はいいのですが、とりまく聴衆が雰囲気を壊しますので、公演する予定はございません。どこで線を引くかは難しいところですが、一例としてポール・モーリア・グランドオーケストラのレベルと思います。こうした音楽を楽しむ方々なら、いまの環境を壊さないで聞いていただけるということで、かたくなにクラシック・オンリーという了見の狭いことは考えておりません。またホールには同時通訳の装置もありますので、国際会議場としても利用していただけます。

5．音楽専門ホールのネットワーク化を

寺本　ザ・シンフォニーホールの成功を得て、各地に専門ホールができていくと思いますが、何かアドバイスを。

原　最初にこういうものをつくり上げただけに、各方面から注目していただき、サントリー音楽財団や民放連、日本建築業協会、大阪市などから表彰や賞をいただきました。サントリー音楽賞の表彰式で申し上げたのですが、大阪がきっかけになって、全国各地に残響2秒に近い音楽専門ホールをつくっていただき、ネットワークを組むことで海外からよりよいアーティストをより安く呼べるようにして、レベルの高い音楽を市民の方々がもっと楽しめるようにすれば、日本の音楽文化はうんと高まると思っています。

寺本　関西人として、大阪の街づくりについて何か。

原　大阪は文化的に落ちこんでいるとかいわれており、戦争があったせいで、国の予算も文化もすべて中央統制みたいになり、東京偏重がみられますが、狭い日本ですから2つや3つの拠点があってもおかしくない。政治は東京、文化は大阪でも少しもかまわないと思います。そういう意味で大阪を中心とする関西が、すべての文化の中心拠点になっていいのではないかと。そういう街づくりの夢をもっているのですが、いかんながら私も今年で78歳、行き先も年齢が尽きそうですから(笑い)、誰かに夢を引き継いでもらいたいと思っているのです。

寺本　いえいえ、お元気そうにお見うけしますよ。ぜひそうした夢を実現していただきますように。それと大阪には、音楽の練習場がないという強い声がありますね。

原　次の課題として、それは至急にやるべき問題でしょうね。ことに大フィルは大阪を代表する楽団ですから、朝比奈さんは毎年のようにドイツへ行って棒を振っているのですが、これがかりに東京ですと大きな話題になるでしょうけど、どうも大阪だとローカルな一地方の一指揮者がドイツに行っているという程度の認識で盛り上がらないのですね。今年、彼はうちのホールでベートーベンの「チクルス」をやります。これも大きな功績になると思います。そういうことも加えて、ジャーナリスティックにも大阪を大きく日本中にPRする必要がありますね。

寺本　すばらしいお話をおうかがいし、ほんとうにありがとうございました。

自治省のホール行政—リージョンプラザについて—

小島重喜

〈はじめに〉

自治省のホール行政というテーマで述べるようにとの編集者のご要請であるが、自治省はその所管として地方団体のホールについての行政指導を格別に行っているわけではない。たまたま、自治省では昭和55年以来市町村などがその区域を越えて広域的に利用する大規模な複合施設に対して、その計画の策定費について助成するとともに、この計画に基づく施設の建設についても、昭和56年度から助成をする制度を設けている。私どもはこの施設を田園都市中核施設——通称リージョンプラザ——と呼んでいるが、この施設ではいわゆるホールが中心的な役割を果しているものが多いのが現状である。そこで本稿においては、このリージョンプラザの紹介をもって、その責めを果させていただくこととする。

〈リージョンプラザの意義〉

交通・通信手段の発達、住民の生活水準の向上、都市化の進展等とともに、住民の日常社会生活圏が市町村の区域を越えて広域化しつつある事態にかんがみ、自治省では、昭和44年以来この住民の日常社会生活圏を行政の場としてとらえ、これを「広域市町村圏」として、この圏域内の市町村が地域の魅力ある発展を図るため、共同して地域の総合的かつ広域的な計画を策定し、これに基づいて、各種の広域的な行政を行うこととしている。

この広域市町村圏は当初地方都市を中心とした圏域において設定され（全国で336圏域）、その後、大都市周辺部にも、「大都市周辺地域広域行政圏」の名のもとに22ヵ所が設定された。現在では、東京、大阪などの一部地域を除いて全国のほとんどの地域（市町村の97%、国土面積の95%、人口の72%）が、いずれかの広域市町村圏など（大都市周辺広域圏も含む。以下同じ）に属することとなっている。

一方、社会経済の進展とともに、国民のニーズも複雑多様化・高度化し昭和50年代に入り、「地方の時代」「文化の時代」が標榜されるようになり、地域文化の振興が地方団体にとって重要な政策課題となってきた。ちょうどこのような時期に故大平総理が国づくりの基本として、「都市に田園のゆとりを、田園に都市の活力」をもたらすことを目ざした田園都市構想の提言がなされ、この中で文化の振興が強調された。さらに昭和52年に策定をみた三全総においては人口の定住化をめざす定住構想が掲げられ、このための単位としての定住圏の総合的な整備をすすめる必要があるとしていた。

自治省としては、これらを背景とし従来整備を進めてきた広域市町村圏などがこの田園都市構想及び定住構想を推進するための基礎的な単位として最適であると考え、各種の施策を進めてきたところである。このため、昭和54年から56年にかけて全国の広域市町村圏などにおいて、新しい計画（これを「新広域市町村圏計画」という。）が策定され今日に至っている。

この計画の中心的課題は、「文化の時代」の名に代表されるようにより高度化した住民ニーズに有効に応えるための圏域のすべてにゆきわたる広域サービスシステムの整備であった。この課題解決のためには、この広域的サービスシステムの拠点となるような大規模な多機能施設の整備が必要となった。田園都市中核施設はまさにこのようなものとして構想されたものである。当初は昭和55年度から5ヵ年で毎年10ヵ所、合計50ヵ所が広域市町村圏などを単位として整備されることとなっていたが、その後の財政状況などもあり、期間が延長されるとともに箇所数も、46ヵ所前後が整備される予定であり、昭和60年度で計画が終了することとなっている。

〈リージョンプラザの要件〉

リージョンプラザは、前述のとおり広域市町村圏などにおける住民の高次のニーズに対するサービスの拠点として位置づけられているため、①広域的に利用されるものであること。②施設がある程度以上の規模（事業費は10億円以上）であること。③複合施設であることなどの要件を満たす必要がある。また施設の種類は当該圏域の実情に即して自主的に決定できることとされている。

その種類としては(1)文化会館・美術館・公民館・劇場などの文化施設、社会教育施設に属するもの、(2)福祉センター・老人保養施設などの福祉サービス施設、(3)保健センター、休日夜間診療施設などの医療、健康管理サービス施設、(4)体育館・屋内プールなどのスポーツ・レクリエーション施設、(5)物産会館などの地域の産業振興施設、(6)その他住民の直接の利用に供するサービス施設などとされ、広域的に住民に直接利用されるものであればたいていのものは対象となっている。

〈リージョンプラザの現状〉

昭和59年度末までに計画が策定されたリージョンプラザの数は45ヵ所であり、うち建設に着工しているものは38ヵ所である。さらにこのうち、すでに完成しているものは22ヵ所である。これらの施設の平均事業費は23億円前後であり、平均規模は7500㎡前後となっている。

一方、このリージョンプラザは文化施設が中心となっているものが大部分であるが、中には体育施設などが中心でホールなどを有し

リージョンプラザホール一覧

設置主体	席数	設置主体	席数
稚内市	1,200	下北地域組合（むつ市）	1,186
高崎市	701	福井市	2,000(移)
土岐市	1,500	白根町	756
島田市	664	高梁市	1,008
八幡市	1,210	平戸市	1,504(移)
出雲市	1,216	延岡市	1,300
一関市	1,205	名護市	1,000
喜多方市	1,191	上市町	1,000
鹿沼市	1,302	上小地域組合（上田市）	600(移)
田辺周辺組合（田辺市）	1,224	柳井市	1,168
人吉球磨組合（人吉市）	1,332	大牟田市	1,502
宇佐市	1,200	荒尾市	1,204
弟子屈町	1,800(移)		

（注）(1)昭和58年度計画分までのもの
(2)(移)とあるのは移動席、その他は固定席

ないものもいくつか存する。リージョンプラザの主要ホールの状況は次表のとおりである。

〈リージョンプラザ整備計画の策定〉

リージョンプラザは広域市町村圏などにおける行政サービスの中核をなすものである。このような観点からこの施設の建設にあたっては、先述の新広域市町村圏計画において明確にその位置づけがなされるとともに、とくにその施設が必要とされる理由とその利用計画などを明らかにする必要がある。

このためリージョンプラザの建設にあたっては、たんなる建物の設計だけとせず、当該施設の圏域内における位置づけ、当該広域市町村圏の概要、当該施設の建設計画、当該施設の管理運営計画、とくに利用サービスシステムを明確にすることなどを含んだリージョンプラザ整備計画書を、あらかじめ策定し提出することを要件としている。この計画の特色は以下のとおりである。

●住民参加による計画策定：

施設は圏域住民のために建設するものであり、当該圏域内の住民の意向を十分に反映したものとする必要がある。このためあらかじめ住民へのアンケート調査、関係住民による懇談会の開催などを行なった後に施設の内容が決定されることとなる。

●既存施設の利用状況及び関係団体の活動実態の事前把握：

地方団体はすでに既存の文化施設・教育施設などを有している場合が多い。まずこれらの既存施設の利用状況ならびにその施設に関係する民間の関係団体の活動実態の把握を行うことが肝要である。この結果を新しい施設の機能・規模を決定する基礎とすることができる。

●管理運営計画をあらかじめ策定：

施設は金と時間さえあれば容易に建設しうるものであるが、その後の管理運営が大切であり、その良否によっては、せっかくの施設も生かされないこととなる。また莫大な維持費を必要とするため、思うように施設の活用が図られない場合もある。このようなことを未然に防ぎ、施設の効率的かつ効果的な運営を行うためには、あらかじめ施設の管理運営計画をきめておくことがより適切である。このリージョンプラザはとくに広域的利用に供するものであるため、あらかじめ関係市町村の間でその管理運営計画を定めることを義務づけることとしたものである。

●サービスシステムの明確化：

この施設は広域的利用に供されることが条件であるため、広域サービスシステムをあらかじめ定めるとともに、このサービスシステムをはじめ施設の運営について協議するため、関係者からなる運営委員会などが設けられるのが通常である。

〈リージョンプラザの具体例〉

リージョンプラザの概要は以上のとおりであるが、これを宮崎県北部広域市町村圏（延岡市が中心都市）の延岡総合文化センター整備計画書により、具体的に示すと、つぎのとおりである。

〔施設概要〕

敷地面積16,116㎡、建築面積5,402㎡、延床面積7,840㎡、地下1階、地上2階、塔屋2階、駐車場、乗用車143台（バス3台）などである。

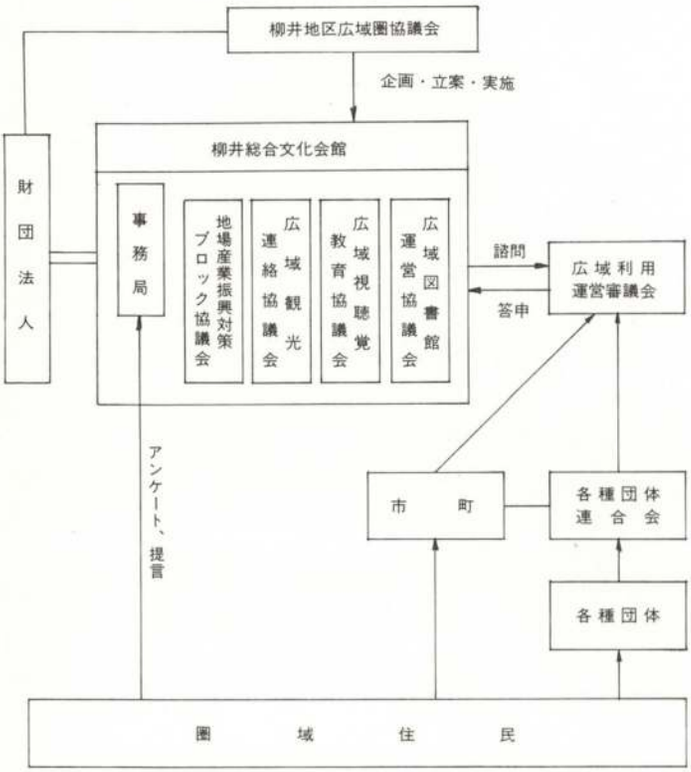
〔施設内容〕

文化活動情報センター、大ホール、小ホール、ギャラリー、広域視聴覚センター、広域交通センター、会議室、リハーサル室などを備えたものとする。このうち大ホールについては、「多目的利用を基本としながらも、かえってどの用途にも不満足さを残すことのないよう可能な限り性格を明確にすることとし、オーケストラ、オペラ、ミュージカルなどの音楽を中心のホールとした。さらに演劇、舞踊、文化講演会、圏域住民の民俗芸能発表会などにはきめ細い空間設計、照明設計、音響設計により十分な対応をはかる」ものとしている。

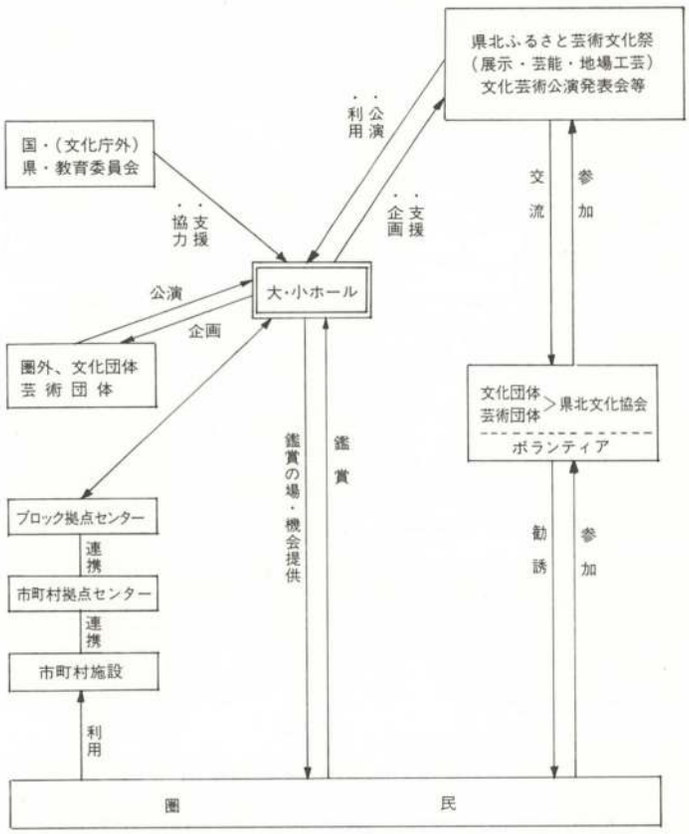
延岡以外のリージョンプラザのホール機能も大部分が音楽、演劇などを目的としたものであり、座席も一部を除いて固定式であり、とくに多くのホールにおいて質の良い音響を得るため、ＮＨＫなどの専門的な技術指導をあおいだ例が多く、ひとつの特色となっている。

〔施設管理計画〕

先述のとおり、リージョンプラザの建設にあたっては、あらかじめその管理運営計画を定めてもらうこととした。延岡市の管理運営計画においては、管理運営は、全市町村による財源措置のもとに、「延岡総合文化センター運営一部事務組合」(仮称）を設立して管理運営を行うことを基本とするが、一方行政と民間の共同出資による「管理公社」を設立し、管理運営を委託することについても検討する」とともに「本施設の利用運営および本施設の諸機能を核とした圏域の諸活動全体」について、企画立案、調整機能を果す「延岡総合文化センター運営委員会」を圏域内の各種文化団体の代表者、学識経験者、市町村職員などの構成により設立すること」としている。他のリージョンプラザの管理計画も大同小異であるが、総じて施設の管理面については、①圏域住民の意向の反映と住民の利用しやす



（第一図） 総合文化会館管理運営体制



（第二図） 大・小ホールサービスシステム図

い管理運営とすること。②県の施設や圏域内の類似の機能をもった施設との有機的な連絡調整を図ることにより施設全体の効率を高めるようにすること。③施設管理に伴う維持管理経費の節減を図るため、複合施設の一体的管理と民間委託の活用を図ることなどに重点が置かれている。柳井総合文化会館の管理運営体制を例示すれば、**第一図**のとおりである。

〔広域サービス(利用)システム〕

リージョンプラザは複数の機能を備えた施設として設置されるが、これらが有効に圏域住民のために文化・教育・保健などのあらゆる面にわたって「生きた施設」として利用されなければならない。このため、あらかじめリージョンプラザの各面にわたる機能について、その利用、活用のためのシステムを関係者の合意のもとに確立する必要があり、リージョンプラザの建設にあたっては、広域サービスシステムの計画を作ることとしていることは前に述べた。延岡総合文化センターの場合も、この点について、機能ごとにサービスシステムを構築しており、大・小ホールのサービスシステム図を挙げると**第二図**のとおりとなっている。

〈おわりに〉

以上リージョンプラザの概要についてかいつまんで述べた。現在までに決定しているものは45ヵ所であるが、そのうち竣工した施設は22ヵ所ほどでまだその運営の歴史も浅い。また一部ではデラックスすぎるとの指摘もなされている。地方の時代・文化の時代と宣伝される昨今である。何をもってデラックスとするのか、地方だから東京より見劣りするもので我慢すべきだといった意識があるとすれば、これは是とし得ない。しかし、無用の長物、猫に小判となっては困ることはもちろんである。文化の問題は極めて人の心に深く関わるものであり、行政はせいぜい文化の「シカケ」作りをその任務とすべきとするならば、そのシカケを上手に利用してこれを生かす工夫をするのは、住民の責務であるともいえよう。立派な舞台装置をもった大小のホールが各所で作られつつある。これにより有名なオーケストラの演奏を聞く機会などがますます増加するであろう。

すでに完成したリージョンプラザを中心に音楽、演劇、絵画などの自主的なサークル活動が除々に育ちつつあるとも聞く。これらが地域文化の担い手となり、やがては地方文化の華が大きく開くことを期待したいものである。

自治省のリージョンプラザ事業は昭和60年度をもって終わることとしているが、昭和59年度から新たに地域の独創性と自主性を生かした「まちづくり特別対策事業」をはじめることとした。ホールなどの文化施設もこの事業の対象となる。広域市町村圏などを単位として共同のサービスシステムを明確にした複合的な施設については、これをリージョンプラザに準ずるものとして認めてゆく考えである。地域住民の積極的な参加のもとに、地方における文化振興のシカケやシステムの確立を望む次第である。

（こじま しげき 前自治省行政局振興課課長）

昭和55年～58年度田園都市中核施設分布図



資料提供　日建設計

公立文化施設（文化会館）整備費補助都道府県別一覧（昭和58年度末現在）

都道府県	件数	都道府県	件数	都道府県	件数
北海道	13	石川県	5	岡山県	5
青森県	4	福井県	5	広島県	7
岩手県	5	山梨県	2	山口県	4
宮城県	1	長野県	5	徳島県	3
秋田県	6	岐阜県	11	香川県	0
山形県	7	静岡県	7	愛媛県	0
福島県	5	愛知県	14	高知県	2
茨城県	3	三重県	6	福岡県	6
栃木県	10	滋賀県	6	佐賀県	3
群馬県	7	京都府	3	長崎県	3
埼玉県	13	大阪府	12	熊本県	4
千葉県	10	兵庫県	9	大分県	4
東京都	9	奈良県	3	宮崎県	1
神奈川県	8	和歌山県	5	鹿児島県	5
新潟県	12	鳥取県	2	沖縄県	0
富山県	6	島根県	2	計	263

（文化庁文化部文化普及課）

ホールに期待するもの

商業ホールからみた公共ホール

伊　藤　邦　輔

コマ・スタジアム取締役社長

公共ホールというものが、今、日本全国の都道府県市区町あるいは村にまで新しくつくられはじめた。そしてこのホール建設の新しい波は宗教団体をはじめ大学のなかにまで広がっている。

その設備にいたっては商業ホールといっていいのか一般に劇場といわれるものをはるかに凌駕するものまでできていた。

この現象を劇場を経営している私などから見ると、時に恐怖さえ感じるものがある。

どうしてこんなに公共ホールができるのかという疑問には簡単に答えることができる。

それは行政が文化ということを考えねばならなくなったということ、またひとつには庶民の余暇時間、自由時間のつかい方に一つの設定をあたえることによって、その責任をはたすということであろうと思う。

梅原猛さんの「日常の思想」という著書のなかに「余暇」ということについてつぎのように述べられている。

「余暇の問題は漸次重要な問題になってゆく。なぜならば、科学技術の発展と共に、生産力は向上し、人間の労働時間が短縮するのは、資本主義国と社会主義国とを問わず、科学技術を採用している現代の文明のたどる必然の方向であるからである。むしろこのことはよいことなのである。なぜなら、人間が衣食の心配から解放されて、自由な時間をもつことは、何よりも人間にとって望ましいことだからである」

また、この余暇時間を考えねばならなくなった日本及び日本人について、

「……私は過去何年間、日本人をささえた価値観は、そういう勤勉—繁栄—進歩という価値観であったと思う。このような価値観は日本人全体の価値観であり、右と左を問わないのである。むしろ進歩政党ほど、強くこのような価値観の上に立っている。しかしこのような価値観は、現在、大いに動揺している。むしろ、このような価値観の上に育った文明そのものが、このような価値観に対して懐疑を投げるのである。」

「今日、完全に機械の時代である。多くの単純労働において、機械は人間より、はるか多くの能力を発揮することは、すでに十九世紀において明らかになった。そしてやがて複雑な労働すら、機械は人間にかわってすることができるようになった。そして前後に、頭脳労働においてすら機械は、人間に優るようになった。勤勉は唯一絶対の価値であることを失うのである」

「今日、自然はその調和を乱しつつある……。公害の問題は、

そういう自然破壊の一つの現れであろうが、病はもっと根本的なところにある。このような科学と自然征服という価値がゆらぎはじめてきている」

「そして前後に進歩も文明の目標ではなくなる。進歩の思想において、本来は現在よりよくなるという観念がある。ここでは、現在は現在として価値があるのではない。むしろ現在は未来のために是認されるのである。こういう人生観のみが価値をもつとき……進歩的な学生諸君は、父母や教師や大学を否定した」

「今日この勤勉—繁栄—進歩の価値観が急速にくずれていく。代って遊び—自然—自由の価値観が、価値として登場してくる」

そしてこの論説のおわりに

「遊び—自然—自由が、新しい価値観として立てられようとしているとしても、なおそのような価値観は人類を長い間ささえる価値観とならないであろう。なぜならいったん、文明の木の実を食べた人間は、再び非文明へ逆転することは出来ないからである。対立する二つの価値観を調和する点を発見すること、そのへんに新しい文明の原理は見つけ出されると私は思う」

と結ばれている。私は文化ホールの続出の原因もこのような新しい日本の価値観のなかから発生してきたようである。

地方行政はそれぞれの住民に文化による潤いのすすめと自由時間の指導ということのために、今まで民間のみしか行っていなかった劇場の運営に、ホールという名において積極的に住民余暇の充足を計りはじめた。

そこで、そのような文化ホールに対して、すぐれた建築家達が智能をつくしてできるだけ、個性のある作品をつくろうとする。また一方行政の方は多額な建築予算であるからできるだけ使用意図の広いものをと考えることになる。

その結果は多目的ホールというような公共ホールが誕生する。

この多目的ということは、たしかな目的のないということにもなる。

目的のないものはどうにもしまりがない。

その点、商業劇場は目的のためにのみあるのだから、その劇場の発散する匂いは強い。

しかも、現代の科学の分野が集ってつくり出すホールの空間に対する条件はあまりにも繊細である。

私は或る時公共の音楽ホールについて相談をうけた。それは、対談の形で行われたのであるが、結論的にはあまりまとまったことにはならなかった、音楽ホールといってもシンフォニーばかりではない、室内楽も行われるとなるともう条件が異る。オペラとなるとシンフォニーホールではどうにもならない。電気音楽ということになるとまるっきり異ってくる。マイクやスピーカーを使うポピュラーやフォークも使えるようにとなると、同席のクラシックの音楽家はそんなものは音楽じゃないとヒステリックになってしまった。

ウィーンではいろいろな記念音楽堂を観たが、それぞれ音楽の歴史とともにのこされた完璧といってもよい環境の良いホールばかりである。

だから、その存在の価値についてだれも疑うことはない。

オペラはオペラ劇場で行われシンフォニーは、その音楽の中におさまる空間をはじめからもっている。サロン・ミュージックもまたしかりである。電気音を中心にする音楽を音楽堂で行うということもまずない、オペラ劇場とミュージカル劇場を併用しようということも、考える人もない。

日本でも、商業劇場となれば、能舞台、歌舞伎舞台、それぞれ特長があってそれを多目的ホールに入れようとすると、無理というより、それは変型の表現となる。良心的にはやれるものではない。

多目的ホールはこのように、いろいろな目的の変型の表現の場になりかねない。

しかしだからといって、多目的の公共ホールは無意味とは私は思ってはいない。そのことについては後で述べるが、今、乱立するホールを見ると、それがあまりに無雑作につくられているのに驚いている。

公共団体が、ホールをつくった時に、それをどのように運営することができるかということである。

例えば、音楽文化のために公共的専門ホールが、すぐれた建築家の主張によって見事に誕生する。しかし、そのいずれもが納得出来る稼動率をもっているかといえば、理想通りには利用されていないことがいろいろと実証されている。

まことにもったいないことである。私は劇場の経営者であり、また、一般にはプロデューサーといわれている。ということは、ホール（劇場）という建築物を経営する側の専門家の一人であるので、その経験的感覚から公共のホールを見てみよう。

劇場の場合は、すべてが金儲けという俗っぽい大方針がある。この金儲けという言葉は、文化のためにという高踏的な意図の

ホールとは六千米の山頂と、地上との間ほどの感覚のちがいがあるように見られがちである。しかし、金儲けということは、そんな山上から見落して見るような生易しいものではない。三波春夫さんが、いみじくもいったようにお客様は神様であるということからすべては始まる。大衆からお金をもらえるような芸を観せるためには、舞台の上も劇場の構造も、その劇場を運営するものも、あらゆる知力や、そして体力までも集結するのが日常である。

演劇やショーの舞台を観ると、華かで感動的である。ところが、その舞台裏は暗黒に近いコンディションで、大勢の人々が働いている。出演者、その付人、大道具方、小道具方、照明方、舞台機械のスイッチャー、衣裳方や、かつらをもってうろうろしている不馴れな者もいる。

その舞台のスケールによっては、約二百人近い人間が、そのステージの裏でコマねづみのように働いていると思ってもらってもよい。その間、その人達の働きに一瞬の間(ま)があいたりすると、すぐ舞台に影響する。冷い客席の神様達は、なんだこれは、と敏感に不快感をもつ。

日頃、大衆の憧れとなっているスター達は、そんな舞台上のミスについては、死ぬほどつらいということになる。一瞬一瞬にかけるステージの弓をはったような緊張感が、じわじわと、お客様につたわってくると、それが感動にかわってくる。
その感動というものの集積が、大衆に一つの文化の存在を発見させるのである。そしてその文化感覚のなかから後代にのこる文化に昇華するのである。文化芸術とはものである。

さて、このような二百人に及ぶ舞台裏の人々の生活の条件について、充分にわかっている人は少ない。ホール設計家においてもそうである。

大切なのは楽屋のステージからの位置であり、それは楽屋を利用する人の生活のための間取りにもつながってくる。巨大な二千席の劇場を作りあげた人が舞台裏の、百人に及ぶ化粧をした出演者のための浴室を家族浴室と同じようなものをつくっていて、後で困ったことがある。

一体に、日本の劇場づくりと外国の劇場づくりには、この舞台裏の配慮が根本的にちがっているように思う。パリのオペラ座の舞台裏や、ミラノのスカラ座の舞台裏の広大なスペースや、楽屋生活者に対する芸術への昂揚を刺激する素晴らしい環境づくりというところまでは行かなくても、西欧の劇場はほとんどが客席のスペース以上に、舞台裏のスペースをとっている。

それに比べて、日本の場合は土地の制約や値段のことから、観客席の十分の一ぐらいの狭いスペースが舞台裏だと思いつづけてきた。

できるだけ観客席を広くしようと明治の中期において観客席へ凸型の型であった古典様式の歌舞伎舞台を、客席へ出ばった部分をぶっつりと切って今のプロセニアム（額様式）にして、ちょっとでも多くの観客を入れるというようなことまで行われてきている。考えれば悲しいほどの観客サービスであるが。

このような民間劇場には、また表方（おもてかた）という部門がある。如何にすれば、劇場をお客様で一杯にするか、如何にすれば観客に喜んでもらえるかということをする人達である。

商業劇場では一体に一ヶ月の公演がほとんどであるから、私の経営しているところでは、約十万人の観客の動員が必要である。それも毎日毎日でほとんど休むことがない。そのために一つの劇場単位で、十五人ぐらいの外交営業マンがフルに働いている。また、他劇場に負けぬための宣伝や販売促進というパートにも十人近い人が働いている。そのようにして、劇場へ招き入れたお客様に対して、客席係りの案内嬢は常置30名を越える。この表方や裏方の全員が劇場のムードをつくりあげるのである。

プロデューサーの大先輩である宝塚歌劇の生みの親〝小林一三先生が、いつも舞台と客席が一度に観れる椅子に座って観劇していた。芸が虚実皮膜の間の技ならば、プロデューサーもまた表方もお客様に対して虚実皮膜の間の技をいたさなければ、お客様は即ち神様はなるほどとはいってくれないのである。その神様という大衆が金を払っても惜しくないというものをつくることを目的とするのが商業劇場である。だから商業劇場のすみずみの壁にいたるまで、出演者の汗と観客の拍手がしみこんでいることになる。

それにくらべると、公共ホールは美しい構造体はできても、それに明確な目的と運営をするプロデュースの組織がかけていることが、おわかりになると思う。

人を集めて文化を享受させようと思うならば、その組織があって物をつくるべきである。そんな運営の大量の人的組織のないままに、公共文化ホールをあまり専門的につくってしまっては、結果は失敗に終る。

私は公共ホールについては別につぎのように考える。
「地域の選ばれた人々によって政治のいろいろのプロセスが議事堂で行われている。一方、公共ホールは、地域住民の祭りの場でありたいということである。祭りの場ということになると、

公共ホールの設計はおのづから異ってくるにちがいない。

今、西欧古代のパルテノンを考えるまでもなく、大衆の集会場はいつの時代、いつの統治の場合にも必ずあった。そしてそれは劇場風の構造となって、大衆の感動をつつみこむ手段がなされた。

民主国家の地域大衆を中心とする新しい大聖堂こそ、公共ホールの真の姿であると私は思う。そんな大聖堂をゆるがす演出は、民政の手段を新しくつくりだすにちがいない。

先日、私はニューヨークの有名な都市研究家グラン・カステール氏と話をした。その時、彼は「都市の活性化は新しい構造体による」ということをいっていたが、大阪では東洋一の大阪城大ホールが誕生した。この構造体の将来は、地域青少年の希望と歓びの声に充たされるにちがいない。建物ではないが鳴門海峡に巨大な橋がかかった。これも淡路島をはじめ瀬戸内海に新しい時代をむかえるための原動力となる。

公共ホールという構造体も、祭りの歓びの場として地域の活性化の中心でありたいものである。それは多目的というより、多角的聖堂でありたい。

しかし私は今、一つの奇現象に驚いている。それは兵庫県尼崎市にある県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロ・シアター）という公共ホールである。

兵庫県はかねがね他県に卒先して、生活文化ということを提唱してきている。生活文化部という名の部制も、私の知識のなかでは日本でここがはじめてのことと思っている。その生活文化部を通して尼崎市に公共ホールができた。

しかもその趣旨の重要なものの一つに、演劇文化のためにという内容があった。そのためか、四百人の客席のわりに舞台操作に関するものはすべてが大がかりにできている。私が相談を受けたときは、すでに建築中であった。私のような演劇商売の経験から申せば、この運営は至難というより不可能に近いといわざるを得ない。

演劇文化であるからには、演劇をやらねばならない。演劇をやるからには、お客様にきてもらうものをつくらなければならない。お客様のくるものとなるとそれなりに魅力のあるキャスティングや野心的な演目でなければならない。そのような演劇の仕込みの直接費だけを計算してみても、四百席の席数ではかなり高額の入場料が必要である。

おまけに尼崎市というところは、大阪、神戸からは近郊といっても、かなりはなれている。その大阪神戸の市内でも、演劇の商売はなかなかむつかしい状態である。まったく私は図面を見ながら言葉も出ない状態であった。

そんな私がいつの間にか、このピッコロシアターの運営委員長にさせられてしまった。

ところが、そこに助けの神様のような人が現れた。しかも、女神であった。大阪の毎日ホールの演劇を長い間育ててきた山根淑子さんである。現在は、このピッコロシアターの名館長として、関西はもとより、日本全国の公共ホールの運営者達を唖然とさせるような見事な仕事をしておられる。そしてこの不自由なホールが、関西演劇のメッカになった。

これは私には奇蹟としか思えない。しかし、プロデューサーとは、そのようなものである。こんなプロデューサーは一朝一夕に育つものではない。山根さんのような三十年に及ぶ演劇の仕事のいろいろの蓄積のなかではじめてできることである。

そして何とこのプロデューサーは、日本でもまったく初めての県立の演劇学校も、このホールのなかでつくりあげた。当初、五百人の応募者のなかから60数人が入学した。そしてそれから二年目の新しい生徒の卒業公演が目前である。私もその生徒達のステージを観ることがある。青春の純粋な感動が満ち満ちている。ホールそれ自体が喜びにゆれているようである。公共ホールもここまでくれば、地域文化の財産となる。ここに育った人達が、ここで受けた素晴しい感動を、将来にわたって必ず他の人々につたえてくれるにちがいない。

小林一三先生がいつも私共に「事業は人なり」といっておられた。

ホールもそれを造る前に、まず、それを運営できる人を発見することが大切である。小林翁は400に近い事業を興している。それをはじめる前に必らず何年もかかって人材を求めている。

人の熱情と頭脳的運営をソフトとするならば、建築物のハードと、このソフトは同等に重要に考えられてもよいと思う。

小林一三先生はまたいう。

「ほんとの財産は建物じゃない、この頭一つだよ」

小林一三先生は日本の大衆のための建全な文化を積極的に創りあげてきた人である。

家族のために、社会のために、鉄道、住宅、百貨店、そして劇場娯楽そのすべてが創造的であった。今このホールについて小林翁の頭のなかに立ち入れるなら、どんな文化の城の姿を見ることができるであろうか、と思いたくなるのである。

（いとう　くにすけ）

「開かれた劇場」
ピッコロシアターの場合

兵庫県立尼崎青少年創造劇場
館長　山根淑子

聞き手　**橋本健治**（坂倉建築研究所）

――「創造劇場」とはずいぶんと意欲的な姿勢の表明ですし、しかも「青少年」とあえて限定しているのですから、一般的な公共ホールの運営からすると思いきった条件設定だと思います。まず、そこにこめられた主旨とホールの概要をお話くださいませんか。

「演ずる」若者の場

この施設は、正式名称を「兵庫県立尼崎青少年創造劇場」と申します。ピッコロシアターは愛称です。

兵庫県は勤労青年を中心とした文化(Culture)、スポーツ(Sports)、レクリエーション(Recreation) 活動の振興をはかるため、略してＣＳＲ活動といいますが、その拠点施設を県内各地域につくっています。ピッコロシアターは阪神間のＣＳＲ活動の拠点として誕生しました。建設にあたっては日頃からＣＳＲ活動に意欲をもやしている青少年たちが、基本構想の段階から参画していろんな要望をだしました。「アマチュアの活動の場であるから客席数は少くてよい、ただし舞台スペースは広く、舞台機構は一流劇場並みにしてほしい」また「同時に演劇や音楽のリハーサルや発表ができる場がたくさんほしい」といったような…。

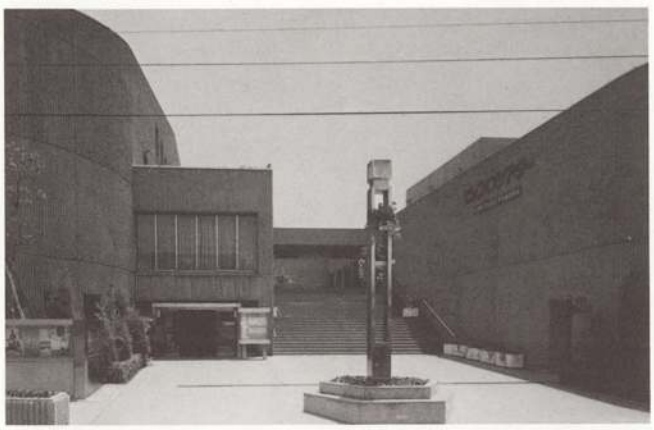
それで、大(４百席)、中(２百席)、小(百席)という、３つの小劇場群と、練習室、展示室、資料室という施設内容になりました。ただし、大ホールは舞台が客席スペースの２倍もあり、「観る」ことより、「演じる」ことに主眼をおいたユニークな劇場空間をもつ、青少年の創造劇場が生まれたわけです。

大ホールは演劇を中心とした多目的ホール、中ホールは演劇、音楽、バレエの公演やリハーサルのできる自由な空間、小ホールはとくに音響効果を配慮した音楽ホールです。若者たちに手づくりの舞台の楽しさ、面白さを肌で感じて貰うため、中ホールでは照明設備、音響設備の操作も、知識のある人たちには開放しています。練習室では、お芝居の本読みなどのほかフォークやロックの練習もできます。公立ホールでは全体的にロックをしめだしているところが多いようですが、ピッコロシアターは若者の創造の場ですから自由に使ってもらっています。

――確かに各ホールの実をあらわしていますね。その「青少年」ですが、年齢制限はいったいいくつまでなのですか。

さきほどお話したように勤労青年を中心に考えていますので、30歳までを青少年と決めています。また30歳以下の人が半数以上いればそのグループも青少年団体とみなしますので、申込者の95%が青少年利用となっています。

――それなら安心しましたが、一方で、青年を過ぎた者にとっては残念というやや屈折した心境です。つぎにこのホールが県立であることの役割と、尼崎という一地区にあることの役割との関係はどうなりましょうか。



ピッコロシアター入口

地域の創造・文化の発信地

ピッコロシアターは県立の施設ですから兵庫県民の、とくに阪神間の青少年の活動を優先しますが、尼崎市は大阪市に接し阪神はひとつの文化圏といえるでしょう。住居は阪神間、勤めは大阪、また逆に大阪から阪神間の大学へ多勢通っているという状態ですから、県域、市域にあまりとらわれずに運営しています。

用途に応じて選択できる大・中・小のホール、一流劇場にひけをとらない舞台機構など施設面の使いよさと、青少年料金を低くおさえていることが魅力になって地元の兵庫県内だけでなく、大阪、京都、奈良の若者たちからも申込みがあります。こうした地域の若者たちが、演劇を中心に繰りひろげる活発な活動が、地元の若者にとっても良い刺激になります。尼崎のピッコロシアターというだけでなく兵庫県がつくった近畿の若者たちの創造活動の拠点として文化の発信地になれればいいですね。

ＣＳＲ活動の拠点施設の敷地は各地とも地元提供になっていますので、この劇場も尼崎市が土地を用意されました。当初、武庫之荘の公園につくる構想があったそうですが、法令上許可がでず工場跡地の現在の場所に決まったわけです。

〝尼崎は文化的イメージの低い都市という固定観念で見られがちだったが、この劇場ができて文化的なイメージアップがはかれた〟と市長さんも喜んで下さっています。市の方で劇場前の街路をカラーれんがで舗装し、少し周辺整備をしてくれました。

――ホールの存在が街に貢献した証しのようなお話ですね。阪神間という地域でみた場合、他のホール群との関係はいかがですか。

阪神間にはルナホール、ベガホール、アルカイックホール、西宮、伊丹、宝塚、川西各市民会館と多くのホールがあります。ただ、ベガ、アルカイック、民間のザ・シンフォニーホール、フェスティバルホールなどは音楽が中心です。これらのホールと同じ催物はキャパシティ、立地条件の面から考えてもとてもたちうちできません。独自性を出すためピッコロシアターは演劇ホールの性格づけをしました。

――それでは、阪神間のホール群がそれぞれの特性を生かしての共同企画事業をするような試みは考えられないものでしょうか。

公立の文化施設が自主事業を企画する場合全国公文協自主文化事業委員会作成の公演事業資料を参考にされているようです。公文協というのは公立文化施設協議会の略で、阪神、県、近畿、全国公文協があります。公演資料の一覧表を見てよく感じることは、経費が少々高すぎるのではということ。それにピッコロシアターは客席数が少いので、他館に比べ必然的に入場料が割高になるので同じ催しものはとりあげにくいのです。他の公立ホールと共同で何かやるというよりは、この施設の特性を生かし京阪神ではここだけという話題性のあるものを狙っています。

昭和59年度　ピッコロシアター自主事業計画

区分／開催月	鑑賞劇場	文化セミナー	実技教室	演劇学校	その他
4月	10日・11日　演劇集団円公演 「ユリア」ストリンドベリ'84 原作＝ストロンドベリ「令嬢ジュリー」 翻案・演出＝ロジャー・パルバース 〈出演〉岸田今日子・立川光貴・後藤加代			4月12日　入学式〈本科・研究科〉 ※授業日程　〈本　科〉毎週火・木(夜) 〈研究科〉毎週水・木(夜) 月1回集中講義 土・日 ※上演実習　〈本　科〉9月小品発表会 3月卒業公演 〈研究科〉10月前期発表会 3月後期発表会 《講師》 山崎　正和　劇作家・大阪大学教授 秋浜　悟史　劇作家・演出家	
5月		11日　〈ピアノとともに〉 対談　横井和子さん 荒　憲一さん			
6月	7日　劇団音楽座　ミュージカル公演 「ヴェローナ物語」 台本＝横山由和　演出＝五十嵐進 作曲＝上田聖子　振付＝川田純子・井上かほる				
7月	11日　善竹狂言名作シリーズ（四）　〈共催〉 「千鳥」「鏡男」「鞠猿」 〈出演〉善竹幸四郎・善竹圭五郎 善竹孝夫・善竹十郎ほか		※ピッコロ人形劇教室 7月24日～8月12日（10回） 〈講師〉 人形劇団クラルテ 芳川雅勇・松本則子・古江寿子 ※ピッコロ狂言教室 8月22日～26日（除・24日） 〈講師〉 大蔵流能楽師　善竹孝夫ほか ※'84青少年のための演劇講習会 8月28日・29日 〈講師〉 桐朋短期大学教授　永曽信夫	伊藤　邦輔　兵庫県教育委員 ㈱コマ・スタジアム社長 喜志　哲雄　京都大学教授 中西　武夫　演出家・劇評家 朝日放送嘱託 阿部　好一　神戸学院女子短期大学教授 夏目　俊二　俳優・演出家＝劇団神戸 道井　直次　演出家＝関西藝術座 菅沼　潤　演出家＝宝塚歌劇団 大阪音楽大学講師 金井　克子　舞踊家 髙木　祥次　舞踊家＝宝塚歌劇団 茂山千之丞　大蔵流能楽師・演出家 豊竹咲大夫　文楽大夫 斉藤日出男　日本合唱指揮者協会会員 板坂　晋治　日本舞台・テレビ美術家協会理事 作本　秀信　大阪藝術大学教授 木村　嘉次　日本照明家協会理事 高橋芙美子　俳優＝劇団師子座 山田　善靖　演出家 藤井　傳三　バントマイミスト 《特別講師》 清水　邦夫　劇作家 別役　実　劇作家 木村　光一　演出家 藤原　新平　演出家 末木　利文　演出家 永曽　信夫　桐朋短期大学教授 岸田今日子　俳優＝演劇集団円 北村　和夫　俳優＝文学座 小池　朝雄　俳優＝劇団昂 仲谷　昇　俳優＝演劇集団円	
8月					'84ピッコロフェスティバル 8月15日～19日 《特別企画》 16日　桂枝雀独演会 《参加の部》 ※演　劇　一般の部 大学の部 高校の部 小・中学校の部 人形劇の部 ※バレエ　クラシックバレエ モダンバレエの部 ※音　楽　吹奏楽の部 フォーク・ロックの部
9月	27日・28日　劇団民藝公演　〈共催〉 「白夜」　作＝ドストエフスキー 脚色＝ジル・サンディエ 演出＝若杉光夫 〈出演〉鈴木智・樫山文枝	16日　文学座俳優 江守徹さんに聞く 「演劇よもやま話」			
10月	1日・2日　地人会公演 「巣」　原題／二番街の殺人 作＝ニール・サイモン　訳・演出＝木村光一 〈出演〉有馬稲子・名古屋章ほか				
11月					
12月	8日・9日　演劇集団　円公演 「花粉熱」　作＝ノエル・カワード 演出＝テレンス・ナップ 〈出演〉仲谷昇・神山繁・文野朋子・松本留美ほか 18日　文学座公演 「ジェルソミーナ」～フェリーニの「道」より～ 演出＝小林勝也 〈出演〉北村和夫・太地喜和子ほか 22日　劇団ひまわり　童話の劇場 「魔法をかけられた王子たち」構成・演出＝関矢幸雄				
1月					
2月	19日　プーク公演「人形日本風土記」　〈共催〉	27日　〈有馬稲子さんに聞く〉 「私の演劇人生」			
3月	17日　ピッコロ寄席　桂米朝独演会				3日　ＣＳＲまつり


「ジャズダンス」金井克子先生


「即興」秋浜悟史先生


「特別講義」永曽信夫先生


「特別講義」仲谷昇先生


昭和59年度ピッコロ演劇学校卒業公演
本科上演作品「バーレスク1931」

現在までの事業で関西ではピッコロシアターだけで上演したすばらしい舞台がいくつかありますが、そんなときには近畿はもちろん、四国、中国地方からもお客様があつまってこられます。

――それは驚きました。催しの内容に魅力があるからですね。ピッコロシアターは、利用率が非常に高いとききますが、その秘訣の一端でもお話し願えませんか。

ピッコロシアターの利用時間は午前9時から午後9時までと決められていますが、演劇公演などでは後片付けに時間がかかりかなり遅くなることがあります。他館では閉館時間になると電気が消されたり、追いたてられたりして気が気でないなどのうわさを聞くことがありますが、利用者の活動や苦労に理解のない運営の仕方ではないかと思います。

自主事業を実施しているところでは、企画、宣伝、観客動員といろんな苦労を知っているので、利用者の苦労などもよくわかります。弾力性のある、利用者の立場にたった姿勢が必要ですね。利用者にとっては年に1回か2回の全力を傾けての催物ですから、多少時間がのびても最後まで気持よく施設を利用できるように心くばりをしたいものです。一方職員は毎日毎晩のことなので気の毒ですが、利用者が気分よくやれれば、また来年もぜひこのホールで、と思ってくれます。人と人との出合いを大切にして、またきたくなる劇場、度々出かけたくなる劇場でありたいものです。

――「人や創造活動を育てる」という観点から独自の事業をなさっていると聞きますが。

演劇学校

ピッコロシアターで行っている事業の中では、「演劇学校」がいちばんめずらしいんじゃないでしょうか。全国的にみても公立の施設では他に例がないようです。

自主事業は4本の柱を立てて実施しています。すぐれた舞台芸術を紹介する〝鑑賞劇場〟、地域の文化的な環境づくりのための〝文化セミナー〟創造活動に役立てるための基本を学ぶ〝実技教室〟、そして地域の文化活動のリーダーあるいは将来の演劇創造者の養成をめざす〝演劇学校〟です。

鑑賞劇場は東京などからプロ劇団を招き公演しています。杉村春子、江守徹、岸田今日子、有馬稲子さん達に出演していただきました。文化セミナーはやはり一流の舞台人の芸談を通して、古典芸能に対する理解を深めたり、現代の演劇界、音楽界の話題をさぐる教養講座です。実技教室は夏休みを中心に人形劇教室、狂言教室、青少年のための演劇講習会など開いています。55年から3年余り舞台技術教室を開催しました。これは照明や音響効果や美術など舞台技術の基本を学んでいただく教室、いわゆる裏方さんの勉強だったのですが、舞台技術だけでなく演技や演出も勉強したいという声が高まり演劇学校に発展しました。

演劇学校は本科が1年、それではもの足りない、もっと勉強したいという希望で2年目から研究科を増設しました。卒業生の中からプロをめざして劇団民藝の研修生になったりして東京

へ4人行きました。卒業生が将来すぐれた舞台人になって活躍してくれれば非常にうれしいことです。けれどピッコロ演劇学校は、たんなる俳優、タレントの養成所ではなく、地域の文化活動のリーダーづくりを目的にしています。

演劇学校の生徒の職業は会社員、教員、公務員、大学生、高校生とさまざまです。卒業生で将来劇団のようなものをつくりたいとの希望もあるようです。受講生で高校演劇部の顧問の先生は生徒の指導に役立てたい、養護学校の先生は、知恵おくれの子どもと接するとき教師の表情のゆたかさ、はきはきしたものいいが大切なのでそれを学びたいと動機はさまざまです。人前で話すことが不得手だった人が一年後には生き生きと話せるようになるのを見ると、演劇教育の重要さを今更のように感じます。

——演劇学校の関連ですが、学校教育での演劇の動きはどんな状態でしょうか？

兵庫県では本年度から新設の県立宝塚北高校に演劇科ができました。そうした動きはうれしいことです。ただ演劇科志望の男子生徒が少いのが残念です。高校の演劇発表会を見ても大半が女子部員だけで芝居づくりをしているので、たまに男子部員がでていると、それだけで感激します。それから高校演劇では2年の発表会が終ると受験勉強のため全員部活動から離れてしまいます。

——残念ですね。演劇を音楽や美術なみに学校教育にとり入れてくれれば、その総合性において相当に実効があると思うのですが。

話はかわりますが、いままでの公演でピッコロシアターの劇場空間がとくに生かされたと思われる事例をあげてくださいませんか。

江守徹のモノローグドラマ「審判」はここで本邦初演の幕をあけました。後舞台から登場し3時間休憩なしで語り続け再び後舞台に消えるという演出は、22mという舞台の奥行の深さを感じさせて感動的でした。演劇学校の卒業公演でも秋浜悟史さんが、昨年は「人質追走」、ことしは「バーレスク1931」という作品を演出され、広い空間を生かした見事な舞台を見せてくださいました。

——ホールの設計段階から館長さんが決まり、その在り方についてのリーダーシップをとられることが、ひとつの理想でしょうが、ホール設計について何か指摘しておきたいことはありませんか。

公共ホールを運営する立場から

私がこの劇場の運営にかかわることになったのはオープンの3ヵ月前でした。ピッコロシアターはアマチュアの活動の場としてはほぼ理想的な、ぜいたくな施設です。少々注文をつけるならば、舞台床が木でないこと、客席の勾配がちょっと急すぎて人形劇などの上演の時、かくしたい裏が見えすぎるきらいがあります。それからミキサーブースが客席の中央につくられていたことなどです。これは実験的な面白い設計だったんですが、演技者の目線のゆくところでやりにくいという注文で、昨年改修工事をして場所を移しました。設計の段階で、舞台の現場にくわしい演出家や舞台技術者の人達の意見を充分聞いていただきたいと思います。専門的な技術については解りませんが、ホールを運営する立場からアドバイスをすると、そんなことです。

——見学者が多勢来られると思いますが、どのような狙いで見学されますか。これからできるホールのための、運営のポイントもあわせてお話し下さい。

現在、全国各地に立派なホールがつぎつぎつくられています。施設面からいえばこの劇場よりすぐれたホールはたくさんあるわけですが、見学の方々はピッコロシアターを公立の小劇場の成功例として扱ってくれています。

皆さんが注目されるのは運営面で、自主事業の多いことです。事業予算は多くないのになぜこんなにできるのかと質問されます。ふつう公立ホールでは、文化庁派遣の演劇公演や、音楽会を2、3回、地元プロモーター主催の歌謡ショーや民踊大会といった程度で年間の自主事業の数は多くないようです。ですから、演劇ホールという性格づけをして、演劇学校をはじめこれだけ数多くの公演を手がけているところは全国でもめずらしいのだと思います。

これからの公立ホールの管理に当っては、利用者の立場に立った弾力性のある運営をしたいものです。規則をふりかざして利用者に不自由や不愉快さを感じさせることのないよう心がけることが大切です。また施設により事情は違うでしょうが、貸館だけでなく独自の自主事業をしないと駄目です。貸館だけのところは貸してやるといった感じになりがちで、働く職員の意識構造もずいぶん違っているんじゃないでしょうか。自主事業を手がけると、いろんな苦労がわかるので利用者に親身のアドバイスができますから。

——今後、ホール文化に関する情報収集や資料提供、相談業務が重要なテーマになってくると思います。ピッコロシアターの取り組みはいかがですか？

開かれた劇場へ

この劇場には舞台芸術に関する資料をあつめ提供するための資料室があります。演劇書をはじめ、新劇、高校演劇の上演台本、古典芸能関係、映画、バレエ、音楽などの専門書を揃えています。希望者には本の貸出しもしています。公共図書館にもこうした専門書は少ないので、喜ばれています。

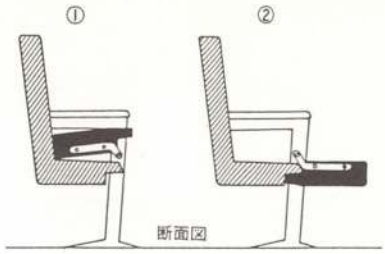
自主事業の公演ビデオは、一応記録用にとっていますが、新劇の舞台は照明が暗いし、撮影技術も未熟なので画像はあまりよいできとはいえません。それに版権の問題もあり貸出しはいたしません。

ピッコロシアターは、青少年の創造活動の場ですからますます多勢の若者たちが集ってきて、活力あふれる舞台をつくっていただきたいし、それと同時に、すぐれたプロの多彩な舞台を提供して地域文化をたかめるための開かれた劇場にしたいものです。

親子鑑賞活動とホール

伊丹おやこ劇場の例――

安積　千恵



図－2　子どもの鑑賞のための二段式の椅子
ブダペスト国立人形劇場の例
（「おやこ劇場連絡会文化資料」より転載）

〈おやこ劇場の活動〉

「背中がゾクゾクッとして、胸がキューンと痛くなって涙がジワーとでた」。
と、第30回例会「宝のつるはし」（劇団風の子）を観て小学校２年生のＳ君は、身体の打ち震えた感動をこう表現しています。

「子どもたちにみずみずしい感性とたくましく豊かな創造性を！」と、昭和52年３月人形劇団プークの呼びかけで、子どものおかれている文化状況に憂えるお母さんと、若い幼稚園の先生の手によって伊丹おやこ劇場は生まれました。

劇場は会費を出し合って、会員１人１人が主役となり、みんなの知恵と力をあわせて自分たちの住んでいる地域に、子どもの文化の輪を大きく拡げていくことを目ざしています。

私達は“ナマ”の優れた舞台芸術の鑑賞と子ども達の自主的創造的な活動（まつり、キャンプetc）の２つを中心に据えて活動しています。それは子どもが健やかに成長するためには、欠くことのできない大切な活動だと思われるからです。

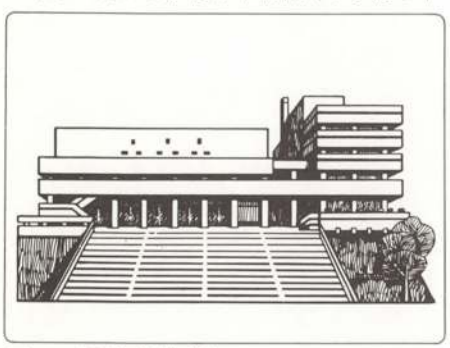
また、昭和44年に福岡で最初に誕生した劇場運動は、全国各地に拡がり、現在419劇場、40万８千余名が参加し、私達と同じ思いで劇場運動を進めています。

伊丹おやこ劇場は、創立以来、年４～５回の鑑賞の場（これを例会と呼ぶ）をもってきました。その中で舞台劇、人形劇、音楽、バレエ、マイム、マジックといろいろなジャンルの42作品を鑑賞してきました。

昨年10月には、高学年組織（小学校４年生以上の希望者対象）が新たに作られ、会員は発達段階に見合った例会を、年４回ずつ鑑賞することになりました。

私達はこれらのほとんどの公演に、伊丹市立文化会館の大ホールを使用しています。

なお、この目標にそって当初200名足らずでスタートした会員は、現在2800余名となっています。（**図１**）。



図－１　伊丹市立文化会館

〈伊丹のホールの現状〉

伊丹市には文化会館の他に中央公民館の大集会室（定員200名）があります。これは固定客席がないことや舞台袖が非常に狭いことから、鑑賞のためにはほとんど使用されていません。音楽、演劇のための会場は、文化会館１つだけという現状では、１年前の抽選で思い通りに公演の日取りがとれないのが実情です。

昨年音楽専用の小ホール建設の話がもち上がり、私たちは早速、小ホール建設の要望書を市当局へ提出しました。各ジャンル別の専用ホールが建てられることは、私達にとって喜ばしいことなのですが、400人規模の小ホールでは、音楽ホールとしては適さないと考え、将来人形劇専用ホールとして使用できる多目的ホールとすること。また、子どもも利用することを考慮して建設するよう要望しました。

現在私達が例会場として使用できるホールは、文化会館大ホールしかありません。大ホールといっても中規模のホールです。私達はこれまでに何度も使用してきたこのホールについて、日頃感じていることを観る側の立場から、とくに私達は子どもと共に鑑賞してきましたので子どもの視点に立って述べてみたいと思います。

〈伊丹市立文化会館大ホールについて〉

①　位置と外観

伊丹市のほぼ中央、市内のどの地域からもバスで30分以内で行ける市街地に文化会館はあります。

この建物はコンクリートの肌を剥き出し、大通りに面して建っています。正面に石段があり、これを昇ったところが大ホールの入口となっています。

石段を昇る度に、会館の周りは木々の緑に囲まれ、入口までの通路に添って花壇や噴水があり、近づくにしたがって気持ちが高揚するような、そんな雰囲気に包まれていてくれたらなあと思います。

②　ロビー

会館に一歩踏み込めば、そこはロビー。ロマンを求めてやってくる人々を温かく迎えいれ、心和ませてくれる別天地であってほしい。そんな願いも空しく、文化会館のロビーは狭く寒々としています。それでも例会当日は、久しぶりに顔を合わせた子どもたちの明るい笑顔で活気にあふれます。

開演前、休憩時に子ども、青年、お母さんの交流の場として、また終演後の劇団との交流会場として、冷暖房つきのもう少し広いスペースがほしいものです。

③　客席と扉

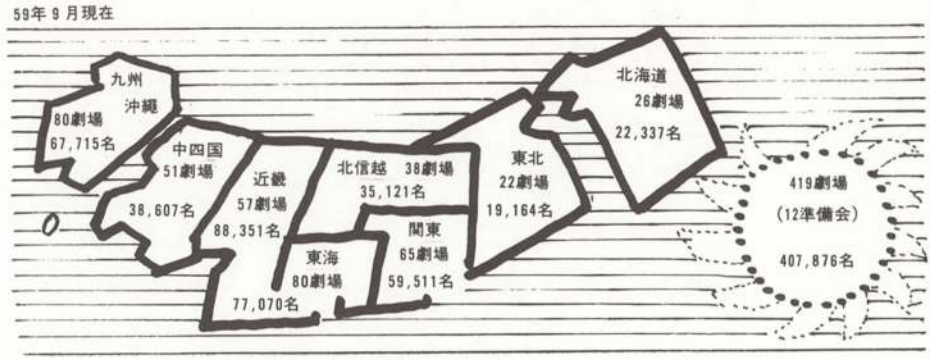
このホールは舞台劇を観るにはちょうど適していますが、人形劇には広すぎ、音楽、バレエには狭すぎます。

客席数914、中央から前部はワンスロープ。後部は階段席となっています。

構造的な欠陥なのか、観えにくい、聴こえにくい席がとても多いホールです。観えにくい席は前部の両端の席。これはやむを得ないとして、前部の後半の席。ここはよく観える位置なのに、スロープがゆるやかすぎて、前列の人陰に入ってしまい、子どもにとってはとくに観えにくい場所となっています。

子どものサイトラインを考慮してスロープが決定されていれば、大人ならもっとよく観えるはず。又子どものために、椅子の座る部分の半分を折り返し、高くなるような工夫（**図２**）や座席を前後たがいちがいに配列するような工夫があれば、よく観える位置だと思います。

聴こえにくい席は舞台正面のまん中辺りです。音響の悪いホールですが、これはそのためではなく「音の穴場となっているからだ」と劇団の方に教えてもらいました。



全国子ども劇場おやこ劇場連絡会劇場・会員数（昭和59年9月現在）

古い建物なので、舞台には冷暖房の設備がなく座席の前列では、夏は蒸し暑い風、冬は冷たい風が舞台から吹いてきます。Pタイルの床は滑りやすく、椅子はガタガタ。そのために子どもがよくケガをします。贅沢かもしれませんが、床には絨毯を敷きつめ、椅子はもっと座りごこちのよいものに、子どもも観やすいものに取り換えてほしいものです。

幼児連れのお母さんが多いため、開演時に出入することがよくあります。扉の前に暗幕が吊されていますが、どうしても開閉時に外の光が入ってしまうので、二重扉であることが必要です。

また、出入りしやすいように客席と両側の壁との間に通路があればいいと思います。

客席の一角に、以前滋賀県の大津おやこ劇場の人から聞いた、母子室があれば素晴しいと思います。母子室というのは二重ガラスで仕切られ、舞台の音は聴えるが内の音は、外へは聞えない構造となっていて、幼児がぐずったときに母子で入って舞台を観ることのできる部屋です。

④ 舞台

舞台については演じる側の人が、いろいろ感じておられることでしょうが、私たち観る側の者にとっても気になるところがたくさんあります。

間口16m、奥行8.5m、高さ7m、この舞台でこれまでにバレエの例会が3回行われました。その時は舞台の奥行きがないために、踊っている人の手と手がぶつかりそうで、気の毒になりました。一昨年のバレエの観賞中、バタンと大きな音がして、舞台にホコリが舞い上がりました。後で団員の方に聞くと、吊物を引き下ろす際にあわてて手が滑ったのだそうです。この舞台は奥行が狭いため、バトンが5本しかなく、演技中に吊り換えをしなければならなかったのです。

舞台劇を観ている最中にホコリが舞い上がるのを何度か見たことがあります。きっと同じ理由によるものなのでしょう。もうこんなのが気になると夢の世界も一瞬にして消えてしまいます。

充分な奥行がないために舞台効果が半減された例会が、他に知っているだけで2回あります。1回は第17回例会「へこき三良」（関西芸術座）。沖縄のサンゴの海に群なす魚たちを表現するために準備された装置が動せなかったのです。もう1回は、第1回高学年例会「百合若」（前進座）。観ている時には気づきませんでしたが、終演後の劇団の方との交流会の席で、俳優の嵐圭史さんが「百合若が孤島にあって立花姫を夢まぼろしに思い浮かべる場面では、紗幕を掛けることになっていたのに、舞台奥行が足りなくて使えなかった」と話されました。紗幕が掛けられていたら、子どもも夢の場面であることがよく分かっただろうにと残念に思いました。

例会後の合評会で劇団の方から舞台機構や設備が悪いために、手直しするなど苦心していることをよく聞きます。舞台袖も狭く舞台転換がしにくいそうです。

文化会館は昭和38年に建設されたもので、舞台条件が悪いのは仕方がないのかもしれません。最近建てられたホールでは、こんなによくない舞台条件のところはないと思いますが、全国のおやこ劇場を対象としたアンケート調査では、新しいホールでも奥行の広さなど舞台機構が充分でないと答えているところがたくさんあります。

⑤ 水飲み場 便所 託児室

子どもも利用するホールだということを配慮して、水飲み場、便所、洗面所を設置してほしいと思います。

このホールのよいところは売店がないことです。ジュースの自動販売器がありますが、あれも不要です。その代わり水飲み場が必要です。子どもたちは興奮するとすぐのどが乾くからです。

便所は一応子どもも使いやすいように改造されましたが、数が足りません。休憩時のトイレラッシュは子どもにとっては切実な問題です。今の倍の数に増やし、出入口を両側につくり通り抜けができるようにすれば利用しやすいと思います。赤ちゃん連のお母さんのためにトイレの入口にはベビーベットを置いてほしい。できることなら赤ちゃんを預かってくれる託児室があればいいと思います。10坪程度の広さで絵本、木のおもちゃ、ベビーベットが揃っていればいうことありません。

〈劇場運動とホール〉

ホールのある市の5割以上におやこ劇場（子ども劇場と名づけているところもある）が生まれています。反対にホールのない市にはわずかしか生れていません。このように地域に根ざした文化活動を進める上で、ホールの存在はとても大切です。地方文化の拠点として、ホールはこれからもどんどん建設されることでしょう。建設に当っては建設委員会を設け、専門家の意見、演じる側や私達のような観る側の要望も聞いた上で設計してほしいものです。

私たちは外観の豪華なホールを望んでいません。子どもにとっても観やすく、使いやすいホール、また、劇団や音楽団体の方にとっても演じやすいホールがほしいと思います。そのためには現在数多い多目的ホールではなくジャンル別の専用ホールが必要です。

私たちは日本中のすべての地域に音楽、バレエ専用の大ホール、演劇専用の中ホール、人形劇専用の小ホールといった大小さまざまの専用ホールが生まれ、劇場運動がさらに拡がっていくことを願っています。

1985年度年間計画

〈例会〉（低学年部）	（高学年部）
'85 6月 いたずらラッコのロッコ（人形劇団京芸）	奇蹟の人（関西芸術座）
9月 古哲リズムワンダーランド（古哲リズム音楽センター）	アンネの日記（劇団民芸）
12月 エルマーのぼうけん（人形劇団ブーク）	高石ともやとナターシャセブン（プランニングプロジェクト・スコア）
'86 4月 とべアンパンマン（フォーリーブス）	地獄・極楽閻魔の通信（人形劇団クラルテ）

〈自主活動〉

4月21日	（日）	文化まつり
7月	（2泊3日）	高学年キャンプ
8月	（1泊2日）	親子キャンプ（低学年対象）

（あづみ ちえ／伊丹おやこ劇場運営委員長）

新しい街づくりとホール

OCC-TV&SPホール——

服部躬依

私は、つねづね日本各地に競って建てられている文化ホール（地方公共ホール）のあり方に疑問を感じていた。なぜなら、これらの文化ホールは、国や地方自治体で建設された行政主導型の建物であるため、構築物としては立派でも、ほんとうの意味での地域住民の利用できる建物にはなっていない。すなわち、建物の運営、管理、利用の仕方などに非常に問題がある。

私自身の考えでいえば、地方のホールというものは、コンベンション、スポーツ、文化（演劇、歌など）の三つの機能を備えた、すべてに利用できるものでなければ、その地域で生活している人々にほんとうに役立つものにならない。使い方を限定してしまうと、とても地域の住民だけで扱いきれるものではない。地域住民に役立つホールというものはいかなる目的にでも自由に使えるものであることが第一である。

文化と多目的ホール

現在、東京に住んでいる人が転勤するときは、単身赴任が多く、地方から東京に移る場合は、家族ぐるみということが多い。これは都市と地方の場合でもあてはまるもので、地方の生活がいかに自然に恵まれ、水と緑の中の非常によい環境であるといっても、実際には人々は好んで住もうとはしない。都会の文化的環境が、地方では薄らぐため地方に行くことによって、都会のファッション、文化的集いから遠ざかる、すなわち自分のすぐそばに文化がないと流行に遅れるようで気持が落ち着かないのである。これからの街はたしかに楽しみながら暮らせるところであることが必要である。大津市郊外にニュータウンを建設するにあたって、京阪神から人が集まってこれるように、今回私はこの三つの機能を備えた多目的ホールとして、ＳＰホールを建設した。地方のすばらしい自然環境の中に都会に負けない文化環境を提供することで、この地に住む人たちに満足してもらうことを期待したのである。

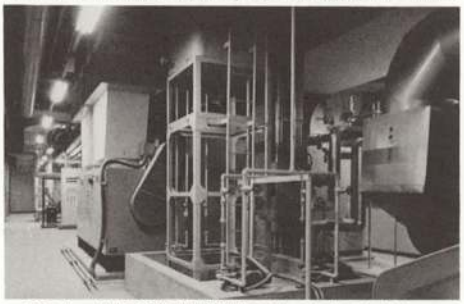
多目的ホール建設の問題

演劇、歌などを上演する文化ホール、スポーツ主体の体育館、パーティなどが使うコンベンションホール、この三役をこなせる建物は、日本各地の自治体の施設をみて廻ったがほとんどないに等しい。

これらを一緒にした建物は建築家からみると、とんでもない素人発想とされ、明るくて広い、床の平らな体育館と暗くて椅子や舞台のある音響効果の必要な文化ホールは正反対で、パーティにはこれらは広すぎて困るとされた。しかし、これらの問題を解決しなければ住民のためのホールにはならないので、解決のため社内に開発技術室を設け専門家を集め照明、椅子を始めとして、その他各種の研究を各パーツごとに行い、その結果、例えば新体操の公認競技のできる体育館が、椅子を電導式で動かすことにより文化ホールに変り、電動式の分厚い緞帳を天井から降すことで、パーティのできる多目的ホールが誕生した。

汚水処理場の利用

日本は欧米に比べて、まだまだ下水道の普及が低く、ニュータウン建設にあたっては、必ず処理場が必要となる。このような施設は必要不可欠のものであるにもかかわらず、住民は家の近くに建設されることを喜ばない。ここに人間のエゴが見られるが、この問題の解決も大切である。このため処理場に住民の喜ぶもの、ニーズの高い附帯施設をつければ逆に住民が誘致を願い下水道の普及も高くなるはずと考え、今回、処理場上部にＳＰホールを建設した。汚水処理は本業であるため問題はなく、排水はホール前の池に流し、鯉などを泳がせることができる。ホール下部が汚水処理場になるため、臭気対策がもっとも大切であるが、臭気はダクトで集めジェットエンジンで完全に燃焼し、その排熱でホールの冷暖房を行い、舞台照明はこの自家発電でやるため一石三鳥である。将来は温水プールを作ることも計画している。



SPホール地下汚水処理場のジェットエンジン

ＣＡＴＶ局の設立と地域の文化

これからのニュータウンには独自の文化づくりが必要で、その一環として「ＯＣＣテレビ」と名づけたＣＡＴＶ局を開設した。この有線ＴＶを使い住民の手づくりのスポーツや文化的催し、またニュータウン自治会での話し合いを全戸に中継し、住民の直接参加による新しい街づくりを進めたいと考えている。また、将来ここを核として滋賀県内の各地に光ファイバーで放送できたらと考えている。

ＳＰホールのもうひとつの利用として、地元の人たちの集いの場として提供したい。地域住民に開放することにより、正月の互礼会、夏の盆踊り、また趣味の教室、パーティなどあらゆることに利用することで、ここが住民の集いの場になり、住民の輪の原点ともいう「祭り」の場となることを望んでいる。そして、将来はＳＰホールが地域住民で運営、活用され、新しい文化を生み育てていくことを期待している。

運営と発展

建物の運営は、公共ホールのように管理者にあわせた時間でイベントを打ち切るとか、申込みをうけないというようなことは決してしない。公共ホールから締め出されている若者のロック演奏も住民が望むならやってもらう。若い人が文化に積極的に取り組むのを育てるため、彼らの有意義な催しに対して、使用料はうんと安くしたい。場合によっては無料も考えている。一方、劇場のない人たちには、ここを提供する。そして若い人たちがここで文化を育て、ここから旗上げしてくれることを願っている。

これからのニュータウンは住宅を買うのではなく、環境のすぐれた楽しみながら暮らせる街を買うということが大切になる。そして、買った街を豊かなコミュニュティの輪の中でよりよく育てていくための役割をＳＰホールが果してくれることを期待している。

（はっとり　きゅうえい／大倉産業株式会社代表取締役社長）

フリースペースから小劇場へ

これからの若者文化はどこで産み出されるか

林　信夫

ひとりの男がアメリカから帰ってきた。森喜久雄・41歳・神戸生まれ、通称〝監督〟と呼ばれている。1971年12月、大阪ミナミの玉屋町に〝MORI'S FORM〟という画廊から出発したフリースペースをつくった人物である。彼は浪速短期大学デザイン美術部店舗設計科を卒業後渡米。L・Aにてさまざまなアルバイトをしながらカリフォルニア芸術大学の前身であるシュナードアートスクールに入学。ニューヨークデザインハウスにも勤務し、シーグラム、コティ化粧品の担当のデザイナーとして活躍した。1968年、ベトナム戦争の最中、アメリカ軍隊の徴兵状を受けるがこれを拒否。1970年大阪万博アメリカンパークマネジャーとして帰国し、モリスフォームを開設している。

モリスフォームと多彩な人材群

モリスフォーム活動の特色のひとつにペーパーメディアの多彩さがまずあげられるだろう。バラエティーマガジンとしての〝THIS IS A PEN〟、美術誌としての〝JAM &BUTTER〟、写真誌としての〝GRASS EYE〟、以上3誌を、発行時期には差があるものの定期的に出しつづけたその力量には感心させられる。監督自身がデザイナーでもあり、アメリカでできたえられてきたアート感覚が誌面いっぱいにひろがり、当時の大阪のデザイナーたちは大きな刺激をうけたはずだ。もちろんデザイン面ばかりでなく、これらのペーパーメディアそれぞれのコンセプトワークも、大学闘争敗北後キャンパスから街へ出ていった多くの表現者たちの活動状況と対応していた。もしくは先取りしたものであった。

これだけのメディアを発行できた背景には、まだ名もなき多くの若き後英たちをこのスペースに集めることができた監督の（だから監督と呼ばれたのだろう）魅力ある組織力があったといえる。イラストレーターとして力をつけていった弟の森英二郎。「ガキ帝国」以後メジャーでも活躍の場をひろげた映画監督の井筒和幸。関西のフォーク・ロックショーをプロデュースした福岡風太、阿部登。ぼくにとっても笑芸の世界に関係するきっかけとなった思い出深い漫才師北京一・京二。美しいパントマイマーであり、結婚してアメリカにわたった重藤静美。編集者として力を発揮し、後にプレイガイドジャーナル誌にも籍をおいた渡辺仁など、実に多彩な人材がこのモリスフォームに群れていた。

つまりフリースペースを考えるとき、情報発信基地としての役割りを問うことは、いまの都市の文化機能論議のなかでも有効ではある。しかし、まちがってならないのは、ハードとしてのスペースが整備され、メディアが



アメリカ村三角公園風景

展開されるという、発信基地機能の充実だけでは実体あるフリースペースは形成されない、という点である。この点に関しては後に述べる小劇場展開にとっても同じである。多彩な人材のさまざまな活動があり、それをひとつの色に織りあげてゆく才能豊かなプロデューサーの動きがひとつのムーグメントになりうるとき、ハード、システム面の充実とともに情報発信基地は機能する、ということだろう。そして、システム化される前のムーブメントは常にアナーキーな要素があり、どれほどの活動を繰りひろげようとも時代状況の推移とともにその任を終えるべき日は必ずやってくる。また、任を終えたと思われたとき主宰者が自らのグループのしめくくりをどうつけるか、そこに人間としての幅もでてくるのである。

対抗文化の拠点だったフリースペース

なぜ、フリースペースから小劇場へ、なのか。この流れには1960年代中盤から1985年の現在に至るまでの、明確な若者文化の質の違いがあらわれている。大学闘争、それは政治的な要素を含みながらも実体としては若者文化革命の色が濃くあった。美術の世界におけるハップニングから、音楽のフォークそしてロックへ、8ミリ16ミリを中心とした自主制作映画、アンダーグランドとしてのテント劇場、長髪・ジーンズファッションも含めてこれらすべては既成の社会体制・文化に対するカウンターカルチャーとして位置づけられるものであった。フリースペースはその時代の気分に対応した、街のゲリラ拠点であったわけである。しかし、1983年の石油ショック以降、街の若者文化は変質しはじめる。情報発信母体としての若者文化は、商売になる部分として既成の経済構造の中に組み込まれ始める。フォーク・ロックはレコード会社によってレコードリリースされ、自主製作映画の監督たちはメジャーに発表の場を移し、テント劇場は現在劇団四季のキャッツに代表されている。この流れのなかでフリースペースは、したたかな商業小劇場として、アナーキーなカウンターカルチャーから既成体制内の社会化文化へシフトを変え始めたのである。

現在、大人と若者の間がこれほど社会・経済構造上近づいた時代はないのではないか。違いといえば好き、嫌いという非常にメンタルな部分であり、基底において同質性をもっていながら、互いに必要以上にその違いを強調するマスコミ論議となっている気がするのである。対抗文化として若者文化があったとき、社会からさまざまに断罪されるかたちで逆に若者文化は輝いたのである。フリースペ

〝遺跡〟を造るなかれ

活況呈する民間の小ホール

中島　陸郎

やはり、おらが街の大阪城ホールに代表として登場してもらおう。なにしろ〝東洋一を誇る〟らしいから、話が早い。まず今年2、3月のスケジュールをのぞいて見る。〝文化とスポーツの……〟宣伝文句に適う催事両月合わせて7件8日間。他は企業の展示会や宗教団体の集会等。ある日ある展示会に紛れこんでアリーナの中心点に立ち、360度目をめぐらす。主のいない16,000の客席が泣いていた。ヒトラーの演説が幻聴のように耳の奥から……。案内パンフレットの形容句を拝借すれば〝華麗〟にして〝壮大〟なムダ！　見栄っぱりの極致と映る。



オレンジルーム客席

お上の造り賜いし物だから仰ぎみるだけで感嘆、では今どきシャレにもならない。いついつまでも満足しているのは役人と議員と建築家だろう。そこで、せめて、何もやるものがないときくらいは、罪亡ぼしに門戸を閉ざさず、納税者のために解放すべきだと㊐は進言したい。すると、やって来た人々は〝遺跡〟見物の図となる。――おかしいではないか。誰がどこで発想したのかは知らず、決して市民が望んだものではあるまい。

2年程前の数字だが、公共ホールの利用率は3割程度といわれていた。今はどうだろう。専門家の説では既に反省期に入っているというが、なお役所の大ホール志向は改まる気配を感じさせない。大は小鳴箱の機能果たし難く、小を兼ね得ないことを知ってか知らずか。そういえば、7、8年前、〝大きいことはイイことだ〟を絵に書いたような関西財界ぶち上げの「中之島芸能センター構想」というのがあった。オイルショックを境にして経済は低成長期に入り、「文化産業論」が注目を浴び、物より心が見直され、〝文化の時代〟〝地方の時代〟のスローガンが突如どこからともなく現れ出でた時期。かの「構想」を読んで、採算を考えつつ企画を埋めるのに日夜頭を悩ませている民間のホール野郎はアタマにきたものだった。〝国際都市大阪〟だか何だか知らないけれど、バカでかい物をおっ建てて一体全体埋める見通しでもあるのか！と。

時移り、管理化が進む都市生活者の乾いた心が真に求めているであろう濃密な異空間＝小劇場（500席以下の本格規模）は、この大阪市内には遂に1軒も建たなかった。代わりに巨大遺跡が中之島から潜って大阪城に化けて出たというわけか。強者共が夢の跡。大阪城とは格好の場所を選んだものだ。

一将功成りて万骨枯る、という諺が浮かぶ。万骨になり果てることを拒否する若者が市民が、各々学生劇団やアマチュア劇団に拠って、古ビルの地下に屋上に、あるいは辺境の空地に造営する小動物の巣のようなミニ空間は、この間に約20誕生した。すべて彼らの自立心と涙ぐましい甲斐性によってである。

オレンジルーム7年の経験が教えること

さて、私がプロデューサーという肩書で、自由の保証のもとに最初から企画・制作を引き受けているオレンジルームは、1978年7月に柿落しをやった。以来、足かけ7年。いま若者の集約的な表現拠点として定着したオレンジルームは、大阪のキタ、京都と神戸をつなぐ交通の要で、ターミナル・デパートや映画館の建ち並ぶ梅田界隈のド真中『阪急ファイブ』というファッションビルの8階にある。8階全体は4区分され、オレンジルームの他に音楽教室、放送スタジオ、スポーツセンターが設けられ、総称してサウンドジム。'71年の母屋の創業時からあったボーリング場を転用したものだけに劇場としての本格的な設備を施すことができず、タッパも低いが、面積は282㎡あって、必要に応じて三つに仕切ることができる（舞台の広さは門口約6間×奥行3間張出し1間可。客席は非固定椅子で180。桟敷に直すと約倍可）。

分類すれば、商業施設に併設の多目的スペ

（前頁からのつづき）ースから小劇場へ、という流れにも時代の状況が背景としてあったわけだ。

1974年2月号のプレイガイドジャーナル誌上「特集・表現者1」で森喜久雄氏をぼくがインタビューしている。モリスフォームを閉鎖する、という情報からの緊急インタビューだった。

「今は一人ひとりがしっかりやらなあかん時代やないか。だから自分自身の生活のなかにそれぞれがフリースペースをもつべきなのだ。最初は自分自身のフリースペースをもつきっかけとしてモリスフォームをつくったのだけど、ところがフリースペース、モリスフォームにただいることがフリーだと錯覚する人間が多くなってしまった。要するにポーズとしてだけのフリーなのだ。」

石油ショック以降、フリースペースも見事にファッション化されてゆく状況が彼の言葉からひしひしと伝わってくる。それがいい、悪いということではとりあえずなく、若者状況が変化してきたということなのである。イベント、メディア、人の動きと、1970年代のはじめに多くの人たちに強いインパクトを与えたモリスフォームはかくして閉鎖され、各

ースであるが、企画内容と一般の印象から判定すれば〈劇場〉といえようか。週の前半はダンスを中心としたオレンジクラブ（教室）活動。後半の木曜～日曜には演劇をはじめとする各分野のイベントを積極的に展開している。原則として自主企画であり、月平均演劇２本、セミナー、音楽、映画、落語、講談等が各１本となっているが、演劇の場合は木曜、仕込みの金～日曜本番というのが常態であるから、本数は２であっても重点分野である。（週前半の昼間は貸室として会談や講習会やコーラスの練習場等として一般の利用に供している）。

経験から思うのだが、行政にしろ民間にしろ、力ある側が社会的経済的非力の若者を対象にするにしろ、あるいは企業の社会的責任として実行するにしろ、その文化事業の真価が問われるのは、一にも二にも運用の仕方にかかっている。いかに形の大きさを誇り、設備の優秀さを自讃しても、劇場自体に吹き込まれるべき創る側、享受する側ともどもの息吹きと空間自体の自立性が、人材や運営面で裏づけられていなければ、早晩、税金のムダ使いに堕したり、企業の論理に振りまわされる結果になるだろう。〈根を凝視する営み〉がわれわれの基本認識であったし、不断の確認作業もこれからの大切な課題である。

文化の発信基地たるべき小劇場

時代は心の歪みや疲れを癒し気分を高める〝隠れ場所〟としての空間をますます強く求めていることはまちがいない。60年代に始まった小劇場の芝居は、小さいながら自前の拠点を獲得して、この地でも盛んだ。機械力を排した原初的な創造行為は凝縮度の高い演技空間を現出し、熱い共感・共鳴で受容されている。表現側にドロップアウトする若者も増えてきている。若者だけでなく、「遊びこそ生甲斐」の80年代の気分は、物質面のゆとりを追うかたちで、若者を基底にして確実に上世代へと昇り始めた。〝人生80年時代〟もすぐやってくる。「遊び」を求める波は世代間の壁を破りつつあるとさえいえる。欲求はどんどんひろがる。にもかかわらず、たとえばまとまった公演を企てて巣を出ようとしても条件に適ったコヤは、この地では先輩格の島之内（教会）小劇場とオレンジルームくらいである。公共ホールでは先験的な進んだ運営を続けている兵庫県のピッコロシアターと芦屋ルナホール、それに京都府立文化芸術会館を数えるのみ。俯瞰すれば（大阪に限らないが）なお荒涼とした風景……。



オレンジルーム舞台風景

しかし、この砂漠にもようやく２つのオアシスが生まれようとしているのは大変明るいニュースだ。大阪ガスのバックアップでこの４月に店開きしたアーチストタウン『扇町ミュージアム・スクエア』と、今秋オープンの『近鉄劇場』。前者には倉庫を改造した小空間後者には大阪初の本格小劇場（420席）が併設される。待望久しい空間だ。注目すべきは、いずれも、早くから〈小劇場〉の意味・理念に目覚め経験も積んだ劇場専門家を中心とした外部ブレーンが、意志をもち、かつ文化の発信基地たるべき空間とはどのようなものかを廻って情熱的に討議を重ねてきた事実だ。それを狭い経験主義やコネクションのしがらみで抑えるのではなく、逆に謙虚に受けてたった施主側の雅量は評価されていい。たぶん、バランスのとれた理想的なスペース・空間が誕生し、運用にも積極策がとられることだろう。

本来、完全な設備とまではいかなくとも、（既存施設・空地の活用や便宜供与も含めて）小スペース・小劇場を諸所に準備して、地域のアマチュアや市民の文化活動を堀り起こし成育に力をかすのは、当然、行政の分担すべき役割だろう。が、多くの行政自体に期待できるものはほとんどない。地域住民の新たな認識と要求だけが頼りである。それと、口はばったいことを言うようだが、建築家には、共犯の汚名を着せられないために、〝閑古鳥〟ではなく、利用し創り享受する人間の側に立つ論理の構築と行動に望みを托したい。

（なかじま　りくろう／オレンジルーム・プロデューサー）

スタッフはそれぞれの道を歩み始めた。そして監督は再びアメリカにその居を移したのであった。

若者文化・都市文化の拠点、小劇場

大阪において小劇場の動きを最初に始めたのはミナミの島之内のキリスト教会ではなかったか。西原牧師がニューヨークに行ったとき、教会がイベントホールとして地域に開放されているのに感動して始まった島之内小劇場は、劇団プロメテ主宰者岡村氏という良きプロデューサーに恵まれ、ユニークな劇場運営をつづけている。ある劇団が男女とも裸のシーンを演出したとき、列火のごとく怒った西原牧師の宗教者としての姿勢は、若者文化が構造変革をおこした流れのなかでもかたくなにひとつの路線を守る、という意味において貴重な存在であった。ぼく自身にとっても、まだメジャーになっていなかった東京ヴォードヴィルショーやつかこうへい劇団をプロデュースした最初の劇場として思い出深いところなのだ。この島之内小劇場を別格とするなら、その後、阪急ファイブのオレンジルーム、京

ライブからのメッセージ

バナナホールと近鉄劇場

吉川　裕之



バナナホール正面入口

大阪市北区堂山町界隈、ここ3年間で通りを行きかう人の流れが変わった。「東阪急北通り」から「堂山パークアベニュー」へと「通り」の名称も変わり、かつて北の夜の社交場であった「クラブ・アロー」も消え、ひっそりとしていた通りが、「バナナ・ホール」を中心とした若者が集う「街」へ変わったといっても過言ではないだろう。

バナナホールは新しい型のライブハウス

今から5年前の春だった。高木健至氏（バナナ・ホール・オーナー）から、堂山町に所有しているモータープールを何か新しい事業に転用したい旨の相談を受けたのは。当時、私は音楽家としてNHKのスタジオでドラマの音楽や、ライブハウスの音楽プロデュース等で活動していたせいか、「それなら劇場空間のある新しい型のライブハウスを建てるべきだ」と提案してみた。というのも、その頃まで隆盛を誇っていた、いわゆる店としてのライブハウスにかげりがみえており、またいいイメージを持った小劇場がなかったということも、建設にいたった大きな理由の一つであった。

提案の主旨として、

①〈新しい型のライブハウス〉――劇場空間としての広がりを持ち、他のライブハウスにない舞台・音響・照明などを完備すること。

②飲食部門として、フルコース・ディナーまで用意できるレストランとしての機能と人材の確保。

③オリジナルなプロデュースを含め、企画・運営面では㈲ワーク・ショップが行うこと等であった。


バナナホールでの演奏風景

オープンして半年程はプロデュース・ブッキング作業も思うようにはかどらず、苦難の日々が続いたが、まわりの「どうせ半年もつかどうか…」と思っていた人々の期待を裏切り、一年半目には年間250日、約300ステージ。現在では、おかげさまでフル稼動、約500ステージを皆様に提供できるにいたっている。

ホールの企画・プロデュースを受けもつ私は、運営におけるコンセプトを当初次のようなものにおいていた。

〈コンセプト〉――他との差別化と知名度の向上――

①大阪における文化の拠点の一つとして、新人アーチスト等の登龍門になる、ステイタスシンボルになるホールを創り上げること。

②アーチストの育成を目ざし、そのプロモーションとして、在阪の音楽プロモーターを

（前頁からのつづき） 都のライブスペース礫礫（たくたく）、拾得（じゅっとく）、バナナホールと続き、小劇場は都市の若者を中心としたアメニティースペースとして活況を呈するようになる。

自然発生的に生まれ、ウエストコーストブームに乗りながら若き小資本家のいきいきした商売によって急成長したアメリカ村。この街にも西友の無印良品の出店に象徴されるように大資本の進出が始まり、街の性格も少しずつ変わろうとしている。同じことが小劇場にも言え、今年秋の近鉄上六の小劇場オープンに代表されるように、都市の文化、若者文化は、大資本によって提供されるハード・システムと手をたずさえるかたちで進もうとしている。優秀なイベントプロデューサーはこの状況のなかで、ある意味では自立していた時のプロデュースより以上にしたたかな戦い方を進めなければならなくなっているのだ。それは、フリースペースとして街の点であった段階から、街づくりそのものも含めたかたちで小劇場は運営、企画されなければならなくなっているということだ。若者文化が独自に存在しえたとき点であったスペースが、若者文化が社会化への同化速度を強める今、点

中心としたコミュニケーションをはかり、ホールを利用してもらうこと。
③マスコミ（テレビ・ラジオ）のタイアップ企画をはかり、ホールで収録した番組を放送してもらうこと。
④パブリシティーにとり上げてもらうためにオリジナルな企画を考えること、etc。

大阪にいままでになかった空間といった狙いがあたり、マスコミやパブリシティーでうまく取り上げられて除々に名前が知られるようになり、レンタルの申し込みや、ホテルのディナーショーに行かなくても低料金でショウが見れる、飲食ができる、といった気軽さも、受けたもう一つの要因だと思う。

現在まで、バナナ・ホールは大阪における文化の拠点の一つとして、その機能を果たしてきたことを確信している。しかし、ハード面では、ホールの設計において、舞台空間の表現におけるあらゆる可能性を追求できるような工夫がじゅうぶんにはできていなかった。

表現者たちのアーティスティックな欲求は日進月歩し、あらゆる可能性を求めつつある現在、今やステイタスなイメージができ上がってしまったバナナホールでは新たな対応が難しくなってきている。次のステップをどうとるかが、今後のホール運営のキーであると言えよう。

すばらしい近鉄劇場・小劇場

そのような環境のなかで、私は一昨年夏、プロデューサーとしての立場からのプレゼンテーションが実り、今秋10月にオープンする上本町近鉄劇場・近鉄小劇場の建設における「プロジェクト・チーム」―『劇場建設準備委員会』のメンバーの一人として参画することができた。

特筆すべきことは「委員会」のリーダーシップにより、ハード優先の劇場建設ではなく、ソフト・サイドの意見・要望を忠実に反映した劇場建設が実現したということだ。その作業として、上本町におけるアイデンティティーをさぐるブレーン・ストーミングから始まり、

- 劇場で何をやるのかといった運営方針のプラン
- 劇場設計におけるスタッフサイド（音響・舞台・照明・美術etc）のプラン
- 見る側に立った新しい劇場機能の提案


バナナホール客席、ビール・ウィスキーを飲みながら、あるいは食事をしながら楽しんでいる。

- 演じる立場からの新しい表現空間のあり方
- 建築側からのソフトへの意見、要望
- 設備側からのソフトへの意見、要望

など数えきれないソフトやハードの言語をすばらしい設計者にとりまとめていただいた。ソフト側の意見・要望をハード言語におきかえ、ハード側へ図面で提示され、ハード側の意見・要望をソフト言語におきかえ、私たち「委員会」のメンバーに説明されるという膨大かつ繁雑な作業を一つひとつ劇場設計過程へ組みこまれ、かつ御自身の豊富で斬新なアイデアを生かして設計された斎藤　義氏という、非常に優れた劇場設計家がおられたからこそ実現に向かったといっても過言ではない。

- 使う側（スタッフ、プロデューサー、ディレクター etc）
- 演じる側（音楽家、俳優、その他表現者達）
- 見る側（観客）
- 建てる側（建築・設備etc）

これらのニーズを充分反映された「近鉄劇場」「近鉄小劇場」こそ「表現の可能性」を追求できうる空間であると確信している。このような素晴らしい「劇場づくり」に参加できたことのよろこびは、まさにプロデューサー冥利につきるとしか言いようがない。斎藤先生をはじめ、プロジェクト・チーム全員の努力、また、近畿日本鉄道、近鉄興業、大林組など関係各位の御理解があったからこそ、はじめて成立しえたものと思っている。

4月から新たな運営組織も発足し、音楽プロデュースを中心に担当する私にとっては、10月のオープン、それ以降の運営など、これからが真に正念場といったところで「表現における可能性の追求」をテーマに大阪における新たな文化の拠点となるよう、闘志をもって取り込んでゆきたい。

（よしかわ　ひろゆき／ワークショップ代表取締役）

が面に拡がるのにも必然性があるのではないだろうか。

いま、ひとりの男が帰ってきた。フリースペースをつくり、その風化のゆえに解体させ、アメリカに旅立った男、森喜久雄。久しぶりに会ったとき、「俺のアイデンティティー、文化基盤は日本や。そのことに気がついたから帰ってきた」と言っていた。彼がアメリカにいる間に表現スペースをとりまく環境も大きく変わってきた。そして、そのタイムラグの中から彼は何をやろうとするのか。これはぼく自身の興味だけに終わらず大阪にとっても注目されるべきことなのだ。それぐらいの人なのである。

今回スペースに関してそれぞれに原稿を書いてくださった人々も含めて、関西文化状況は、ことプロデュースに関しては、人材がそろってきたようだ。もとはといえば表現の才能には事欠かない関西の風土である。その才能を見いだし、守り、育てるプロデュース機能の充実から、今後小劇場スペースが何を産み出してゆくか、わくわくする思いでいるのはぼくばかりではないだろう。

（はやし　のぶお／21世紀ディレクターズユニオン代表）

酒蔵変じてライブハウス

いろんな楽しみが毎日生まれています

水島　博範

ライブハウス「磔磔（たくたく）」を四条河原町から歩いて５分の所に開店して、12年目に入りました。酒蔵を改造した、ちょっと変わった喫茶店としてのスタートだったのですが、けっこう広いこともあり、折からのブームとともに、ライブをやり始め、最初、週に１、２回だったのが、３年目になるとほぼ毎日のようになり、そのまま今まで続いています。たまに映画やら、芝居、舞踏等の公演もやってはいますが、ほとんどは、ロック、ジャズ、ブルース等の音楽。プロから学生まで、いろんなミュージシャンが、入れかわりたちかわり通過していきます。有名になった人もいます。やめた人もいます。マイペースでずっとやっている人もいます。いろんな人が、毎日、毎日やってきます。



磔磔の正面入口

ライブハウスの楽しみ方

「建築と社会」誌の読者の方々には「ライブハウス」と言っても馴染みのうすい人達がほとんどだと思いますので、簡単に説明しますと、いわゆる「ホール」とは違って、「飲み喰いしながら音楽をきく、バンドをみる」場です。と言っても、キャバレー（行ったことはないのですが）等とも違います。バンドは、自分のやりたい音楽を、本気でやるわけです。お客は、音楽がめあてでやってくるわけです。そして、各人それぞれ、自分なりの方法で楽しむわけです。そういう場なのですが、これはとっても良いことだと、ぼくは思うのです。

禁酒、禁煙、前方だけ向いた固定イスでは、本来の音楽の楽しみ方はできない。飲んだり、喰ったり、踊ったり、笑ったりしながら、めいめい勝手に楽しむのが、あるべきすがただと思うのです。もちろん最初から、確実にそう思っていたわけではなく、コンサートなんかに時々出かけたりしているうちにふと思ったりして（まあそのうち変わるかもしれないけど）、今はとにかくこういった気持ちで店をやっているわけです。

けど、こうは言っても、毎日のライブが、それ程質の高いものばかりではありません。ただ、毎日、毎日、密度の濃いものだったら、毎日がお祭りみたいなもので、こっちの体ももたないし、まあ、玉石混交で、ちょうどいいくらいのペースではないかと一人で合点しています。



演奏するミュージシャンたち

ライブハウスのこれから先は

ライブハウスといいましても、歴史は非常に短いわけで、「お手本」みたいなものは皆無。つまり新しい商売なわけで、この先どんな風に変わって行くかは、誰も知らない。またこういった店は全国に200軒程あるらしいのですが、一軒、一軒営業形態が違うわけで、大きいところになると、ブッキング、製作、ＰＡ、照明など完全に分業制で、もっとすごいところになると、そういった作業に別の会社が入っていたりするところもあるのですが、磔磔の場合は、全部店の者でやっています。それに、通常の喫茶、食事の仕事も加わるわけで、つまり、イベントの主催者であり、企画、制作者、かつ調理人でレジ係であるわけです。

べつに、「文化的なもの」をやっているという意識ではありません。文化という言葉には何の関心もありません。文化放送、文化住宅、更に文化的生活までくると、いったい何のことかと理解に苦しみます。便利だが、実体のない言葉だと思います。混乱をうむだけです。ただ、今思うのは、いま、確実に動いている、生きている――そのなかに、たとえ非力でも参加し続けることです。いまという場に、ついて行けなくなった時が、ライブハウスの終わりかもしれません。まあその時は、デッドハウスとでも名乗るかもしれませんが……。

（みずしま　ひろのり／磔磔経営・プロデューサー）

ホールをもつ商業ビル

Ｙビル計画——

吉田映治
加藤博司

建築の計画について

当計画の敷地は徳島駅前広場に通じる道路に面しており、周辺には一昨年に完成したそごうデパート、東急インをキーテナントとする駅前再開発ビル、とくしまＣＩＴＹ〈南海電鉄系〉などがあり商業地域の真只中にある。

計画に際してオーナーは商業コンサルタントに依頼し、当敷地、商環境条件の中でどのような業種が適切であるかという調査を行った。その結果10～40歳代の男性を対象とする専門店〈おもにスポーツ用品、電気製品他数種〉が適当であるという結論が出された。

調査にもとづいて敷地面積 715 ㎡の土地に地上６階、地下１階、延床面積 3,200 ㎡のテナントビルを計画した。

１階～６階に専門店が入居、残る地下１階に約 100 席収容のイベントホールを配置した。ホール前のロビーを含めると 130 席収容可能となり、ロビーは３階まで吹抜け上階の店舗部分と一体の空間で側面の進路とはガラススクリーンで区切られ、まぶしいくらい明るい吹抜となる予定である。

なぜイベントホールか

日本の地方都市の状況はどこも同じであろうが、徳島においてもホールといえば、県、市などの公立の大ホールがほとんどであり、小ホールは皆無である。

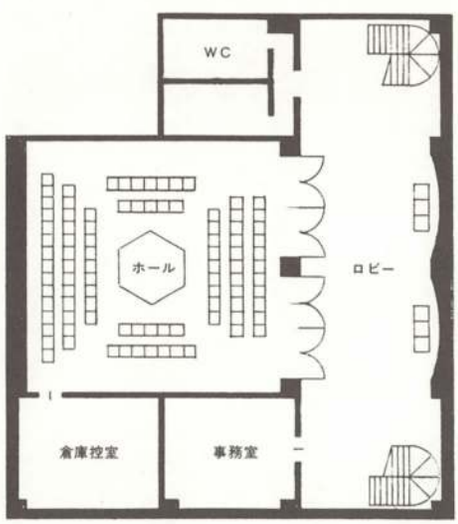
大ホールの使用のされかたは、テレビの公開番組録画であり、講演会であり、選挙の立合演説会などである。市民の演劇、音楽愛好家グループの使用は限られたものとなっている。収容人員数、使用時間等に問題があると思われる。

一方、当地のアマチュアの演劇、音楽などのグループは200以上もあり、発表、練習の場が著しく不足していることも調査の結果明らかとなった。小ホールもまた必要なのである。

このような現状が当ビルにホールを設けた理由である。また店舗部分と一体となって、ビル全体の利用者が増大することも期待している。ホールの運営については着工まで、まだ検討を必要とするが、高校、大学生の利用可能な低料金とし、使用規則等は定めるものの、利用する人々の自主運営にまかせる予定である。使用対象はいちおう演劇、音楽、展示などを想定しているが、完成後利用する人々の意見を聞きながら、状況にあわせて対応し、必要とされる場を提供することによって、当ビルの活性化と、若者文化の高揚にいくらかでも貢献したいということがイベントホールの目的である。

なお当計画は現在計画途中で61年なかば完成の予定である。

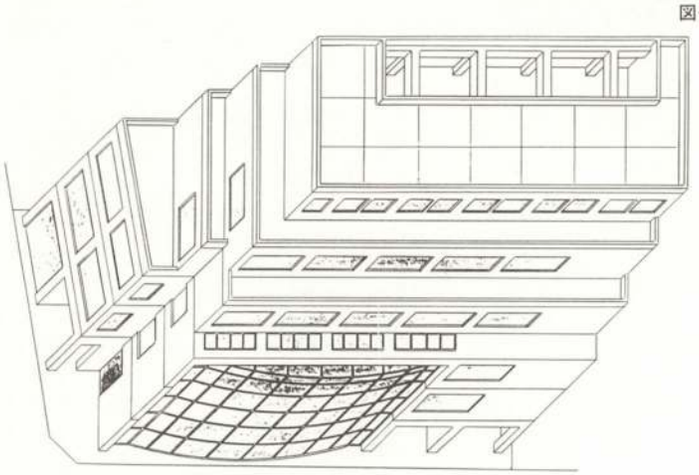
（文責　かとう　ひろし／柚建築設計事務所）



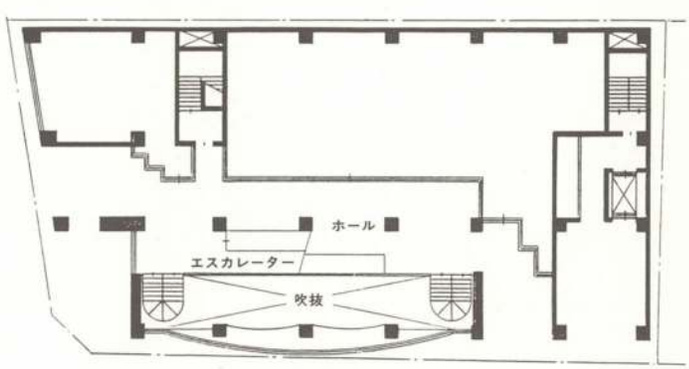
図－１　地下平面図



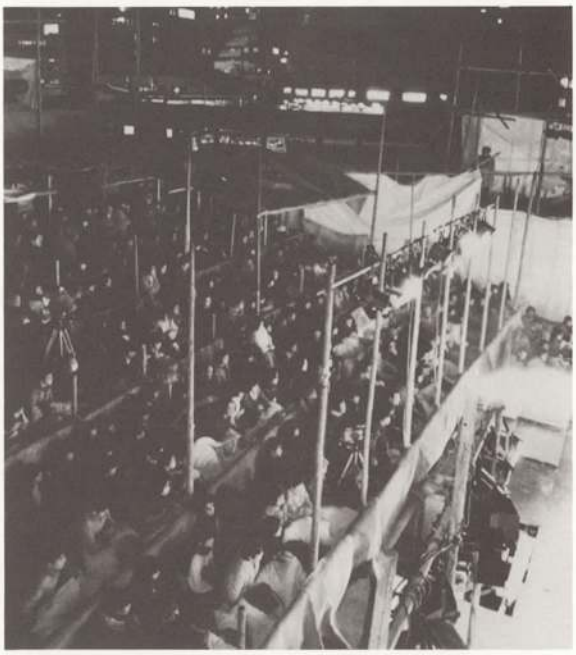
ホール可変スタイルの例　図－２



アイソメ



１階平面図



松本雄吉氏のプロフィール

まずなによりも根っからの役者であり、そして劇作者、演出家、プロデューサーであり劇団主宰者である。

今はなき天王寺野外音楽堂全体を劇場にしたてた壮大な劇的空間から、稽古場での極限公演や、山と海での参加者をまきこんだ行為の一連のシリーズ、そして大阪駅コンテナ基地跡や南港での大興行などまで、大阪に根をおろした精力的活動がもう15年をこえる。

屋外での観客席舞台を含めた大オープンセット劇場の思想と実践に、氏の面目躍如たるものがある。

いいたいことがようけあるよなふりしてるあほどもえ。
アフリカでは、くいたいもんくえんとようけひとしんどるちゅうのに、ひとにこさえてもろたいれもんにあぐらかいて、つごうわるなったら、じぶんのいれもんにとじこもる、ひょうげんひまんぶため、はしってものいえ！
たらいまわしされる劇場よ。ぐどんなそんざいよ。ぶたとばいしゅんふのゆちゃくよ。にっぽん、よっぽど、ひまやな。

それにしても劇場のなまえ、どないかならんのか。ゆうびんちょきん、こうせいねんきん、ていこくげきじょう、ぶどうかん、せいめいほおる、えて、なんとかならんのか。まあのバナナホールいうのはちょとましや、ひとかわむけとる。ほめたるで。

そやけど、にほんかわったな。
はしかけるこうじやていぼうつくるしごとならわかるけど、おまえらがこさえる、わけのわからん、ぶんかおばけのたてもののために、でかせぎではたらいてるおっさんら、どんなきもちで、はたらいとんねんやろな。ま、ぜにのことやから、あんまりえらそにようわんけど、げいじゅつに、ひゃくしょうまきこんだらあかんで。そのうち、こめ、くわしてもらえんようになる。

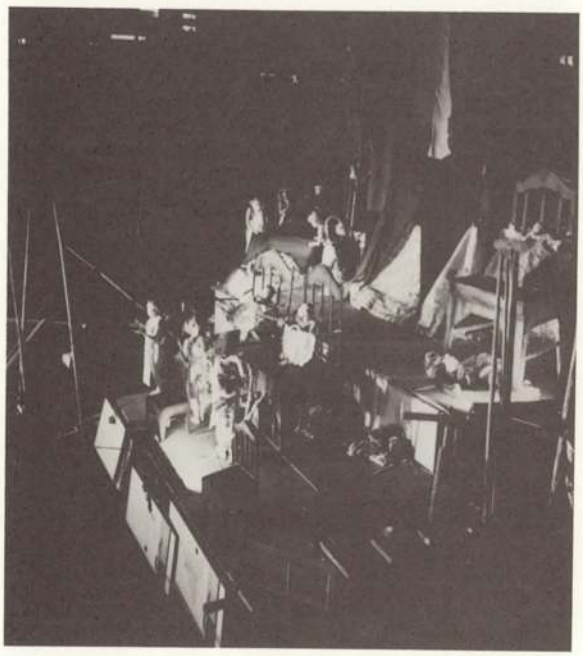
そやけど〝劇場〟かわったな。
おまえらが、なんぼないちえしぼって〝劇場〟こさえても、きゃくは、しらけてるで。なんぼでんきつこても、コンピュータいれても、がいこくまねしても、みなあたりまえやおもとる。ならくのしたはエレベータやもんな。じどうドアやもんな。がくやいうたかて、せんりニュータウンやもんな。でんきけしてくろうしてるけど、くらやみはないはな。まちにくらやみがないんや。そやから〝劇場〟にもあれへんのはあたりまえやで、まちのくらやみこわしてしもたん、いったいだれや。

そやけど、なんとかならんのか。
ニューヨークなんか、コンクリのたてもん、ぼろぼろになってはかばみたいやいうけど、そのうち、にほんもそないなんのとちゃうか。もう、つくらんでええんとちゃうか。

わしら、むかしのほうがよかったよにおもうけどな。どや？
さいごにええうたおせたる。
「かきよせて、むすべばしばのいおりなり、とくれば、もとののはらなりけり」

（まつもと　ゆうきち／日本維新派主宰）

脱ホールの論理



劇団日本維新派　冬興業
1984年12月
大阪駅前コンテナ基地跡
「月光のシャドウボール」

けんちくかのあほどもえ。

松本　雄吉

けんちくかのあほどもえ。
おまえら、ひとりやったら、なもようせんくせ、たけなかやらおおばやしやら、ばっくぎょうさんつけて、たいがい、いちびりしてくれてるやないか。

わしらがこどものころからすきやったまちを、ことわりもなしに、かってにつぶしくさって、おまけに、おばけみたいなたてもんばっかりこさえやがって、わしら、ほんまに、あたまにきとる。あんなもんばっかしこさえて、どこのだれがよろこんでのかしらんけど、わしらのまわりの、しょうじきにいきてるにんげんは、だれもよろこんでないで。かってなことされたら、かなんな。おまえら、だいくのとうりょうふぜいが、ながいあいだかけて、ゆきや、あめや、かぜのたすけかりて、できあがったもんを、ちょろちょろのちしきとエンピツなんぞで、つぶしてもろては、どもならん。おまえら、なんぞりっぱなもん、つくっとるおもとんのやろけど、そら、おもいあがりもええとこやで。そえもんを、こわしてるだけや。おまえらの、こさえるもん、ゆきや、あめや、かぜのたすけかりてもようならん。みすぼらしなっていくだけや。

けんちくかのあほどもえ。
おまえら、なんぼほどほんよんで、べんきょうしたかしらんけど、ちょと、したかぶりが、ひどすぎる。〝劇場〟て、どういうもんかわかっとんのか？〝劇場〟の劇は劇の劇やで劇薬の劇や。劇場の場はたまり場の場やで、ちみもうりょうあくにんぜんにんごっちゃになってるくらやみや。そないな、だいそれたえげつないもんを、おまえらみたいなちょろちょろが、せっけいでけるとおもとんのか。あまいな。もけいでがまんしとき。

いまのよのなか、こころのそこから、ほんまにいいたいことものないくせに、いいたいことようけあるよなふりしてるやつがおおすぎる。そんなやつのために、おまえらが、いれもんつくってやらんでもええ。だいたい、いれもん、おおすぎるで。パチンコやのかずとちょぼちょぼやないか。そなぎょうさん、やるやつおらんで。ふじんかいのぼんおどりかカラオケたいかいにつかうのがせきのやまやろ。

ホールの舞台機構・音響・照明

前田順一

今後ホールはどのように変わっていくのか、あるいはどうあるべきが本来の姿なのかを過去の問題点などを例に挙げ、また、それらに対してはどのように対処していかなければならないのかを、多目的ホールを主体として設備技術者と管理技術者の両方の観点から述べてみたいと思います。

舞台機構

まずホールの中枢ともいえる舞台機構ですが、これは音響や照明と違って日本でもかなり古くから演出上の補助手段として確立されていました。近年は新技術、新開発ともに飛躍的に発展し、各ホールでも目を見張るようなすばらしい機構を兼ね備えるようになりました。しかし使用頻度はどうでしょう。ホール自体の使用頻度も低いのに、まして回り舞台や迫り、オーケストラピット、スライディングステージとなると錆付いて動かないのではと心配にさえなってきます。ステージの迫りなども、もっぱら倉庫がわりの奈落に収納されている道具の出し入れにエレベーターとして使っている程度でしょう。使用頻度の低いものに見栄のみ先行して巨額の費用を注ぎ込むのであれば、催し物の度に使用する客席の椅子や楽屋、手洗いなどにそれを廻した方が遙かに賢明ではなかろうかと思います。この辺は設計者あるいは設備技術者などが、企画の段階で施主側との意志の疎通を計ることが先決ではないでしょうか。

音響反射板

音響反射板について触れますと、これは音楽的催し物には必要不可欠なものなのですがこれほど、厄介な吊物はありません。迫りやスライディングステージのような舞台床回転、昇降、移動機構に比べると使用頻度は高くなるでしょうが、音響反射板は反射音の拡散性を充分得るために形状は起伏をなし、厚み、重量ともそうとうなものになっています。吊位置的にも全体の中で最良のポジションを独占しているのが実状です。天井反射板１枚でサスペンションバトンであれば１本、美術バトンであれば２、３本は設置できるスペースを占めています。他の吊物機構や照明を犠牲にしてまで音響反射板を設置するメリットがあるかかどうか少し考えさせられます。

近年、オープンしたホールの大半は立派な反響板を備えています。これは企画設計段階より携わった学識経験者の方々の意見尊重の現れでしょうか、それとも建築家にはクラシック音楽好きな方が多いのでしょうか。ともあれ利用回数こそ多くても利用効果や他への影響を考えると、ある程度の反響板でよいところを高望みし過ぎているのではないかと思う程です。結局ほとんどのホールの場合、学識経験者のエゴイズムと化しているような気がしてなりません。

舞台機構の駆動方式も、ひと昔もふた昔も前のような手動方式のものは最近見られなくなりほとんどが電動式になっています。また操作盤を離れて直接自分の目で確認しながら操作できるようなワイヤレスの操作盤も設置できるようになりました。しかし、この分野は最も危険を伴うところです。ひとつ間違えば人命にも、つながりかねませんから、優秀な技術者の育成はもちろんのこと、舞台機構の一部となっている部分などもかなり、精度が高くかつ強靱でなければならないのはいうまでもありません。

音響設備

つぎに音響についてですが、これは電気音響設備といった方がよいかも知れません。設計にあたってはホールの音響担当技術者と充分意見を調整する必要があります。なぜなら設備機器については担当者の好みがはげしく、どのメーカーのどの機器がよいかということもすべて担当技術者の手腕と他の附属機器それにホールの建築構造上の条件により変わってくるので一概に判断できないからです。また、建築音響を考えの中に入れることも重要なことです。これはのちほど触れる残響問題にも関連しますし、音響機器の設置場所に関しても大いに影響してきます。したがって設計に入る前の段階で建築設計者がホールの音響担当技術者なり音響設計者と緻密な打合せのもとに設計を進めていかなければなりません。

音というのは目に見えないものだけに図面上での話しだけになってしまいがちですが、三点吊マイク、エレベーターマイク、プロセニアムスピーカー、マイクコンセント等々、舞台機構や照明関係にも影響を及ぼす設備が、沢山ありますから、そちらとの共同の設計作業を要します。おそらくほとんどのホールに備えられているワイヤレスマイクに関してですが、ホール付近の電波運用事情をよく考慮に入れてつねに安定した受信状態が保てるよう心掛けなければなりません。講演中などにホール前の道路を走る自動車の無線などが、ピーピーガーガー入ってくると興ざめてしまいます。

音響機器もひと昔前に比べると目まぐるしく進歩し、エレクトロニクスを駆使した新製品が日毎、市場へ出回っています。

ホールに限ったわけでもないが、とりわけデジタル録音方式の採用により、従来のレコードより大幅に小型化され且つ数倍の長時間録音が可能になって寿命、歪みノイズの点でもかなり改良されたレコードがでています。

チューナーにしても水晶発振器を利用したデジタル、シンセサイザー、チューナーなども製品化され今、音響業界はアナログからデジタルへと変わりつつある。したがって4、5年前に購入した備品が現在では完全に遅れてしまった製品になっているというのが音響機器の一番痛いところであろうと思います。

舞台照明設備

総じて舞台照明設備に関してですが、これも舞台機構、音響設備と同様目まぐるしい変遷を遂げています。

昔の調光装置も水抵抗器からオートトランス方式に、ＳＣＲ方式にと大変革を経て今や記憶調光装置も当然のものといった感があり、マイクロコンピューターの採用で、デジタル化されさらに小型化されたものが誕生しました。器具に関しても同様で、現場の声を生かした改良が加えられよりよい舞台照明器具がいくつも誕生しています。例えば、今までの平凸レンズスポットライトでいうと過去の概念を打ち破り中抜けがなく（照射面は均一照度）且つ輪郭に色収差ムラの生じない画期的な製品も出されています。デジタル化の中で調光装置に関しては機能の多いのは結構であるが、あまり操作が複雑であると外部からきたオペレーターが使いこなすことが困難な場合もでてくる。よってシンプルな中にも多機能な面を備えているものが要求されるわけです。

照明設備も、フロントサイドスポットやシーリングスポットそれにセンターピンスポットなどの関係上、舞台機構技術者や設計者と協議した上で設計するようにしたいものです。そのそれぞれは通常の立端で舞台全面（舞台奥まで）が照らなければ意味がありません。

照明に関しては、音響と同様、芝居にしてもコンサートにしてもプランとオペレーターをももち込むというのが多くなってきているのが現状です。中には調光操作卓まで持ち込んできて、ホールの備品は一切使用しませんが、電源だけ分けて下さいなどと調子のいいことを口にする照明さんがいる。すべて持ち込むのなら電源車でも連れてこいといいたくなるのですが、そうでもいっておられないので、電源を供給しているのが現状です。現在ほど、照明器具が目まぐるしく進歩すれば当然各ホールに備え付けの備品は取り残されてしまい、ますます持ち込み操作が、増えるのではなかろうかと思われます。ゆえに今後建設されるホールにはかなりの容量の仮設電源が必要になってくるでしょう。また美術バトンなどのアース処理も必要な問題であると思います。

残響時間

最後にもう一つ重要な残響について触れてみましょう。ここのホールの残響はどれくらいですかという質問はよくあると思います。「1.5秒です」とか「2.0秒です」とかいうふうに答えますが、この1.5とか2.0とかいう数字はそうたやすく出てくる数字ではありません。また満席や空席の状態によってもかなり違います。ホールを建設するというと、いかにも残響研究が主体かのように先走ってしまい、観客は残響研究に付き合わされているのが実態だと思います。これとても冒頭に述べましたように、そのホールで主に演じられる演目に合ったように企画設計されることです。最近は客席の天井反射板まで可動型になって残響時間を任意に変えられるようにしているところもあります。残響時間は長ければ長いほどいいというものではなく、あまり長過ぎると音響担当者が録音する際に非常に支障をきたすことも多々あるということも、よく認識されなければならないと思います。

ホール設計にのぞむ

全体を通じていえることは、やはり建築構造上、かなり高い理想を追い過ぎている場合が多いのではないでしょうか。また音響、照明ともにアナログからデジタル化されてきている点からも今、舞台担当技術者はソフトもハードも両面ともにマスターしなければならない状況になっています。より一層ハードを理解する知識を身につけ自ら進んで実践し、実績を積むようにしなければならないことはいうまでもありません。

一方観客は不特定多数（多くの場合）の市民であるといいうことを再認識した上で、ソフトとハードの調和をうまく造り出すように考えなければならないということです。この調和が今後のホールの運用を決定づけるこいっても過言ではないであろうと思います。

われわれが一つの作品の明りや音響効果、また、舞台セットを造るとき、その作品の中に出てくるいろんなことに関心を持ちながらその事柄を研究します。同じようにホールの設計者は、ホールで演じられる能や歌舞伎、日本舞踊、バレエ、オペラ、新劇等すべての舞台芸術を一通り見てもらい関心を持たれてから、設計に携わられることが、重要ではなかろうかと思います。

舞台、照明、音響の担当技術者が、改築の場合は別として、新築されるホールの場合、設計の段階で決まっているのいうのは、ごくまれなことです。

しかしできることなら、企画、設計のうちから話し合いに参加させ彼らの使い易いような設備にするのも一つの方法です。そしてやがて会館ができ上がり、舞台機構、音響、照明も整って、いざ運用開始となるわけですが、ここで設備技術者、設計者、建設会社も施主もホールは、これで完璧でないことをよく認識してもらわなければなりません。というのは設備については、年々補充、改修をしていかない限り、建物は残っているが、設備（舞台機構、音響、照明）は、その日から後退していくという事実を理解せねばならないと思います。つねに活性化した舞台を終えるため、また常に新しいシステムを取り入れて最高の状態で運用できるようにしたいものです。

最近のホールは、ビルディングの中に入ってしまったり、また、外観のモダンなすばらしいつくりの建物ばかりです。しかしわれわれはどんなすばらしいホールでも、劇場のことを「小屋（コヤ）」と呼んでいます。近い将来、道具さんが、なぐり（とんかち）や草履を身につけなくなる日がくるかも知れません。たとえそうなっても「小屋」という言葉と「寸・尺・間」がいつまでも健在でありますように、ホール設計に当ってはどこか片隅にでも「小屋」という言葉のかくれる場所を作っておいて欲しいという気持ちでいっぱいです。

（まえだ　じゅんいち　関東電機常務取締役）

構造の頁

129

OBPツイン21の構造設計(その1)

棚橋秀光／西田　理



大阪の21世紀を担う新しいビジネスの中心地になろうとしている大阪ビジネスパーク(OBP)に、この建物は位置している。全く同じ形の2棟のタワーを中心に、その間を埋めるギャラリー棟、プラザ下駐車場、および自走式の駐車場棟が現在建設中である。タワーは、鉄骨建方、外壁のプレコン取り付けが終わり、内装工事に移っている。

1．構造概要

この建物の最大の特徴はツインタワーであることにあるが、2つのタワーは地下1階から地上4階までの低層部の用途が若干違うだけで、構造的には全く同じ形態となっている。各建家は、地下も含めてエキスパンションジョイントによって構造的に切られている。

以下、タワーの構造概要について記す。

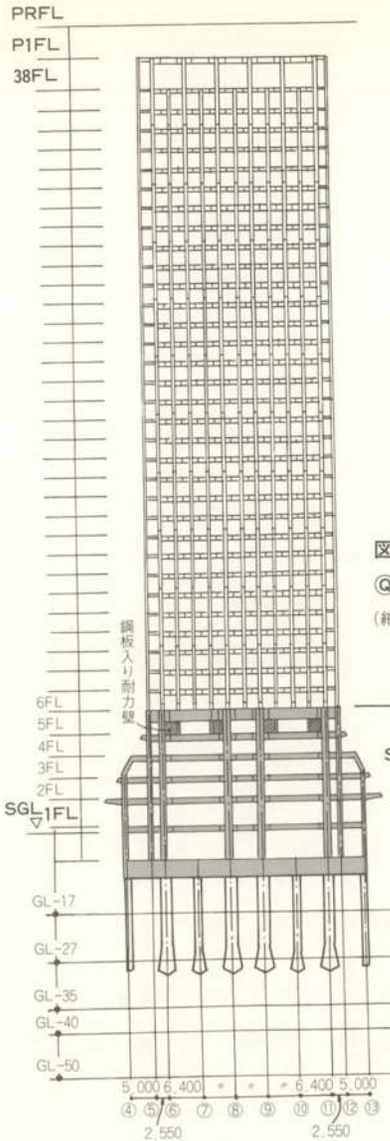
地業　場所打コンクリート杭(拡底杭・直杭)
基礎　鉄筋コンクリート造ベタ基礎
(基礎底レベル　GL−9.83m)
GL＝OP＋5.0m
架構　B1階〜5階　鉄骨鉄筋コンクリート造
6階〜P1階　鉄骨造
床板　デッキプレートを捨型枠とするコンクリート床板(高層部は1種軽量コンクリート)

2．地盤および建物支持条件

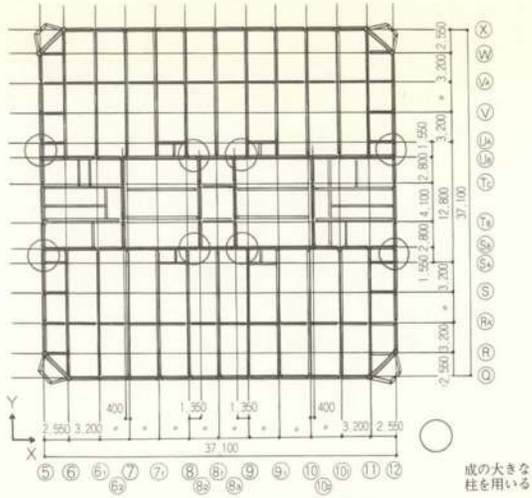
当敷地は、大阪城公園の北東に隣接し、旧大和川の流域に位置する。

その地盤は**図−1**に示すように、GL−10〜17m付近までは沖積層となっているが、それ以深は$N \geqq 60$の砂礫層と$N \geqq 15$の粘土層が交互に続いている。とくにGL−35〜40mの粘土層は大阪層群上部に属する海成粘土Ma3とされており、GL−30m付近の砂礫層は、超高層建物の支持層として十分であると考えた。

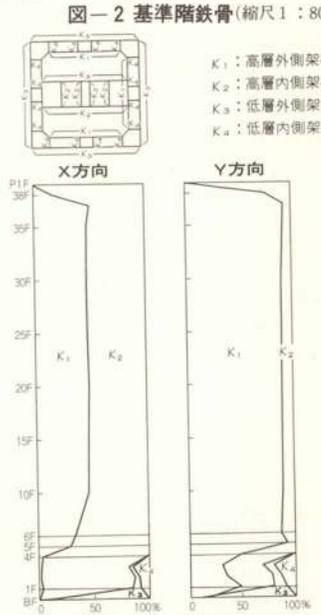
直圧力の大きい部分には拡底杭を用いたが、長期杭耐力は200t/㎡に押さえた。最大径は、軸部2000φ、拡底部3,500φ、長期支持力1800t/本で設計している。施工は軸部アースドリル、拡底部リバース工法とし、直杭はすべてベノト工法とした。



図−1
Ⓠ,Ⓡ通軸組図
(縮尺1：1500)



図−2 基準階鉄骨(縮尺1：800)



図−3　水平力分担率

建物概要

所在地　大阪市東区城見2丁目1
用途　事務所、ショウルーム
建築主　松下興産株式会社
設計監理　株式会社日建設計
施工　●A工区(ナショナルタワー・ギャラリー)
鹿島建設株式会社、株式会社竹中工務店
株式会社熊谷組
●B工区(MIDタワー・プラザ下駐車場)
大成建設株式会社、株式会社奥村組
株式会社鴻池組、清水建設株式会社
●C工区(駐車場棟)
西松建設株式会社
●D工区(MIDシアター)
株式会社大林組
工期　昭和58年9月〜61年3月(30ヵ月)
敷地面積　31,861.6㎡
建築面積　12,582.9㎡
延床面積　155,350.1㎡
階数　地下1階　地上38階　塔屋1階
高さ　軒高　150.0m
基準階高　3.75m(天井高2.6m)

3．主体構造

6階以上の純鉄骨造部分は、ねじれおよび全体の曲げ変形に有利な外周ラーメンを主架構とするチューブ構造としているが、低層部の柱スパンをとばすため、図−1の軸組図に示すように6階床梁を剛強にし、かつ5階で鋼板入り耐力壁を設けて3.2mスパンを12.8mスパンに拡げている。

図−2の伏図に示すように、本建家はX、Y両方向とも全く対称であり、鉄骨部分の主架構はX方向4架構(Ⓠ、Ⓢ₈、⑱、Ⓧ通)、Y方向6架構(⑤、⑫、⑥₂、⑧₂、⑧₃、⑩₂通)からなっており、その間を小梁でつなぐ形となっている。各方向ともスレンダーな連層鋼板耐震壁を4ヵ所ずつ配置し(図中○印)、塑性に入った場合に特定の階のみに変形が集中することを防いでいる。

各架構の水平力の分担率を**図−3**に示した。X方向の6階以上の鉄骨部分は、ベアリングウォールの外周架構と、鋼板耐震壁を有する内側架構がほぼ半分ずつを負担しているが、5階以下では外側架構の柱が少なくなることもあって、耐震壁を有する内側架構が大部分の水平力を負担している。また地下では、地下外壁に大部分の水平力が流れることになる。したがって、大きな水平力の移動を生じる5階および1階の床スラブは、それぞれ175mm、250mmとしている。

Y方向架構は、図−3に示すように6架構のうち外側2架構が水平力の9割を負担している。5階以下のSRC部分では、6架構すべてに耐震壁を有しており、分担はほぼ均等であり、地下では大部分の水平力が地下外壁に流れることになる。

(たなはし　ひであき　日建設計大阪本社構造部設計主管
にしだ　おさむ　同　構造部)

超高層ビルのプランと骨組みに新しいフィールドをひらきます。



無限の可能性を秘めた、円形閉鎖断面

遠心力鋳造による高張力鋼管柱・クボタGコラムは、グランドレベルから柱頭にいたるまで、同一径で肉厚の変化を自由につけうる柱です。円形閉鎖断面という優れた力学的形態により、小さな柱断面で大荷重を集中的に処理できるうえ、はりの取付角度が自由で、柱の断面性能に方向性をもたないため、より自由で合理的な構造設計を可能にしました。

Gコラム構造の応用範囲

1. 骨組以外に有効な耐震要素がとれない場合。
2. 柱数を減らして大スパンが要求される場合。
3. 床面の有効利用や見通し・動線計画のために細い柱が要求される場合。
4. 交通施設など、荷重が大きい場合。
5. 不整形な平面形の場合。
6. ショッピングセンターなど、いくつかの異った機能が複合する建物の場合。
7. 逆打ち工法が要求される場合。
8. 短かい工期で完成せねばならない場合。

遠心力鋳造による構造用鋼管柱

クボタGコラム®

技術で応えるたしかな未来 久保田鉄工株式会社〈建設関連営業部〉

本　社　〒556 大阪市浪速区敷津東一丁目２番47号　☎06(648)2291　東京本社　〒103 東京都中央区日本橋室町三丁目３番２号　☎03(245)3551

設備の頁

128

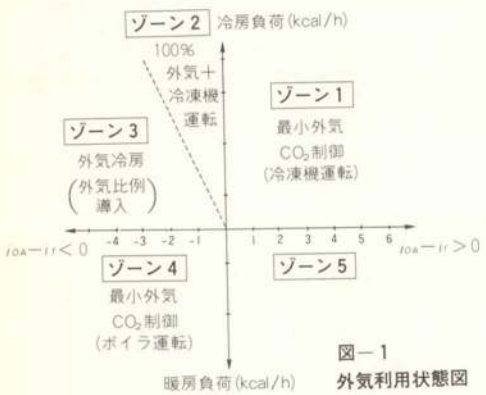
炭酸ガス濃度による外気導入

今井一郎 / 長尾保夫

大気は窒素78%、酸素21%、水蒸気0.5%、炭酸ガス0.03%と、そのほかの成分よりなっている。ビルの事務所内では、外気から入って来るこれらの成分と、在室者の呼気から排出される水蒸気、炭酸ガスと、衣服などから放出される塵埃と臭気などで、室内環境が悪化しないように換気が行われている。その換気の良否を判断するには室内の炭酸ガス濃度によって判断する。

この観点から建築基準法やビル管理法では、室内の炭酸ガス濃度の上限値を1000ppm以下にするよう指導している。炭酸ガス濃度による制御をしてない通常のビルでは550—750ppmであるが、空調が停止した後や、会議室などでは1000ppmを越える場合がある。炭酸ガス濃度がこの基準より低い所では外気の導入を少なくすることにより、冷暖房時の外気負荷を低減でき、エネルギーの節約ができる。

このように室内の環境を著しく悪化させない範囲で省エネルギー運転を行う手法が、炭酸ガス濃度による外気導入である。



図—1
外気利用状態図

制御の方法

外気の導入は、室内のエンタルピと外気のエンタルピとの差、および負荷状態により、図—1のように考えることができる。図の中で、ゾーン1と4では、炭酸ガス濃度による外気導入のエネルギー節減効果がある。ゾーン2と3においては、外気冷房時期であり、炭酸ガス濃度による外気導入は逆効果となる。

ゾーン1：この領域は、室内が冷房負荷で、かつ室内のエンタルピより外気のエンタルピのほうが高い場合で、冷房の最盛期である。この状態の外気を過大に導入すると室内のエンタルピまで冷却、除湿しなければならないため、冷却コイルの負荷が大きくなる。この領域の冷房運転では、室内の環境を損なわない範囲で、外気の導入を少なくすることがエネルギーの節減に連なる。

ゾーン2：この領域は、室内の冷房負荷に対して、冷凍機の運転と外気冷房（100%外気）を同時に行う併用時期である。室内のエンタルピより外気のエンタルピのほうが低いため、室内の冷房に利用できるが、外気の湿度が高くなるにつれ室内湿度も高くなるので、室内の許容上限湿度により外気の導入を減らすことを加味する必要がある。

ゾーン3：この領域は、冷凍機を運転せずに、外気が持っている冷却効果で、室内の冷房を行う時期である。冷房負荷の変動に対して外気と還気の混合比をモータダンパで制御し、送風温度を冷房負荷に追従させることができる。

ゾーン4：この領域は、室内が暖房負荷の場合である。この状態で外気を導入することは、加湿量の増大だけでなく、加湿負荷の増大も招く。このため室内環境を損なわない範囲で極力外気の導入を少なくすることがエネルギーの節減に連なる。

炭酸ガス濃度によるエネルギー節減効果

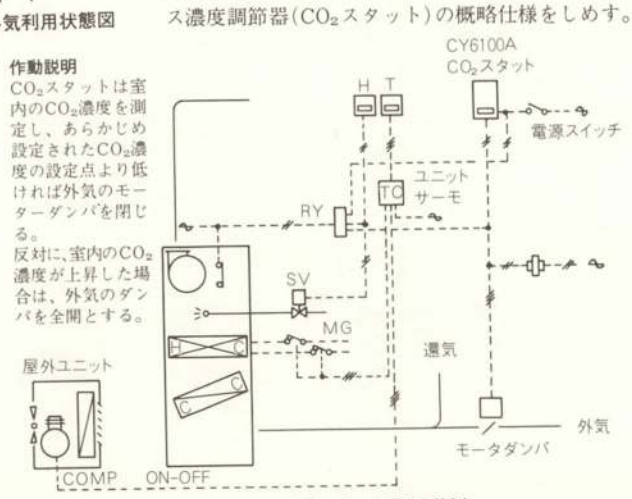
事務作業の場合、人間の呼気から排出される成分は窒素79%、酸素15.4%、炭酸ガス4.4%、残りが水蒸気といわれている。そしてそこから排出される炭酸ガスの量は0.0022㎥/hほどである。(ちなみに、喫煙1本当たりの炭酸ガス発生量は0.0002㎥/h)

いま作業空間の炭酸ガス濃度の上限を1000ppmとした場合、在室者1人当たりの必要外気量は約31㎥/hとなる。したがって、会議室、デパート、ホール、美術館など在室人員の変動が激しい建物ほど、外気の導入量を適切に制御する必要があり、そこからエネルギーの節減が期待できる。

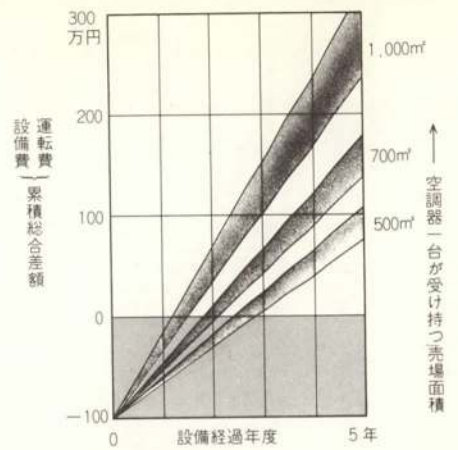
図—2は炭酸ガス濃度調節器(CO_2スタット)により、外気をオン、オフ制御する簡易形の例である。このほかに、炭酸ガス濃度の指示と計測ができる高精度のものも日常多く使用されている。

図—3は外気を比例導入した場合の投資効果の試算である。以下に炭酸ガス濃度発信器、炭酸ガス濃度調節器(CO_2スタット)の概略仕様をしめす。

作動説明
CO_2スタットは室内のCO_2濃度を測定し、あらかじめ設定されたCO_2濃度の設定点より低ければ外気のモーターダンパを閉じる。
反対に、室内のCO_2濃度が上昇した場合は、外気のダンパを全開とする。



図—2 簡易計装例



〈条件〉 設計最大人員密度 22人/100㎡
(取入外気量 10㎥/H·㎡)

	夏	冬
設計外気温、湿度	33℃、70%	3℃、40%
設計室内温、湿度	27℃、65%	21℃、45%

空調器の運転時間帯 9時〜19時
空調用熱源装置 冷房用/ターボ冷凍機
暖房用/灯油焚き温水ボイラ

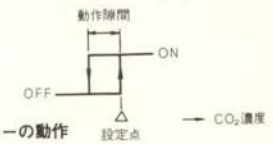
図—3 外気の比例導入による投資効果

炭酸ガス濃度発信器仕様

- 形番：APBA-200Y
- 測定原理：非分散形赤外線分析法(連続測定形)
- 測定対象：大気中の二酸化炭素濃度(CO_2ガス濃度)
- 測定範囲：0〜2000ppm
- 計測出力信号：DC4〜20mA/0〜2000ppm
- 上限警報出力：SPST接点、AC200V−2A 設定範囲/0〜2000ppm
- 応答速度：10秒以内(計器の採取配管接続口における濃度変化に対する90%応答時間)
- 採取空気の許容温度：5〜40℃
- 周囲温湿度：5〜40℃、90%RH以下(作動条件) −20〜50℃、90%RH以下(保管条件)
- 電源：AC100/200V±10%、50—60Hz
- 消費電力：15VA(連続運転中)

炭酸ガス調節器仕様

- 形番：CY6100A
- 測定対象：空気中の炭酸ガス(CO_2)
- 測定原理：赤外発光法(連続測定形)
- 調節動作：二位置
- 設定点：800、1000 ppmの標準ガスコンテナを使用して校正することにより、設定。
- 出力：SPDT接点 接点容量/2A(AC100V) 接点容量/0.5A(AC200V)
- 動作隙間：1000ppm設定の場合約80ppm固定(電源50Hz) 1000ppm設定の場合約96ppm固定(電源60Hz)



出力リレーの動作

- 応答速度：約5分(ステップ変化に対する90%応答時間)
- 消費電力、電流：13VA、ただし電源投入時は一時的(10秒以内)に1.0A(AC100V)、2.0A(AC200V)の過電流が流れる。
- 標準校正時期：冷房または暖房シーズンに入る前に各1回、上記時期以後は3ヵ月周期で実施。
- 取付場所：室内
- 作動周囲温度：10〜35℃
- 通電時許容周囲温湿度：5〜40℃、90%RH以下

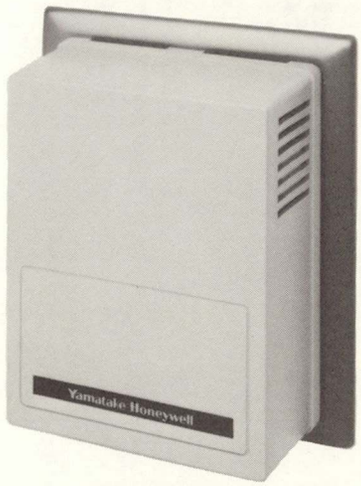
(いまい いちろう
山武ハネウエル株式会社空調制御事業部営業開発部長
ながお やすお 同上 係長)

室内設置形炭酸ガス濃度調節器
CO_2スタット

CO_2スタットは室内取付形・二位置式の炭酸ガス濃度調節器です。雰囲気のCO_2濃度の変化に応じて，内蔵の出力リレーがオンオフします。居室空間用冷・暖房システムにおいて，外気ダンパの開閉や換気扇の運転・停止等に応用することにより，取入外気量の必要最少限化を図り，冷・暖房負荷の低減，装置運転費の節減ができます。

特 長

1. 室内用で従来製品に比較して小形，軽量です。
2. 赤外発光法を利用。部品点数が少なく信頼性が高い。
3. 校正用ガスの濃度を変えることにより800～1000ppmまで設定できます。
4. わずかな投資で大きな省エネルギーが期待できます。



取付形式　壁面露出取付
外形寸法　172×134×80mm

Savemation——Saving by Automation
山武ハネウエル
空調制御事業部　150 東京都渋谷区渋谷2-12-19 ☎(03)486-2321, 2344

北海道☎(011)231-5374	横　浜☎(045)312-6011	高　松☎(0878)51-6600
東　北☎(0222)64-1331	静　岡☎(0542)54-0191	広　島☎(082)248-1291
新　潟☎(0252)25-2115	名古屋☎(052)582-1253	福　岡☎(092)771-8231
茨　城☎(0292)25-3911	金　沢☎(0762)63-8167	
高　崎☎(0273)63-3911	大　阪☎(06) 376-0355	

●詳しくは，カタログをご請求ください。

建築技術選書 23　企画：日本建築協会

設備技術者のための建築再入門

光安義光著　現代建築では，設備の比率が建築をうわまわることすらある．そんな状態ほど建築環境は良好で，最も現代人の要求や好みにフィットしていると考えられる．設備に関わらず，すべての技術の程度は日ごとに高度になり，各職種間の連絡や調整を密に行わなければならない．本書では，一流の設計家が豊富な経験と示唆に富む失敗例を交えて，その取合いの諸問題を具体的に語る．楽しく読みながら詳しく建築を見直せるユニークな書．　A5判・144頁・定価1200円

主要目次

構造とは何だろう(構造再入門)
意匠心の理解(建築工事再入門)
小　房
落穂拾い
建築法規に記載された関連事項

建築技術選書 11

建築と設備の接点1

盲点と解決法 ——— 日建設計監理部「接点」研究会著
建築技術の多種多様化と専門分化にともない，それぞれの専門家間に生じる接点領域について，建築と設備の一流の技術陣が，豊富な経験をもとに共同執筆した．　A5判・160頁・定価1000円

建築技術選書 22

建築と設備の接点2

チェックポイントと要点の解説 ——— 宮脇　毅・久保冨士治著
施工段階や竣工後に直面する諸問題を工程順に各部位ごとに取りあげ，図解を主としてその留意点をあげ，視覚に訴えたチェックポイント集である．　A5判・160頁・定価1200円

600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入　学芸出版社　TEL075—343—0811　振替京都26789

施工材料の頁

127
耐候性MMA系フィルム

天野　博俊

MMA樹脂(ポリメチルメタアクリレート)は、古くから有機ガラス、風防ガラスとよばれている透明性、耐候性に優れたプラスチックスである。しかし、脆い樹脂であるため、1㎜以下の厚みの板を生産することは難しく、実用的なフィルムにすることは、不可能であった。よってMMA樹脂を軟質化し、フィルム化したものが、耐候性MMA系フィルムである。

MMA系フィルムは耐候性、透明性に非常に優れたフィルムであり、外装建材用途を中心にして、広く使用されつつある。フィルムには、透明フィルムおよび着色フィルムの2種がある。耐候性は、プラスチックス系フィルムの中でも最高水準であり、米国アリゾナ州の屋外促進暴露テスト(DSET社のEMMAQUA法)において、200万ラングレイの照射後ほとんど変化しないという結果が得られた。(鐘淵化学工業の耐候性MMA系フィルム"サンデュレン"のデータ。200万ラングレイは、日本国内平均で20年に相当すると推定される)

MMA系フィルムの特長は、つぎのごとくである。

㈠フィルム自身が耐候性に優れている。とくに着色フィルムは、20年間の屋外使用でも、ほとんど変色しない耐候性を有している。(当社"サンデュレン"のデータ。MMA系の着色フィルムは、日本では当社のみが生産、販売している)

㈡透明フィルムが紫外線遮蔽性能を有しており、基材にラミネートすると、基材を紫外線から保護する。(図1参照)

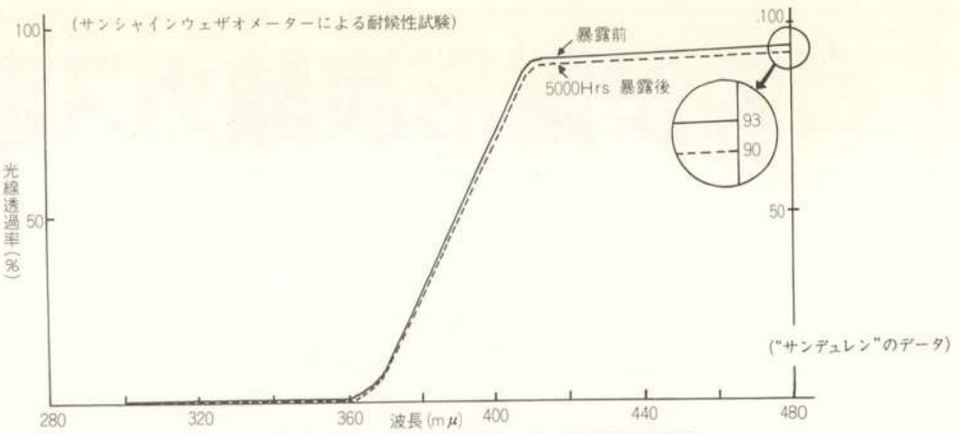


図1　透明フィルム(SD002Aグレード・厚さ75μ)の紫外線遮蔽性能

㈢可塑剤をあまり透過させないので、軟質塩化ビニルとの組み合わせにおいて、可塑剤の表面ブリードを抑制できる。

㈣印刷適性に優れており、意匠性に富んだ素材を得ることができる。

以上の特長を生かして、外装建材を主として種々の用途に使用されているが、代表的な用途例を以下に述べる。

超耐久性鋼板

金属屋根材として、着色亜鉛鉄板、塩ビ鋼板が広く用いられているが、着色亜鉛鉄板においては、3～4年ごとの再塗装が必要であり、塩ビ鋼板においても、約10年の耐久性と言われている。

耐候性MMA系フィルムを用いた超耐久性鋼板は、すでに数社の鋼板メーカーから上市されており、それらの鋼板は20年の耐久性を有している。超耐久性鋼板に用いられるMMA系フィルムの90%以上は着色フィルムであり、着色フィルムは当社のみが生産・販売している。20年間メインテナンスが不要であるため、超耐久性鋼板は、長期的に見ると、非常に経済性に優れた鋼板であると言える。(図2参照)

MMA系フィルムの優れた耐候性により、超耐久性鋼板は太陽光線による変色も非常に小さいため、美観を永く保つことが可能であり、航空機の格納庫、大型流通倉庫等の大型建築物に広く利用されている。日本国内では、すでに10年経過した施工実績があり、ほとんど変色もなく美しさを保っている。

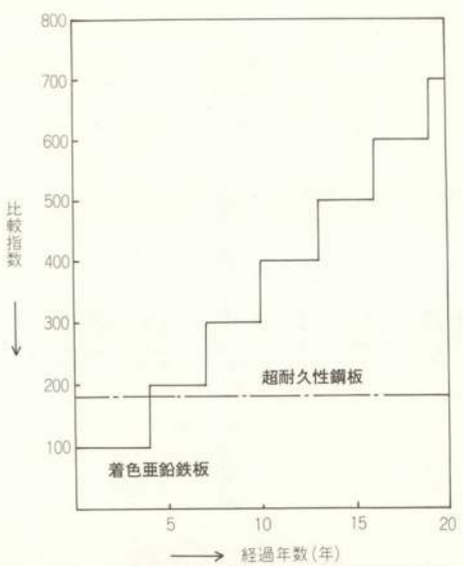


図2　着色亜鉛鉄板と超耐久性鋼板の経済性比較

現在、上市されている超耐久性鋼板を大別すると、MMA系フィルムを使用した鋼板(アクリルラミネート鋼板)とフッ素塗装鋼板の2種である。フッ素塗装鋼板は、フッ素系塗料を25μ塗装した製品であり、塗膜厚の薄さから折り曲げ加工部の耐食性が不安視されている。

耐候性樹脂板

古くから広く外装建材に用いられている樹脂板としては、塩ビ波板がある。しかし、塩ビ波板は3年程度の屋外使用で、黄変しかつ強度の低下を示す。

すでに述べたごとく、MMA系フィルムは、フィルム自身が耐候性に優れているのみならず、卓越した紫外線遮蔽性能を有しており、基材にラミネートすると基材を紫外線から保護し変色、物性低下を抑制できる。そこで、近年になって、塩ビ波板・平板やポリカーボネート波板・平板にMMA系フィルムをラミネートした耐候性に優れた樹脂板が登場し、普及しつつある。初期の美観を長年保持する樹脂板は、外装建材として今後ますます注目を浴びるものと思われる。

軟質塩ビ系素材

軟質塩ビ系素材が軒先テント、アーケード等に使用されているが、軟質塩ビ中に含まれる可塑剤の表面ブリードによるゴミ、ほこりの付きやすさおよび変色のしやすさが問題であった。これも、MMA系フィルムをラミネートすることにより解決される。また内装壁材である塩ビ壁紙も、MMA系フィルムをラミネートすることにより、汚れ防止効果のある壁紙となる。

おわりに

フッ素系フィルムと並び耐候性にすぐれたMMA系フィルムは、コスト面、接着の容易性でフッ素系フィルムに対して優位であり、本格的に市場に現れてからまだ数年であるが、順調な伸びを示しており、今後さらに外装建材を中心とする数多くの用途開発が期待される。

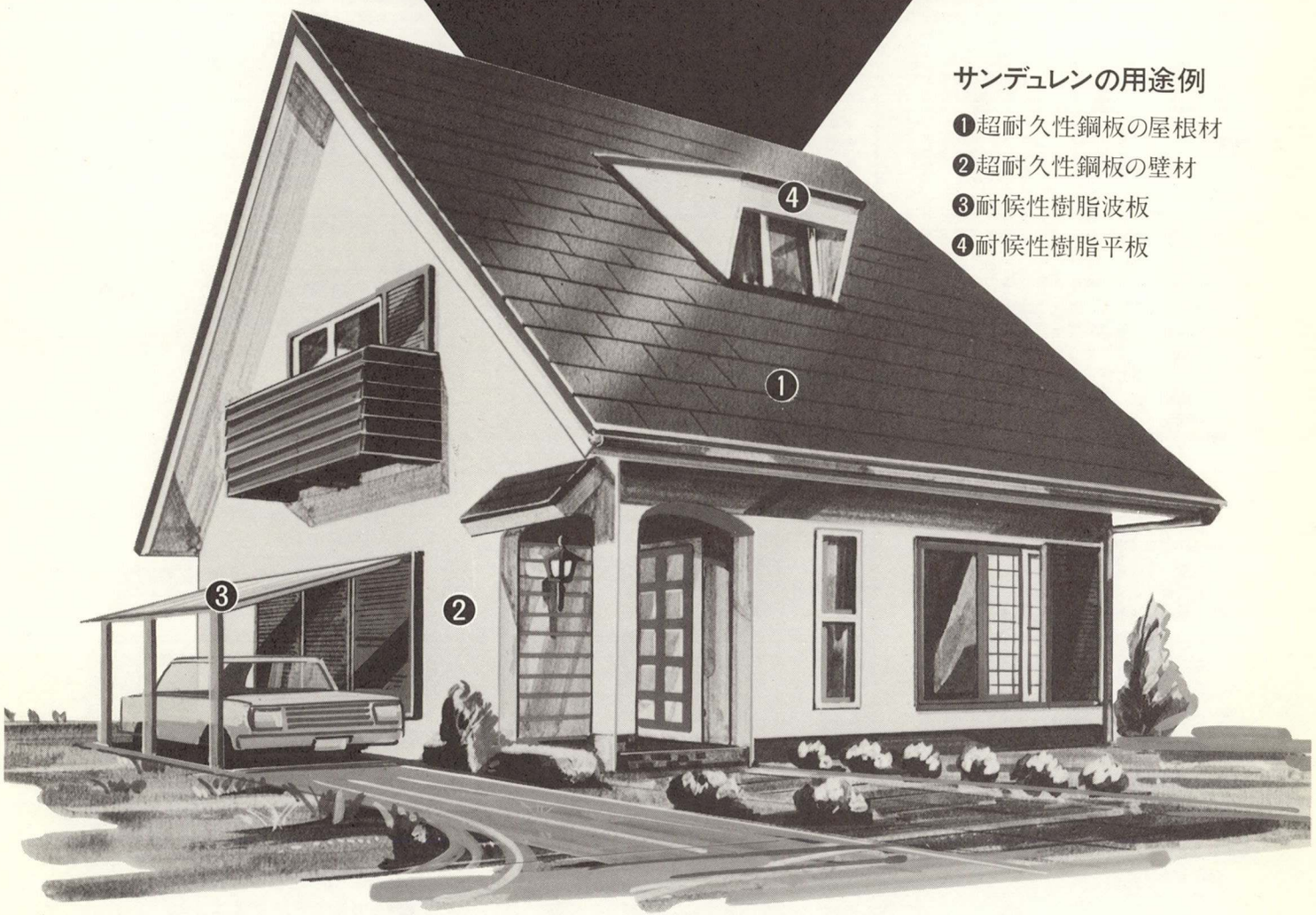
(あまの　ひろとし
鐘淵化学工業株式会社特殊樹脂事業部開発室主任)

太陽光線にも断然強い！

実証済みの

耐候性MMA系フィルム

サンデュレン



サンデュレンの用途例

❶超耐久性鋼板の屋根材
❷超耐久性鋼板の壁材
❸耐候性樹脂波板
❹耐候性樹脂平板

鐘淵化学工業株式会社

本　　社(〒530) 大阪市北区中之島3-2-4朝日新聞ビル
電話　大阪(06)208-6331(ダイヤルイン)

東京支社(〒107) 東京都港区元赤坂1-3-12赤坂センタービル
電話　東京(03)405-1015(代表)

日本建築協会

月間の動き

昭和60年３月分

評　議　員　会

定時評議員会
27日　5時～5時40分　於本会会議室
出席者　西村良平副議長ほか38評議員（委任状を含む）、佐野正一会長ほか３名
議事 (1) 評議員会議長、副議長互選の件
(2) 副会長２名、理事21名選任の件
(3) 役員重任承認の件
(4) 昭和60年度事業計画承認の件
(5) 昭和60年度収支予算承認の件

理　事　会

常任理事会
27日　4時～4時50分　於本会会議室
出席者　佐野、薬袋正副会長ほか11名
議事 (1) ㈶日本建築総合試験所理事２名推せんの件
(2) 建築士及び建築士事務所実態調査に伴う経費の分担金支出承認の件
(3) 第５回大阪都市景観建築賞後援の件
(4) 第23回関西建設人ゴルフ大会後援の件
(5) 事務局職員定年に関する件
(6) 会員増加活動に関する件
(7) 入退会者承認の件
(8) 報告事項

編　集　委　員　会

第10回作品作風小委員会
6日　4時～6時　於本会会議室
出席者　加藤俊明副委員長ほか４名
議事 (1) 最近の掲載状況報告
(2) 新建築調査表の選定
(3) 新企画頁の内容検討
(4) 来年度副委員長の互選と委員構成の検討

7月号「水」(仮称)特集編集幹事会
13日　4時～7時　於本会会議室
出席者　吉村元男特別幹事、橋本幹事ほか７名
議事　「水」(仮称)特集の企画

委員会
14日　4時～5時　於本会会議室
出席者　井上委員長ほか６名
議事 (1) ３月号「自由様式への道・建築家安井武雄」および「建築物の基礎を考える」特集経過報告
(2) ４月号「情報化をめぐる建築・都市事情」特集報告
(3) ５月号「ホール―それが生みだす文化」特集経過報告
(4) ６月号「外壁材料―最近の外壁」特集報告
(5) ７月号「水」(仮称)特集編集幹事会報告と大阪国際見本市会場施設特集について
(6) 計画特集の企画―計画分科会の報告をもとに
(7) 小委員会報告（作品作風）
(8) 次年度予算および委員について
(9) 収支状況報告、そのほか

第３回計画分科会
14日　5時半～8時半　於本会会議室
出席者　田中直人幹事ほか７名
議事 (1)「建築と社会」の計画特集の今後の方向
(2)「都市とスポーツ」特集の企画
(3) ９月号、１月号計画特集の企画について
(4) 雑誌冒頭グラフィック頁について

第11回投稿欄小委員会
15日　4時～6時　於本会会議室
出席者　中馬副委員長ほか３名
議事 (1) ４月号以降の企画
(2) 60年度の小委員会のあり方

第８回法令分科会
20日　2時～3時半　於本会会議室
出席者　松井幹事ほか２名
議事 (1) 法令コーナーの企画
(2) 新年度法令分科会の委員構成

第12回広告企画小委員会
26日　4時～5時20分　於本会会議室
出席者　渡辺副委員長ほか６名
議事 (1) ３月号「建築物の基礎を考える」「自由様式への道・建築家安井武雄」特集広告報告
(2) ４月号「情報化をめぐる建築・都市事情」特集報告
(3) ５月号「ホール―それが生みだす文化」特集広告報告
(4) ６月号「外壁材料―最近の外壁」および「くにうみの祭典」特集広告企画
(5) ７月号「水」(仮称)特集報告および「大阪国際見本市会場施設」特集広告企画
(6) 作品作風関係報告

事　業　委　員　会

第７回若い会員の集い小委員会
5日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　山形副委員長ほか13名
議事 (1) 前回の事業委員会の報告
(2) 本年度の小委員会活動
(3) 次年度の企画並びに申送り事項
(4) 次年度の小委員会構成

第７回見学会小委員会
7日　6時～7時45分
出席者　上出副委員長ほか９名
議事 (1) 前回の事業委員会の報告
(2) ２月の見学会の実施報告
(3) ３月の企画
(4) 次年度の見学会の企画並びに申送り事項
(5) 次年度の小委員会構成

第７回広報小委員会
12日　6時～7時　於なだ万新大ビル店
出席者　西村・原見両副委員長ほか７名
議事 (1) 前回の事業委員会の報告
(2) 本年度小委員会活動の報告書について
委員会終了後同所において懇親会を行った。

委員会
14日　0時半～2時40分
出席者　佐野会長、三品委員長ほか７名
議事 (1) 各小委員会の事業報告並びに事業企画
(2) 次年度事業委員の編成
(3) その他

臨時広報小委員会
26日　6時～9時　於本会会議室
出席者　原見副委員長ほか９名
議事 (1) 前回の事業委員会の報告
(2) 次年度の小委員会、その他

若い会員の集い打合せ
28日　7時半～9時　於本会会議室
出席者　山形副委員長ほか５名
議事　次年度の委員編成、その他

出　版　委　員　会

設備トラブル研究会
13日　10時半～13時　於本会会議室
出席者　中村堯氏ほか５名
議事　建築設備トラブル集空調篇〈プロのノウハウ〉の原稿の打合せ

委員会
19日　4時～5時半　於本会会議室
出席者　須賀委員長ほか７名、学芸出版社１名
議事 (1) 選書と〈プロのノウハウ〉の執筆者問い合わせ報告
(2) 発行計画
(3) 今後のテーマと執筆者選定
(4) 次年度委員会の構成

教　育　委　員　会

19日　6時半～8時半　於本会会議室
出席者　多胡委員長ほか６名
議事 (1) 講習会・工高生教育両小委員会の本年度事業報告
(2) 次年度の事業計画
(3) 次年度の委員編成
(4) その他

建　材　委　員　会

28日　3時半～6時
出席者　牧田委員長ほか10名
材料説明「ライフロン」担当：尾松一夫委員
議事 (1) 今後の検討建材
(2)「新建材紹介コーナー」掲載予定

建　築　ク　ラ　ブ

朝食会
12日　8時半～10時　於大阪グランドホテル
出席者　69名
当日は、アサヒビール㈱常務取締役の佐々木欽也氏より、「最後の海軍大将井上成美の思い出」と題して、井上氏の先見性と、信念で生きぬいた人生についての挿話などを伺った。

役員会
28日　5時～6時半　於本会会議室
出席者　塚本代表、佐野会長ほか７名
議事 (1) 役員半数交代と正副委員長互選の件
(2) ５月以降の講師、紹介者、司会者決定の件
(3) 昭和59年度収支決算承認の件
(4) 昭和60年度収支予算承認の件

建築８団体会長午餐会

11日　0時～2時　於大阪ガスビル
出席者　各団体会長、支部長、副会長、事務局長など31名

建築８団体事務局打合会

20日　0時～2時　於大阪設監協会会議室
出席者　構成８団体各事務局
議事 (1) 60年度新年交礼会決算報告
(2) 当番会引継の件
(3) 61年度新年交礼会に対する意見

建築５団体事務局打合会

20日　2時～3時　於大阪設監協会会議室
出席者　構成５団体事務局
議事　建築関係団体合同忘年懇親会、その他

建築業務基準委員会

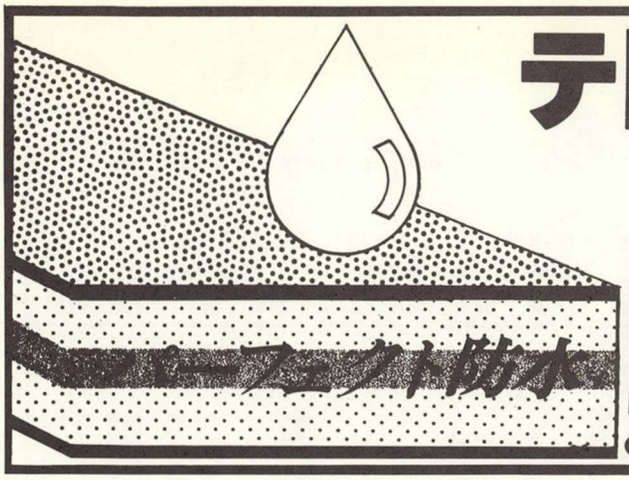
5日　2時～4時　於日本建築士会連合会
出席者　構成16団体各委員
議事　建築業務基準について（継続）

建築防災関係法令研究連絡会

25日　2時～4時　於建築家会館会議室
出席者　構成７団体各委員
議事　各提出資料の説明

３月の入会者　（敬称略）

〔個人会員７名〕
加賀和伊久男　中本　力　津路　善己
平田　定男　山梨　清松　山宮喜久二
山本　晶三



テトカッパー防水層

防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は（一層防水）施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーバータイト　オクロン防水帯　新工法　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社	東京都中央区銀座8—4—9	電話03（571）2703
大阪事務所	大阪市淀川区東三国6—1—41	電話06（391）1081-2
埼玉営業所	埼玉県桶川市東1—3—30	電話0487(74)2845-6
厚木出張所	神奈川県厚木市金田259	電話0462（21）1761
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話052（811）3660
九州出張所	佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450	電話0952（47）2945

■防火・防煙シャッター　■軽量シャッター
■ステンレスシャッター　■クリスタルシャッター
■アルミニュームシャッター　その他特殊シャッターの製造

アフターサービスの24時間態勢完備

鈴木シャッター販売株式会社

大阪市北区茶屋町5番2号	電話大阪（06市外局番）371代表	4151～6
北陸営業所　金沢市長田町119番地	電話金沢（0762市外局番）	65—5135～6
神戸営業所　神戸市長田区大橋8-4-7	電話神戸（078市外局番）	611—7971 631—2021

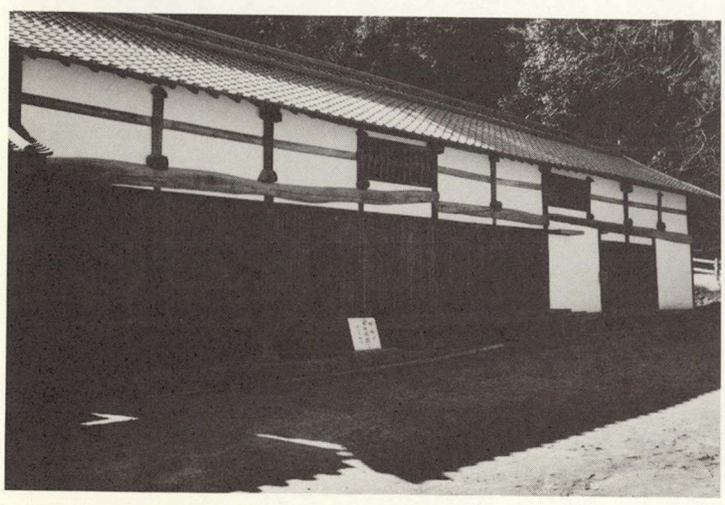
防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シャッター

東洋シャッター株式会社

本社：大阪市東区両替町1—12 日生ビル　☎（943）6571代表
東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市





空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話（434）6171（大代）
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302）2271（代）
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131（代）
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町1-35-8　電話（667）3431（大代）
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

空調・衛生
防災・汚水処理　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号 電話 大阪372局7151（代）
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4944（代）
神戸市中央区下山手通6-2-8 電話 神戸341局5892

空気調和・衛生設備 設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06—363—1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03—344—1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06—363—1371
支　店　仙台市大町2丁目2番10号　電話0222—61—3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052—581—8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話082—247—4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092—761—3795
出張所　青森・秋田・宇都宮・千葉・横浜・福井・京都・神戸・松江・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計施工

大阪電気暖房株式会社

本　店　大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　〒550 電話(06)441-8231(大代)
東京本社　東京都中央区銀座2丁目2番17号　〒104 電話(03)535-5251(代表)
支　社　名古屋・大阪・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・天理・岡山・広島・高松
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・京都・神戸・徳山・松山・高知・北九州・熊本・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・松江・徳島・長崎
海外支店　シンガポール・ホンコン

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む——

株式会社精研

本　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11番16号（オートセンタービル1.2階）
郵便番号542　電話 大阪(06) 768—5031代表
メンテナンス部　電話 大阪（06）768—1655 1代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号（九段ビル2〜4階）
郵便番号102　電話 東京(03) 262—3241代表

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備　■その他管工事一切の設計・施工

斎久工業株式会社

本　社　東京都千代田区大手町2-6-2（日本ビル）
電話　03-(270)-7411(代)
大阪支社　大阪市北区中之島4-2-38　電話 06-(443)5041(代)
支　店　札幌・岡山
営業所　仙台・千葉・横浜・名古屋・金沢・四国・広島・福岡
出張所　福井・倉敷・松山・宇都宮・静岡・苫小牧

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜1丁目2番6号（新大ビル）
電話　(06) 344—6031　(代)
本　社　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第二別館)
電話　(03)　279—5671　(大代)
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

空気調和設備
給排水・衛生水道
電気設備
厨房

環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

三機工業株式会社

取締役社長　玉置純治郎
取締役支店長　杉浦敏郎
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話　大阪(202) 代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国・シンガポール
営業所　横浜・静岡・豊田・岡山・金沢・新潟・香港



創業1901
須賀工業株式会社
大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 TEL.06—441—5171(大代表) 〒550

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京支店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—344—1851(大代)　大阪支店☎06—448—5851(代)
名古屋支店☎052—211—1535(代)　九州支店☎092—431—2147　営業所：札幌・仙台・横浜・京都
神戸・広島　出張所：新潟・金沢・大宮・静岡・豊田・岡山・松山・熊本・鹿児島・沖縄・バンコク

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津６丁目８番４号　**電話大阪(458)3531番**
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

第一工業株式会社
大阪支店

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満３丁目６番１４号
電話　０６—３６４—６６６１(代表)
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内３丁目３番１号
電話　０３—２１１—８５１１(代表)

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町２０番地の１
電話(681)５１０１～５・夜間専用(691)1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352—3501(代)
三重支店　津市栄町２—１１１　電話(0592)26—3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53—7431(代)
滋賀営業所　大津市中央２丁目4-28　電話(0775)22—9738(代)

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

高砂熱学

大阪支店　大阪市北区芝田1丁目4-8(北阪急ビル９階)
電話　大阪(372)２５１１　(代表)
本　社　東京都千代田区神田駿河台４丁目２番地

Carrier
冷暖房はキャリア
CARRIER

東洋キャリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町４０番３８号
電話大阪(384)1201～7

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靭本町３－１－２７　TEL(443)８０７１
本　社　東京都中央区京橋２丁目９　TEL(562)１３５１
支　店　名古屋・福岡

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(606)1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992(26)4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館　☎08682(4)1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城　沖縄印刷団地　☎0988(55)6100

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本社：設備部
大阪営業所　大阪市北区西天満５-11-12　電 06—313—1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町９－３　電0720—49—2128

空気調和設備・給排水衛生設備・上下水道施設
環境衛生施設・公害防止施設／設計・施工・監理

山田工業株式会社

本　社　大阪市西区京町堀１－６－８　電話 06(443)8161(大代表)
(環境装置事業部専用)　電話 06(447)0831　(代表)
分析センター　大阪市淀川区三津屋南1-1-35　電話 06(308)1491
支　店　東京・名古屋・福岡
営　業　所　京都・神戸・姫路・広島・高松・松山

電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東 京・名 古 屋・舞 鶴・京 都・天 理
大 阪 南・神 戸・広 島・四 国・九 州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574) 0 6 6 5 福岡出張所 TEL 福岡092(771) 6 1 6 8

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 土 井 敏 裕

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電 話 (361) 3 6 7 1 (代)
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電 話 (671) 1 4 7 8 (代)
出張所 川 崎・相 模 原・堺・滋 賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
大 阪 支 社

大阪支社長 横 田 幸 一

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪 (202) 0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
営業所・出張所 全国主要都市2ヶ所

総合設備工事《設計・施工》
建築・電気・通信・送電線・プラント・計装・空調・土木

太陽工藤工事株式会社

取締役会長 小 林 四 郎
取締役社長 代 谷 正 元

本社 大阪市福島区福島7－22－8 Tel 06-452-1151(大代)
東京 東京都港区芝2－2－17 Tel 03-454-7311(大代)
支社 福岡・広島・名古屋・神戸・京都

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設 計 施 工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル) TEL 06(364)1471
TELEX 523－3287
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504)0231
TELEX 222－6724
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991)5131
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881)5571

内外産建築用大理石 テラゾーブロック
花崗岩・其ノ他石材 テラゾータイル
ネオパリエ 各種カラー平板

株式会社 旭大理石工作所

本社工場 〒535 大阪市旭区中宮1丁目10番9号 電話(06)954-6661代表
京都工場 〒610-03 京都府綴喜郡田辺町大住 電話(07746)2-0374
岡山工場 〒709-04 岡山県和気郡和気町大字原 電話(08699)3-1365

電気・計装・空調工事 設計施工

ヤマト電気エンジニアリング株式会社

取締役社長 山 本 永 造

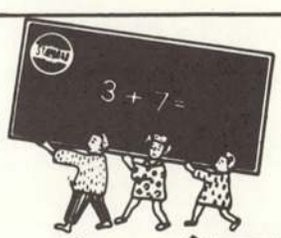
本 社 大阪市北区西天満5丁目1番3号
TEL 06－364－3056 (代)
支 店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量

ナニワ緩勾配瓦

3寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦

ナニワ瓦株式会社
大阪市東淀川区元町一丁目七四 電話(41)五〇六五



Standard Board&Slate

フタバ工業

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5 TEL 大阪06(792)5858(代)

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

岡田ペーパー株式会社
OPCo
大阪市西区北堀江２丁目５番20号
ＴＥＬ 06－531－4601(代)
06－541－2305(代)
フロアーサンディングシステム関連商品
研磨材料 & 研磨機器
布紙ペーパー & ジスクペーパー

営業種目
●防　水　工　事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹　付　工　事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－２１
星和地所扇町ビル201 S
TEL 06(315)0701
(株)特殊技研

建設業界をアシストする
ポゾリス
■コンクリート用混和剤　■無収縮グラウト材
■鉄筋コンクリート用防せい剤　■工業用特殊床材
製造元 日曹マスタービルダーズ株式会社
販売元 ポゾリス物産株式会社
本　社/東京都港区六本木3－16－26 ☎03-582-8811
大阪営業所/大阪市東区北浜３－７ ☎06-202-3294

デンカCSA　デンカセメント
セキサンバイル(S M.AC.PC.RC)
カネライトフォーム.ALC.鋼材
建築材料一式
浜宗産業株式会社
代表取締役 濱岡　浩
本　社　〒629-31 京都府竹野郡網野町字網野
ＴＥＬ　(07727)2－２２２０(代)
舞鶴営業所　〒624　舞鶴市福来１６０-1
ＴＥＬ　(0773) 76－0133(代)

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した,二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA……コンクリートのひびわれ防止に
(膨張性混和材)
●デンカタスコン……鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
(グラウト用無収縮材)
●デンカキューデックス……コンクリート躯体の漏水補修に
(止水・補修用急硬セメント)
●デンカES……地盤補強用薬液注入
(土質安定用急硬材)
●デンカΣ1000……コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
(製品用超高度混和材)
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）２７２－８５０１
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１
光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００
株式会社 トーゴー/本社
TEL 滋賀・守山（０７７５）８３－２３８１

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
・オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
・オリエンタルメタル(ＯＰＭ)



電発竹原火力石炭庫屋根に採用

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ホーンタイト(防音壁)・其の他

※ カタログを御請求下さい

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
営業部　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷
姫路(東洋建材工業，株)
東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北

出版案内　学習に実務に役立つ優良図書

新刊　構造設計者のための　井上允彦 著
うっかり間違える構造力学
■ B6・93頁　定価1,200円・送料200円

施工しやすい配筋の指導書
建築 配筋読本
●改訂版
井上　博・北小路宏 共著
■ B5・162頁
定価3,200円・送料300円

実用的でわかりやすい溶接
増補 溶接読本
井上　博 著
親しみやすさと読みやすさに重点をおいて執筆された溶接の入門書。
■ B5・157頁
定価3,000円・送料300円

専門技術者のための
建築構造問題快答集 5
■ A5・366頁　定価3,800円・送料300円

接着工法の決定版
建築の接着工法
西　忠雄 監修
本書は設計・施工に必要な接着工法の決定版の名に恥じない充実した内容の参考書。
■ B5・430頁
定価3,000円・送料400円

知っておきたいわかる設備
建築 設備読本
I　給排水衛生設備篇
井上　博 著
■ B5・171頁
定価3,200円・送料300円

目と手で確かめた水と土の記録　北中克己 著
増補 最新場所打ぐい工法
■ A5・341頁　定価3,500円・送料300円

計画➡設計➡施工➡技術の総合専門誌
月刊 建築技術 1985 7
No.407　予定目次　定価 1,000円

新しい型わくを使ってみて……編集部ほか
—ダンボール型枠・AS型枠・ネット型枠他—
鉄筋ガス圧接を早死にさせる要因……横川　孝男
—12　ケ　条—

▶大規模地下工事の施工計画と計測管理……大泉　裕也
—国立国会図書館別館工事—
▶中央郵便局の補修改修工事……観音　克平
▶アンボンド PRC 工法による清掃工場 RC 壁のひび割れ……那須　敏男
▶フッソ樹脂系塗料の建築への利用……宮本　宏明
▶高度情報化社会における建築生産……寺井　達夫
—建築 CAD の現状と課題—
▶柱脚の設計・施工—埋込型—……田中　一好

●建築経済統計図表●フォトニュース●トピックス●建築家の良識
●読者コーナー●海外の話題●建材の動向　その他

全国書店18日一斉発売！（最寄りの書店にご注文下さい。）
直接購読ご希望の場合の年間予約金　12,000円(送料共)

〒160 東京都新宿区北新宿 1-8-1　中島ビル８Ｆ　建築技術　振替口座 東京0-72417番　☎東京03(363)4211(代)

北辰式 機械掘深礎

安くて、早くて、安全であり、基礎の信頼性は最高です。

例えば以下に各場所打杭の経済比較をして見ます。 昭和58年８月現在

長期軸力N＝1,300t 掘削長33m 実長19m(手掘は19mで試算) 横浜駅前の工事を例にとる

項目＼種別	機械掘深礎	手掘深礎	ベノト	アースドリル	リバース	リバース拡底杭
掘削費	1,262,109	1,649,731	1,524,555	1,540,495	3,750,000	3,029,400
材料費	879,017	923,033	1,996,314	2,235,626	2,235,626	2,006,390
フーチング等	343,680	343,680	952,480	1,157,100	1,157,100	454,720
合計	2,484,806	2,916,444	4,473,349	4,933,221	7,142,726	5,490,510
１ｔ当り単価	1,911	2,243	3,795	3,795	5,494	4,223
比率	1.0	1.2	1.8	2.0	2.9	2.2

▶上表はリバース拡底杭を主たる対象にして比較して見たものでありますから軸力が比較的大きなものです。長期軸力800ｔ～1,800ｔ位のものをリバース拡底杭と比較して見ますと大体30%前後の利益差が出る事が各現場の比較見積で立証されています。

▶各杭との経済比較をして軸力400ｔ以上のものですと経済的に利益差が表れ、軸力が大きくなるほど、その利益差も大きくなります。杭設計をされる時、何時でもお気軽にご相談下さい。各場所打ち杭に限らず、既製杭等とも比較してご満足のゆかれるお答えが出せるものと思います。

▶礎底部拡大工事が目視掘削(人力による)であるから支持地盤の確認が出来、必要に応じて孔底支持点で平板載荷試験も出来ますので杭の信頼性は抜群です。

▶これに対し礎底部を人力で掘削するからといって危険視する方もありますが、昭和59年12月までの約11年６カ月間に587現場、18,697基(本)348,181ｍの施工実績(機械掘深礎のみ)を持っておりますが、礎底拡大工事においては全工事無事故の実績を持っています。

北辰工業の掘削機「ストロング」は

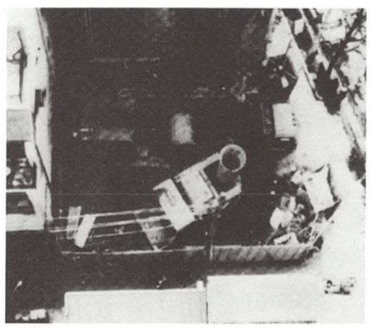
特許996655号

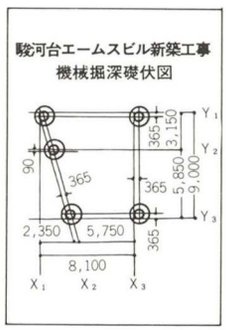
世界最小で世界最強の掘削機です。

◇オールケーシング工法で、2,000φをG.L－60ｍ(実績62m)1,500φをG.L－70ｍ(実績62m)の掘削能力があります。

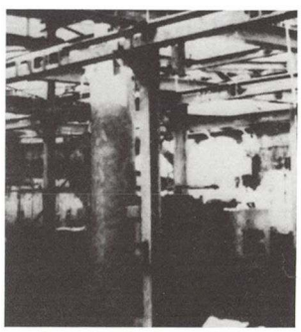
◇オールケーシング工法(ベノト式)で、コーナー、壁際で偏芯の心配がありません。境界から杭の外周まで、またはコーナーで両側に300mm前後あれば施工出来ます。

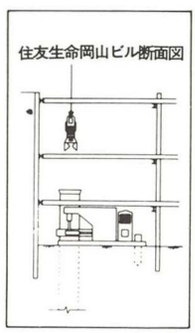
◇稼動時の騒音は5m以内で80ホン前後、振動は50デシベルまでで各許容範囲内です。





こんな狭い現場でも容易に施工出来ます。





また根伐底でも施工出来ます。

常に場所打杭の信頼性と経済性を追求して止まない

北辰工業株式會社

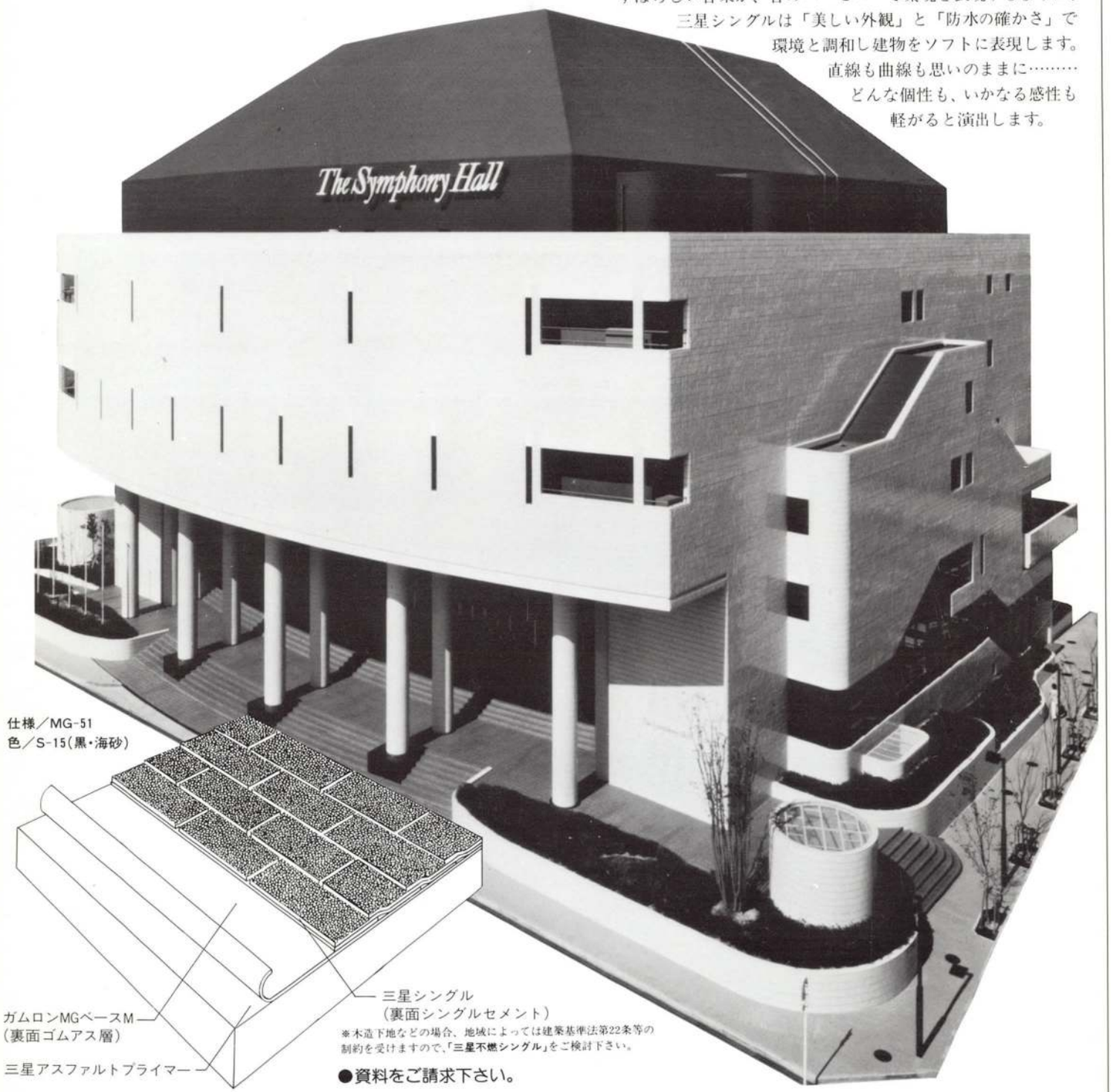
本　社 〒150東京都渋谷区桜丘町24-4
TEL 03－462－1581
大阪支社 〒530大阪市北区東天満2-1-23
TEL 06－352－0276

建築と社会　第66輯第5号
昭和60年5月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可
社団法人　日本建築協会　〒530　大阪市北区梅田1-の1-の3の2-100　電話大阪06(348)0635
（表紙デザイン・吉引顕久）
定価九五〇円（送料共）　振替口座大阪一三九九七五番　正会員の購読料は会費に含めて徴収

音楽がこだまする屋根。

三星シングル ——「美しい外観」と「防水の確かさ」のハーモニー!!

すばらしい音楽が、音のハーモニーで環境を表現するように、
三星シングルは「美しい外観」と「防水の確かさ」で
環境と調和し建物をソフトに表現します。
直線も曲線も思いのままに……
どんな個性も、いかなる感性も
軽がると演出します。



※木造下地などの場合、地域によっては建築基準法第22条等の制約を受けますので、「三星不燃シングル」をご検討下さい。

●資料をご請求下さい。

ザ・シンフォニーホール
設計施工／大成建設㈱大阪支店

西日本三星シングル工事協同組合
田島ルーフィング株式会社

大　阪：〒550 大阪市西区京町堀1-10-5　電話 (06)443-0431
東　京：〒101 東京都千代田区岩本町3-11-13　電話 (03)862-8531
広島市中区西平塚町8-13(立駐広島ビル)　電話 (082)246-8625
高松市栗林町2-8-1(栗林ハイツビル)　電話 (0878)34-5362
福岡市中央区赤坂1-14-23　電話 (092)712-0800